

和久立  
辰譯述

西史肇要

卷八

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

分類	第	號
歷史科學門		
北亞門史部		
州給象國	總記	類
輿	詳註	次
全	冊 / 內第	冊
分類	第	號
253.038		

24643

T 1A1  
24  
W 35



米國 烏斯多爾原撰  
日本 和久正辰譯述

沿革表解説

(一) 沿革表ハ史ヲ學フノ捷徑ナリ恰モ地圖ニ依テ地理ノ學ヲ修ムルト同一般ニシテ假ニ年代ヲ左側ヨリ右側ニ向テ流下スルモノト為シ以テ一目ノ下ニ字内列國沿革亂興亡ノ跡ヲ瞭然タラシム

(二) 此表ヲ用フル者ハ固ヨリ地理學ノ要旨ニ

通曉シ兼テ表中各國ノ位置大小ヲ詳ニスル者  
ト假定セリ故ニ表中各國ノ區域ヲ一目セハ其  
廣狹治亂并ニ大小ヲ明ニスルヲ容易ナリトス  
環宇ノ内未夕史ニ載セサル所ノ地（原之ヲ例セ  
ハ埃及及ヒ  
バルバリー諸國以外  
亞弗利加全洲ノ如シハ總テ表中ニ録セス  
(三) 各國ヲ列擧スルニ概子地理學上ノ順序ニ  
從フト雖凡一國ノ中往々征略占取ニ因リ其位  
置常ニ相接スルヲ得サルモノアリ是マク止ム  
ヲ得サルナリ是ヲ以テ國同シキモノハ其區域  
ヲ異ニスルモ之ヲ彩色スルニ同一ノ色ヲ以テ

シ者ル者ヲシテ一目瞭然某ノ時代ニ在テハ某  
國ハ何々ノ封境ヲ以テ構成シタルヲ明知ヒシ  
ムルヲ得ヘシ但夕之ヲ區分スルノ色類ニ乏シ  
ト雖凡之ヲ用フルニカメテ讀ム者ヲシテ誤ナ  
カラシメント欲スルナリ  
(四) 全表中載ス所二千七百年ヲ包括ス即チ紀  
元前八百年ヨリ第十九世紀ノ末ニ至ル垂線ヲ  
以テ之ヲ二十七部ニ等分シ其線間ノ空隙ヲ一  
百年トス

(五) 表中亞米利加ノ部ニ於テ其左側ニ列叙ス

ルモノハ洪水以後耶蘓紀元ノ前八百年ニ至ル  
マテ隆榮ヲ極メタル古大國ナリ

(六) 平線間ノ空隙ハ列國ノ沿革ヲ示シ斜線ハ  
一國ノ漸ク興テ他國ヲ侵略スルノ状ヲ表明ス  
ルモノナリ之ヲ例セハ羅馬人ノ不烈顛ヲ征服  
セシハ紀元後四十三年ニ起リ八十四年ニ成ル  
カ如シ

(七) 表中記ス所ノ事變ニ就テ其年代ヲ詳ニセ  
ント欲セハ紀元前ナレハ右ニ向ヒ紀元後ナレ  
ハ左ニ於テ其線上ノ數字ヲ次欄ノ世紀ニ加算

ス可シ然ラハ則チ其合計ヲ以テ紀元前若クハ  
紀元後何年何月ナルヲ明知ス可キナリ

(八) 今ソノ例ヲ舉クレハ埃及ハ紀元前二千百  
八十八年ニ開國シアブラームノ天旨ヲ奉シテ  
其地ニ至リタルハ千九百二十一年ナリ羅馬ノ  
國基ヲ創シタルハ紀元前七百五十三年ニシテ  
ヘルリ―族ノ伊太里ヲ侵略シ以テ羅馬西帝國  
ヲ立シタルハ紀元後四百七十六年ナリ而シテ  
トルクス族ノ羅馬東帝國ヲ滅シタルハ千四百  
五十三年ナリ

(九) 眼ヲ平行ニ放テ左ヨリ右ニ向ヘハ列國ノ興廢并ニ進歩ノ狀勢ヲ詳ニス可シ或ハ數州ヲ以テ成ルモノアリ或ハ一タビ衰廢シテ復タ興ルモノアリ

(十) 眼ヲ轉シテ表中ヲ上下ニ注目スレハ何レノ國ハ何レノ時ニ在テ隆盛ヲ極メタルヲ知ル可シ紀元前五百年代ニ在テハ波斯帝國大ニ興リ巴比倫帝國其他亞細亞洲中ノ諸國ヲ併吞シ兼テ埃及ヲ略ス希臘諸州分裂シテ各獨立シ羅馬ハ共治國ト爲リテ境域甚ク狹ク歐洲ノ中部

及ヒ北方諸國ハ猶ホ獨立シテ外敵ノ侵略ヲ受ケス

(十一) 紀元後百年代ニ於テハ宇内足跡ノ及フ所概子羅馬帝國ノ版圖ニ歸シ又タ遠ク不烈顛ヲ征服ス但タアイリツシ族スコツツ族并ニ歐洲

北方ノ諸國及ヒ巴爾斯亞亞刺比亞印度支那(原)當時ルモノ存立ヲニ至リテハ其侵略ヲ被ルナシ

(十二) 紀元後八百年代ニ當テ三大帝國アリ薩拉丁帝國佛蘭克帝國及ヒ東部即チ希臘帝國是ナリ而シテ羅馬西帝國ハ三百余年ヲ經テ竟ニ亡

ヒ倫巴德王國尋テ又夕滅了ス英國ハサキソシ  
統ノ君主之ヲ治メ分テ七國ト為ス威爾斯蘇古  
蘭及ヒ愛倫各獨立シテ北方ノ王國未夕成立セ  
ス羅馬教王漸ク世事ニ干涉スルノ端ヲ發キサ  
ラセンス族西班牙ノ大半亞刺比亞及ヒ波斯ノ  
全部東部即チ希臘帝國ノ大半埃及及ヒ巴々里  
ノ全部ヲ占取ス

(三) 紀元後千三百年ニ及テ瑞典諾威及ヒ丁抹  
ノ三王國各分立シ方今魯西亞帝國ト為ル所ノ  
地概チモイグルス族按蒙古人ナリノ所有ニ屬シ波蘭

及ヒ里斯亞尼ハ各獨立シ英倫ハ蘇格蘭ト離レ  
テ威爾斯及ヒ愛倫ニ合シボヘミア及ヒホンガ  
リハ互ニ自立スルモ佛國ノ大半ハ英國ニ屬  
シロラインアルセース及ヒボルゴンデーハ  
佛國ノ所轄ヲ離レ伊太里及ヒ西班牙ハ數州ヲ  
包含シムールス族西班牙ノ一部ヲ略ス葡萄牙  
ハ一獨立國ト為リ東帝國猶ホ存立スモイグル  
ス族波斯ノ全部東部即チ希臘帝國原近世ノ土  
耶其ナリ  
支那及ヒ魯西亞ノ一部ヲ略シマノルクス族ゼ  
ルセルム王國及ヒ埃及ヲ占取ス

西史要略 卷之八  
千八百年代ニ至リテハ丁抹諾威ニ屬シ後  
チ幾モナク瑞典ニ合ズ波蘭王國分裂シテ魯西  
亞墮地利及ヒ普魯斯ノ三大國ヲ成シ今ニ於テ  
隆盛ヲ極ム荷蘭紐折爾蘭及ヒ伊太里ノ大半尋  
テ佛國ニ屬シ後チ幾モナク復タ分立ス子一  
ルスハ一獨立國ト為リトルクス族ハ太古史中  
諸大國ノ大半ヲ占有シワハビース教徒ハ亞刺  
比亞ノ大半ヲ略シ英國人ハ印度ノ大半及ヒ加  
拿陀ヲ取ル北亞聯邦ハ英國ノ所轄ヲ離レテ獨  
立スルモ亞米利加洲中西屬ノ地ハ依然トシテ

西班牙ノ管治ヲ受ケブラシルハ葡萄牙ニ屬ス  
然レ既後チ幾モナク皆ナ獨立スルニ至レリ  
(五) 米國諸州ノ左邊ニアル數字ハ各其侵略若  
クハ開疆ノ年代ヲ示シ其右側ニアル數字ハ各  
其獨立ノ年代ヲ表ハスモノナリ之ヲ例セハ英  
人ノビルチニヲ開キタルハ千六百七年ニシテ  
ニウ、エングランドニ移住セシハ千六百二十年  
ナリ北亞聯邦ノ獨立セシハ千七百七十六年ニ  
シテ西人ノ墨西哥ヲ征服セシハ千五百二十一  
年ナリ降テ千八百二十一年ニ至リ其國終ニ獨

立ス

(六) 表中示ス所ノ四大古國ハ亞西里亞即チ巴比倫帝國波斯帝國馬基頓帝國及ヒ羅馬帝國是レナリ

(七) 亞西里亞即チ巴比倫帝國ハ其存立最モ古ク五百三十六年波斯帝國之ニ代リ紀元前三百三十年馬基頓帝國マタ波斯ヲ併ス馬基頓帝國ハ其境域甚タ廣シト雖モ其存立久シキヲ經ス紀元前三百一年ニ至リ竟ニ解壞ス

(八) 羅馬帝國ノ存立ハ均シク古代ニ屬シ勢威

大ニ振フ紀元前大約五十年ヨリ紀元後第五世紀ノ末ニ至リ環宇ノ内當時人跡ノ及フ所概子之ヲ包括スト雖モ竟ニハルリ一族ノ亡ス所ト為ル

(九) オストロゴス族即チ東部ゴス族ヘルリ一族ヲ逐ヒ希臘人マタ東部ゴス族ヲ逐フロンバード族希臘人ヲ攘ヒ伊太里ヲ占取シ延テ七百七十四年ニ及フ時ニフランク族遂ニ之ヲ征服シ威歐洲ニ振フモノ數百年然リ而シテ八百四十八年ニ至リ分裂シテ佛蘭西日耳曼及ヒ伊

太里ノ三國ヲ成ス

(二) 羅馬西帝國滅熄ノ後チフランク族ゴス族バンドルス族ロンバード族及ヒ匈奴等ノ蠻民歐羅巴洲中首要ノ地ヲ略取ス

(三) 薩拉丁帝國ハ第七世紀ノ央ニ至ラスシテ其基ヲ開キ連綿斷ヘス第八世紀ヲ經テ第九世紀ニ及フ國勢隆興シテ威四境ニ振フト雖氏竟ニ分裂シテ數部ト為リ千二百五十八年バグダツド教主ノ主治永ク絶熄ス

(四) 蒙古帝國ハ英傑ゼンデス、カンノ力ニヨリ

第十三世紀ノ始ニ當リ壤界最モ廣ク降テ第十四世紀ノ末ニ及ヒ韃靼人チムール、バツクマタ遠近ヲ征略スチムール、バツクハ一ニタメルラシト名ク

(五) 沿革表ヲ按スルニ英國ハ紀元前ギリドンス族ノ據ル所ト為リ紀元後第一世紀ニ及フ羅馬人之ヲ征服シ四百十年ニ至ルマテ猶ホ之ヲ有ツサキソン王統ノ七國政治ハ四百五十五年ニ起リテ五百八十五年ニ成リ八百二十七年ニ至テ終ニ止ム是ヨリ英國合シテ一ニ歸シサキ

ソン王統ノ君主相繼テ之ヲ治ム而シテダニス  
 族ノ英國ヲ占取セシハ千十三年ヨリ千四十一  
 年ニ至レリ後チサキソンス族遂ニ之ヲ復シ千  
 六十六年ニ至ル時ニウイリアム嬴王ノルマン  
 ス族ヲ率テ之ヲ征服ス愛倫ノ英國ニ屬シタル  
 ハ千百七十二年ニシテ威爾斯ハ千二百八十三  
 年ニ至リ蘓古蘭ハ千六百三年ヲ以テ各其版圖  
 ニ入ル英國ノ佛蘭西國內ニ屬地ヲ領有セシハ  
 千六十六年ニ起リ千五百八十八年ニ畢ル

〔原〕英國以外ノ列國ニシテ表中載ス所ノ

變遷ニ至テハ之ヲ會得スル蓋シ容易ナ  
 ランノミ)

沿革表問題 \*

- (一) 洪水ヨリ紀元前八百年ニ至ルマテ隆盛ヲ極  
 メタルモノハ何國ナルヤ (二) 洪水ハ紀元前ヲ  
 距ル幾年ナルヤ (三) ババールノ建塔ハ何レノ  
 時ニ於ケレタルヤ (四) 巴比倫ノ開國ハ何レノ  
 時代ナルヤ (五) 埃及ノ開基ハ如何 (六) シサイ  
 オンヲ希臘ニ開キタルハ何ノ時ソ (七) 紀元前

千四百年ニ至ラサルノ時ソノ他希臘國中ニ何等ノ府城ヲ開創シタルヤ (八) アルゴノイト艦隊ノ遠征ハ何レノ時代ナルヤ (九) ライクロヂユス在世ノ時ハ何レノ年ナルヤ (十) トロイ王國ノ滅亡セルハ何レノ時ナルヤ (十一) アブラム天旨ヲ奉シテ埃及ニ赴キタル年代ハ如何 (十二) イスレール族ノ埃及ニ奴ト為リタルハ何レノ時代ナルヤ (十三) イスレール族ノカナインニ入リタルハ何レノ年代ナルヤ (十四) 當初國王ノ之ヲ治メタルハ何ノ世ソ (十五) 其國ヲ分テ以色列

烈及ヒ猶太ノ十族ト為シタルハ何レノ時ソ (十六) 以色列ヲ亞西里亞帝國ニ併シタルハ何レノ時代ソ (十七) 猶太ノ巴比倫帝國ニ合シタルハ何レノ年代ナルヤ (十八) 肥尼亞ノ巴比倫帝國ニ屬シタル時代ヲ問フ (十九) 巴比倫帝國ハ何レノ時ヲ以テ止ヒタルヤ (二十) 之ニ代リタル帝國ハ何ソ (廿一) 波斯帝國興亡ノ時代ハ如何 (廿二) 之ニ代リタルハ何レノ帝國ナルヤ (廿三) 波斯人ノ埃及ヲ征服シタルハ何レノ時ナルヤ (廿四) 馬基頓人ノ其國ヲ侵略シタル年代ヲ問フ (廿五) アゼ

ンスパルタセーブス等ハ何レノ時代ニ於テ馬  
 基頓帝國ノ版圖ニ入りタルヤ (其)馬基頓帝國  
 ハ何レノ年代ヲ以テ解壞セシヤ (其)馬基頓尼  
 亞ノ羅馬帝國ニ屬シタル年代ハ如何 (其)プロ  
 レミー王統ノ埃及ヲ治メシ年代ヲ問フ (其)セ  
 リウシッド王統ノ西里亞ヲ治メタルハ何ノ時  
 ソ (其)プロトレミー王統ノ猶太ヲ治メタルハ  
 何レノ時代ナルヤ (其)マツカビース王統ハ何  
 レノ時代ニ於テ之ヲ治メタルヤ (其)羅馬開國  
 ノ年代ヲ問フ (其)其共治政體ノ起リタルハ何

年代ナルヤ (其)羅馬人ノ始メテ侵略シタル國  
 土ノ二三ヲ舉ケヨ (其)アルプス山以南ノゴ  
 ルス族ヲ征服シタルハ何レノ時ナルヤ (其)馬  
 基頓尼亞ヲ略シタルハ何レノ時代ナルヤ (其)  
 希臘即チアーチン盟邦ハ如何 (其)加爾塞地ハ  
 如何 (其)ゴールス族ハ如何 (其)ハルバツチ族  
 ハ如何 (其)西里亞ハ如何 (其)猶太ハ如何 (其)  
 埃及ハ如何 (其)不烈顛ハ如何 (其)羅馬帝國ノ  
 境域廣大ヲ極メタルハ第何世紀ナルヤ (其)羅  
 馬人ノ不烈顛ヲ治メタルハ何レノ時ニ至テ息

ミタルヤ (癸) スウエビーノ西班牙ヲ略シタル  
ハ何レノ時ナルヤ (癸) ヘルリー族ノ伊太里ヲ  
征略セシハ何レノ年代ソ (癸) フランク族ノ  
帝國ヲ開創シタルハ何レノ時代ニ起原セルヤ  
(辛) 其境域ノ廣大ヲ極メタルハ第何世紀ナル  
ヤ (至) ロンバード族ノ王國ヲ伊太里ニ開キタ  
顛末ヲ問フ (至) 薩拉丁帝國ハ第何世紀ニ起原  
セルヤ (至) 其隆盛ヲ極メタルハ三世紀間ニ涉  
レリ第何世紀ヨリ第何世紀ニ至ルヤ (至) 當時  
其域内ニ包含セシ列國ハ近世ニ及テ何ト名ケ

シヤ (至) 田々教主ノバグダツドニ在テ治ヲ施  
シタルハ何レノ時ニ至テ止ミタルヤ (至) 希臘  
所屬ノナイス帝國ハ何レノ時ヲ以テ亡ヒタル  
ヤ (至) 佛國歷帝ノ東部即チ希臘帝國ヲ治メタ  
ルハ第何世紀ナルヤ (至) 東部即チ希臘帝國ノ  
亡ヒタルハ何レノ時ソ (至) 其國ヲ征服セシハ  
何人ナルヤ

近世ノ部

(一) モーゴルス族ノ帝國ハ第何世紀ニ於テ隆盛

ヲ極メタルヤ (二) 韃靼人ノ波斯等ヲ略セシハ  
 何レノ時代ナルヤ (三) 往時瑞典諾威丁抹及ヒ  
 魯西亞ニ居住セシ者ハ何等ノ民種ナルヤ (四)  
 瑞諾及ヒ丁ノ三國全ク聯結シタルハ何レノ時  
 ソ (五) 千四百四十八年ヨリ千八百十四年ニ至  
 ルノ間ニ於テ諾威ハ何國ト合同シタルヤ (六)  
 モーゴルス族即チ韃靼人ノ魯西亞ノ一部ヲ占  
 有セシハ第何世紀ナルヤ (七) 波蘭ノ分裂シテ  
 魯奧普ノ三國ト爲リタルハ何レノ時代ナルヤ  
 (八) 往時英國ニ居住セシ者ハ何等ノ民族ナル

ヤ (九) 羅馬人ノ不烈顛ヲ略有セシハ第何世紀  
 ナルヤ (十) サキソン王統ノ七國政治ハ第何世  
 紀ニ於テ行ハレタルヤ (十一) サキソン王統ノ七  
 國政治ハ何レノ時ヲ以テ畢リ其治權ヲ執リタ  
 ルハ何レノ時ニ起原セルヤ (十二) ダニース族ノ  
 英國ヲ占有セシハ何レノ時ヲ (十三) ノルマン  
 族ハ何レノ時ニ於テ之ヲ侵略シタルヤ (十四) 愛  
 倫ノ英國ニ附屬レタルハ何レノ時ヲ (十五) 威爾  
 斯ハ如何 (十六) 蘇格蘭ハ如何 (十七) 英國ノ屬地ヲ  
 佛蘭西國內ニ有シタルハ第何世紀ナルヤ (十八)

ボハミヤハ何レノ時ニ於テ墺地利王統ノ所轄  
 ニ歸シタルヤ (九) ホンガリーハ如何 (十) フラ  
 ンクス族ノ帝國分裂シテ日佛伊ノ三君主國ト  
 爲リタルハ何レノ時ツ (十一) 日耳曼帝國ハ何レ  
 ノ時代ニ於テ亡ヒタルヤ (十二) 荷蘭ノ共治政體  
 ハ何レノ時ニ起リ何レノ時ニ畢リタルヤ (十三)  
 千六十六年ヨリ千五百五十八年ニ至ルマテ佛  
蘭西國內ニ屬地ヲ有シタルモノハ何國ナルヤ  
 (十四) 將ニ千八百年ニ至ラントスル時ニ當テ佛  
 國ノ版圖ニ入りタルモノハ何國ナルヤ (十五) 瑞

西ノ共治政體ハ何レノ時ニ起リタルヤ (其) 子  
 ープルスノ西班牙ニ屬シタルハ第何世紀ナル  
 ヤ (其) 子ープルスノ獨立セシハ何レノ時ナル  
 ヤ (其) ムールス族ノ西班牙ヲ侵略セシハ何レ  
 ノ時ニ至テ息ミタルヤ (其) 西班牙ノ聯結シテ一  
 一王國ト爲リタルハ幾世紀間ナルヤ (其) 葡萄  
牙王國ノ開基ハ何レノ時ナルヤ (其) 其國ノ西  
班牙ト聯合シタルハ第何世紀中ノ一部ナルヤ  
 (其) 土耳其帝國ハ何レノ時ヲ以テ開創シタル  
 ヤ (其) 其境域ノ廣大ナル方今ノ如クナルハ幾

西ノ共治政體ハ何レノ時ニ起リタルヤ (其) 子  
 ープルスノ西班牙ニ屬シタルハ第何世紀ナル  
 ヤ (其) 子ープルスノ獨立セシハ何レノ時ナル  
 ヤ (其) ムールス族ノ西班牙ヲ侵略セシハ何レ  
 ノ時ニ至テ息ミタルヤ (其) 西班牙ノ聯結シテ一  
 一王國ト爲リタルハ幾世紀間ナルヤ (其) 葡萄  
牙王國ノ開基ハ何レノ時ナルヤ (其) 其國ノ西  
班牙ト聯合シタルハ第何世紀中ノ一部ナルヤ  
 (其) 土耳其帝國ハ何レノ時ヲ以テ開創シタル  
 ヤ (其) 其境域ノ廣大ナル方今ノ如クナルハ幾

世紀間ナリシヤ (藍) ソーピス族一ニシヤース  
族ト名ク其ノ波斯全國ヲ占有セシハ何レノ時  
ソ (藍) 波斯古帝國滅亡ノ後チ其國ヲ略有シタ  
ル各種ノ民族ハ何タナルヤ (英) ツハビース教  
徒ノ亞刺比亞ヲ管治シタルハ何レノ時ニ起原  
セルヤ (英) 英人ノ印度ヲ管治セシハ何レノ時  
ニ起レルヤ (英) 滿州ノ韃靼人支那ヲ侵略シタ  
ルハ何レノ時ナルヤ (英) 紀元前八百年以降埃  
及ヲ略有シタル各種ノ人民ハ何々ナルヤ (英)  
トルグス族ノ埃及ヲ侵略セシハ何レノ時ソ

(聖) 始テカナダニ移住シタルハ何レノ國民ナル  
ヤ (聖) 英人ノカナダヲ略セシハ何レノ時ナル  
ヤ (聖) ビルヂニアニ移住セシ者ハ何人ニシテ  
且ツ何レノ時代ナルヤ (聖) ニウ、ヨークハ如何  
(聖) ニウ、エングランドハ如何 (聖) ペンシルバ  
ニアハ如何 (聖) 北亞聯邦ノ獨立セシハ何レノ  
時ソ (聖) 亞米利加洲中歐人ノ始メテ移住セシ  
地方ハ何レナルヤ (聖) 西人ノ墨西哥ヲ征服セ  
シハ何レノ時ナルヤ (英) 後チ幾モナク其他西  
人ノ開疆シタル國ハ何々ナルヤ (聖) 民ヲ移シ

疆ヲブラジルニ開キタルハ何人ナルヤ (至)南  
 亞米利加ノ中始メテ獨立シタルモノハ何國ナ  
 ルヤ (至)幾モナク尋テ獨立シタル其他ノ國々  
 ハ如何 (至)西班牙ノ墨西哥ヲ占有セシハ幾年  
 ノ久シキニ涉リタルヤ \* (原)浴華表ニヨ  
 開基ハ紀元前二千二百二十七年ニシテ  
 紀元前二千八百九年ニ開創シアルゴス  
 開立ス其餘ミナ之レニ倣フ

年代學

年代學トハ人為天然ニ論ナク年代ノ區分ヲ論

究スルノ學ニシテ且ツ史編録スル所ノ各種ノ  
 事跡ニ就テ別ニ紀元ヲ定ム  
 古今時ノ同シカラス國ノ異ナルニ隨ヒ年代ヲ  
 計算シ及ヒ事跡ノ時日ヲ整定スルニ當テ其用  
 フル所ノ紀年マタ自ラ一ナラス今茲ニ就中ツ  
 ノ特ニ重要ナルモノ二三ヲ載録ス  
 (一) 四年期 希臘ノ人民ハ其年代ヲ計算スル  
 ニ四年期ノ紀元ヲ用フ即チ四年期ハ紀元前七  
 百七十六年コレブスノ四年期節ノ祭戲ニ羸チ  
 タルヨリ起算ス此紀元ノ他ニ異ナル所ノモノ

ハ年代ヲ算スルニ每一年ヲ以テセスシテ每四年ヲ以テスルニ在リ故ニ每四年間ヲ以テ四年期ト名ケ某事ノ時日ヲ記スルニ歷年及ヒ四年期ヲ併用ス

(二) 羅馬府ノ開基 羅馬ヲ開創セシハ紀元前七百五十三年ナリ國人之ニ基テ其年代ヲ計算シ之ニ命名スルニ *Ab M. C.* ノ三字ヲ以テス即チ羅馬文 *ab urbe condita* ノ略語ニシテ之ヲ譯スレハ開府以降ノ義ナリ

(三) 耶蘇紀元 耶蘇紀元ハ耶蘇教信奉ノ諸國

ニ於テ用フル所ニシテ耶蘇降世ノ時ヨリ起算ス之ヲ希伯來文ノ舊約全書ニ徴スルニ其降世シタルハ輿地年數四千四年ナリ薩馬里亞文ノ舊約全書ニ據レハ輿地年數四千七百年ニシテ七十二士譯ノ舊約全書ニ從ヘハ輿地年數五千八百七十五年ナリ而シテ本編ノ計年法ハ希伯來文ノ舊約全書ニ依ル英國ノ文學社會ニ於テモ大抵ミナ之ヲ用フ思フニ耶蘇ノ降世ハ蓋シ世俗ノ所謂ル耶蘇紀元ヲ距ル大約四年前ニ在リ

年代ヲ計算スルニ始メテ耶蘇紀元ヲ用ヒタルハ第六世紀ニシテ尋テ又夕羅馬年度即チジエリウス、セーサル定ムル所ノ曆年ヲ用フ是レ三百六十五日ト六時ヲ以テ一年ヲ為スモノニシテ大陽曆年ノ實數ニ越ユル一十一分時余ナリ此計年ノ法已ニ謬誤アリ故ニ千五百八十二年ニ至リ真正ノ時間ト十日ノ差異ヲ生セリ此年羅馬教王グレゴリー第十月中ヨリ十日ヲ除去シ以テ曆ヲ改メ名ケテ新式ト曰フ凡ソ舊教ヲ奉スルノ國ミナ忽チ之ヲ用フ英國ニ於テハ年

ヲ算スルニセーサル定ムル所ノ曆年（原即チ舊式ト名クルモタリト雖モ千七百五十二年ニ至リ第九月中ヨリ十一日ヲ脱落シ第二日ノ次日ヲ第十四日トス希臘及ヒ魯西亞ノ國民ハ今猶ホ舊式ヲ用フ

(四) 回教紀元 回教紀元ハマホメツトノメツカヲ去テメヂアニ走リタル時日ヨリ起算シ回教信奉ノ諸國ミナ之ヲ用フ即チ紀元後六百二十二年七月十六日ナリ

(五) 米國紀元 是國ニ於テ耶蘇紀元ニ亞テ概

子用フル所ノ紀元ハ千七百七十六年七月四日  
即チ北亞聯邦獨立公告ノ日ナリ

各種紀元ノ比較

四年期紀元ハ

天地創造以還三千二百二十八年  
羅馬開府以前二十三年  
耶蘇紀元前七百七十六年  
回教紀元前千三百九十八年  
天地創造以降三千二百五十一年

ニ對合ス

羅馬府開基ハ

第六四四年期以來四年  
耶蘇紀元前七百五十三年  
回教紀元前千三百七十五年  
天地創造以來四千四年  
第百九十五回四年期以降一年  
羅馬開府以還七百五十三年  
回教紀元前六百二十二年  
天地創成以來四千六百二十六年  
第三百四十八回四年期以降三年  
羅馬開府以還千三百七十五年

ニ對合ス

耶蘇紀元ハ

ニ對合ス

回教紀元ハ

ニ對合ス

耶穌紀元後六百二十二年

年代表

左記ノ年表ヲ以テ重大ノ紀年ヲ示シ兼テ人爲  
記憶法ニヨリ年月ノ回想ヲ容易ナラシム是レ  
概子學士グレー氏ノ記憶術ニ基テ制定スルモ  
ノナリ

年月ノ記憶ニ便ナラシメンカ為メ録スル所ノ  
名辭ニ就キ其第一分音ニ一分音若クハ一分音

以上ヲ加ヘ且ツ數字ヲ附シテ一語ヲ編成ス即  
チ一母音并ニ一子音ヲ以テ各單數ノ符号ト為  
スナリ若クハハヲ一トシ若クハハヲ二ト  
シ若クハハヲ三トシ若クハハヲ四トス以  
下之ニ倣フ左ニ列記スル所ノ如クナル可シ

o e i o u au oi oo ou ai  
i h i i i i i i i i i i  
o e t e n s i e n n s

上文掲クル所ノ文字ヲ記憶スルノ便ヲ得ント  
欲セハ須ラク先ツ其第一位ニ在ル所ノ五母音

ヲ以テ一二三四五ト為シ *au* ノ重音即チ *d* 一ト  
*u* 五トヲ以テ成ル所ノモノヲ六トスヘシ *ou* ヲ  
七トシ *oo* ヲ八トシ *ou* ヲ九トスルノ類ミナ然リ  
且ツ其理ハ一ナルヲ得サレ氏 *de* ヲ以テ零トス  
ルヲ要ス

第一子音 *h* ハ一ヲ示シ羅匈語 *deu* ハ二ノ義  
ナリ而シテ其第一字 *d* ハ二ヲ指スモノナリ英  
語 *three* ノ首字 *t* ヲ三トシ *h* モ亦タ同一ノ  
理ヲ以テ四ト爲シ *v* (原) *v* ハ羅馬數ヲ五トシ *v* 字ノ五ナリ  
*h* ノ首字 *h* ヲ六トシ *h* ノ意義アル羅匈語 *seph*

*ten* ニ基キルヲ以テ七ト為シハノ意義ヲ有ス  
ル希臘語 *deka* ニ由リ *ta* ヲ以テ八ト為シ英語  
*nine* ノ首字 *n* ヲ九トシ尾字 *e* ヲ以テ零ト為  
ス  
讀者已ニ上文列記スル所ノ序次ヲ了得セハ更  
ニ進テ左記ノ方法ニヨリ自ラ年月ヲ構成シテ  
其考定ヲ練習ス可シ

一年 二章 三章 元章 五章 一四章 五章 一三章  
*at four ten four nine eight*

此法ハ隨意ニ活用スルヲ得ヘシ故ニ上文ノ方  
法ヲ以テ語辭ヲ構成セハ名士ノ終焉英主ノ即  
位其他著跡ノ起端ニ就テ年月ヲ考定スルノ便  
ヲ得ルノミナラス其事ノ紀元前ニ屬スルカ將  
タ紀元後ニ在ルカヲ記憶スルヲ甚タ易シ且ツ  
上文已ニ解説スル所ノ聯字ノ外ヲ百トシ  
ヲ千トス

# 年代表

一〇〇四年  
 二三四八年  
 二四七年  
 二二八八年  
 九二一年  
 一五五六年  
 一四九三年  
 一四九一年  
 一三六三年  
 一八四四年  
 一〇七五年  
 八八八四年  
 七七六年  
 七五三年  
 五三六年  
 五〇九年  
 四九〇年  
 四〇〇年  
 三二四年  
 三二二年  
 一四六六年  
 三〇六年  
 四七六年  
 六二二年  
 八〇〇年  
 八二七年  
 一〇六六年  
 一〇九六年  
 一二二七年  
 一二五八年  
 一三四〇年  
 一三七〇年  
 一三九八年  
 一四四〇年  
 一四五三年  
 一四九二年  
 一五一七年  
 一六六三年  
 一六二〇年  
 一六八八年  
 一七七六年  
 一七八九年  
 一八〇四年  
 一八一五年  
 一八四八年

天地ノ創成  
 洪水  
 バヘルノ建塔人類ノ離散  
 埃及王國ノ開基  
 アララーム天旨ヲ奉シテ埃及ニ至ル  
 セクロアスアセンズヲ開創ス  
 カドニウス文字ヲ希臘ニ傳ヘセーブスヲ開立ス  
 モセイススレール族ヲ埃及國外ニ救出ス  
 アダムトイロイヲ拔キ之ヲ燬ク  
 希臘人トイロイヲ拔キ之ヲ燬ク  
 以色列國王ソウル  
 ライクロチユスラセドモンク法典ヲ改ム  
 第一四年期ノ開元  
 ロムルス羅馬ヲ創立ス  
 シリウス波斯帝國ノ基ヲ開ク  
 タルクイン羅馬ヲ逐ハル  
 マラカンノ戦  
 ソクラテス死刑ニ處セラレ  
 アレキサンデル偉帝巴比倫ニ殂ス  
 セロシツト王統ノ紀元  
 希臘竟ニ羅馬ノ所轄ニ屬ス  
 アタチヤノ戦 羅馬共和政體ノ終  
 耶穌降世 世俗ノ所謂紀元 先キヤンヌル四年ナリ  
 ゼルゼルムヲ拔キ之ヲ破壊ス  
 羅馬帝ドラジヤン  
 羅馬帝コンスタンチン  
 羅馬西帝國亡フ  
 回教紀元即チモソントノヂアニ走ル  
 歐西帝國ノチャレマン  
 エンベルト始メテ英國ヲ治ム  
 英王ウイリアム薨ス  
 始メテ十字軍ヲ起シ聖土ニ至ル  
 ゼンジスカン亞細亞ヲ略ス  
 回教帝國即チ薩拉丁帝國亡フ  
 スチワルツコロニ在テ火藥ヲ創製ス  
 ウイックリツフ其教旨ヲ英國ニ布ク  
 チトルムベツキ即チタルン地ヲ略ス  
 活版印行ノ術創メテ起ル  
 西帝國亡ビトルクス族公斯担丁堡ヲ占取ス  
 コロンブス亞米利加ヲ発見ス  
 ルーザル日耳曼ニ於テ改教ノ業ヲ起ス  
 ゴームス第一世英蘇兩國ヲ合一ス  
 ヒウリタニス教徒マツサキセンツノブライモースニ移住ス  
 英國ノ革命  
 北亞聯邦獨立ヲ公告  
 佛國第一革命  
 ナボレオン佛蘭西皇帝ト為ル  
 ウオートルローノ戦  
 佛國共和政體ヲ公告ス

Baiza.  
 Batak.  
 Bdgop.  
 Ebook.  
 Ansb.  
 Abus.  
 Bont.  
 Bona.  
 Bessi.  
 Bako.  
 Azpu.  
 Azad.  
 Ooko.  
 Pops.  
 Put.  
 Vis.  
 Vain.  
 Onz.  
 Ozai.  
 Ilo.  
 Ibe.  
 Bos.  
 Ta.  
 Oba.  
 Noa.  
 Tuie.  
 Bois.  
 Sed.  
 Ozan.  
 Ker.  
 Paisan.  
 Azous.  
 Betoio.  
 Aduk.  
 Atoz.  
 Atoiz.  
 Bika.  
 Abz.  
 Abut.  
 Bono.  
 Adap.  
 Asait.  
 Banes.  
 Ascol.  
 Apsit.  
 Ayoon.  
 Boozo.  
 Albu.

聖史

聖書バイブル中史記ニ属スルモノハ概子イスレール族  
即チ猶太人ノ事跡ヲ記ス且ツ其史料猶太ノ史  
家ジヨセフスノ遺書ニ出スルモノ多シジヨセ  
フスハ羅馬人ゼルセルムヲ破壊スルノ日世ニ  
在リタル者ナリ而シテ舊約全書中イスレール  
族ノ事ヲ記スルモノ子ヘミアノ篇ニ至テ止ム  
即チ紀元前大約四百四十年ナリ是ヨリ耶蘇降  
世ノ時ニ至ルマテ猶太ノ史記大低ミナジヨセ  
フスノ起草ニ成ル

イスラエル族ハアブラームノ後裔ナリアブラ  
 ームハ普通ノ計算ニヨレハ洪水後四百二十七  
 年紀元前千九百二十一年神召ニ應シテ父母ノ  
 家ヲ辭ス（原）創世紀第十上帝乃チ之ニ約シテ曰  
 ク汝ハ子孫必ス救主ヲ出サント  
 ヘブリウ族ト曰ヒイスラエル族ト曰ヒ又タジ  
 ウス族（按）即チ猶太人ト曰フ是ミナアブラームノ後裔  
 ヲ稱スルノ名ナリ而シテ其ヘブリウ族ト名ケ  
 タルハ蓋シアブラームノ祖先イベルニ因ルイ  
 ベル一ニヘバルト名クイスラエル族ハ其名ヲ

ジヤコツブニ取ルナリジヤコツブイスラエル  
 ノ綽号アリタルヲ以テナリ十二種族ノ長老ジ  
 ヤコツブニ十二子アリ其一ヲジウダト名クジ  
 ウス族ノ稱ハ即チジウダニ出ツ  
 シヤコツブ數子アリ而シテ其眷族七十人ニ及  
 フ紀元前千七百六年之ヲ率テ加南ヲ發シ居ヲ  
 埃及ニ移ス子孫終ニ其地ニ在テ奴ト為リ役セ  
 ラルカルメツトノ説ク所ニ從ヘハ居ル一二百  
 十五年ヘブリウ族中ノ法律大家モセスノ救フ  
 所ト為リ厄ヲ脱ス

而シテ荒漠無人ノ野ニ彷徨スル四十年終ニジ  
 ヨシア之ヲ帥テ加南ヲ略ス  
 ジヤコツブノ後裔加南ニ入りテヨリツウル位  
 ニ即クノ日ニ至ルマテ三百五十六年ナリ其間  
 倡領相繼テ之ヲ治ム而シテ以色列及ヒ猶太王  
 政ノ未夕廢レサルニ當テ列王相承ケ位ニ在リ  
 是レ左頁ノ第一表并ニ第二表ニ於テ一目瞭然  
 タリ  
 以色列王政ノ隆盛ヲ極メタルハダヒツト及ビ  
 ソロモン在位ノ日ナリ

猶太ノ王位ハアザリカ位ヲ僭スルノ時ヲ除キ  
 ジヨシヤノ殂落ニ至ルマテダビツトノ族統連  
 綿相繼クジシヤ數子アリ而シテ其三子位ニ在  
 ル皆ナクシキヲ保ツ能ハズ  
 イセール族ノ事跡ハ之ヲ舊約全書ニ徵スルニ  
 當時國ヲ舉テ真神ニ事ヘス人ミナ異教ヲ信シ  
 偶像ヲ拜ス猶太及ヒ其十族ノ列王大抵ミナ異  
 端ニ陥リ拜像ヲ崇ム  
 十族ノ事跡ハサルマンセルノ擒ニ就キテヨリ  
 以來盡ク暗昧ニ属スジウス族即チ猶太王國ノ

臣民巴比倫ニ俘ト爲ル七十年終ニ紀元前五百三十六年ニ至リシリウスノ允許ヲ得テ國ニ歸ル總族子ルバツベルノ率ユル所ナリ而シテゼルセルム及ヒ其祠堂ヲ改修ス

爾後波斯人埃及プロレミ一統ノ列王西里亞人及ヒマツカビース族相繼テ之ヲ沼ム紀元前六十三年ニ至リポンマ一羅軍ヲ帥テ之ヲ征服ス紀元後七十年チチウス羅兵ヲ督シテゼルセルムヲ拔キ府城ヲ破壊ス是ヨリジウス族宇内各地ニ離散ス

# 以色列及猶太王國年表

紀元前	列王在位	以色列王國	三王	百二十年	先知
九〇〇	一四 ジヨホサバツト	二 天道ヲ信ス其位ニ在ルヤ國隆盛ヲ致ス			サミウル
九〇〇	九 九セホラム	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			アイソト
八〇〇	八五 アビシヤ	一 七十族叛ス			セマイア
八〇〇	八四 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル	猶太王國	十九年	アザリア
八〇〇	八三 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル		三百八十年	エリヂヤ
七〇〇	七五 レボボウム	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			アヂジャ
七〇〇	七四 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
七〇〇	七三 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
七〇〇	七二 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
七〇〇	七〇 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	六九 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	六八 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	六七 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	六六 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	六五 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	六四 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	六三 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	六二 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	六一 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	六〇 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	五九 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	五八 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	五七 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	五六 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	五五 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	五四 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	五三 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	五二 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	五一 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	五〇 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	四九 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	四八 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	四七 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	四六 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	四五 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	四四 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	四三 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	四二 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	四一 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	四〇 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	三九 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	三八 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	三七 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	三六 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	三五 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	三四 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	三三 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	三二 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	三一 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	三〇 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	二九 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	二八 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	二七 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	二六 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	二五 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	二四 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	二三 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	二二 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	二一 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	二〇 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	一九 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	一八 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	一七 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	一六 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	一五 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	一四 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	一三 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	一二 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	一一 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	一〇 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	〇九 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	〇八 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	〇七 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	〇六 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	〇五 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	〇四 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			
六〇〇	〇三 (アサリヤ)	三 大ニゼロボウムヲ破ル			
六〇〇	〇二 (アサリヤ)	四 拜像ノ教ヲ信シ其兄弟六人ヲ殺ス			
六〇〇	〇一 (アサリヤ)	一 七十族叛ス			
六〇〇	〇〇 (アサリヤ)	二 天道ヲ信シ拜像ノ教ヲ壞滅ス在位ノ日國勢大ニ興ル			

旧約全書載ス所ノ末尾ノ先知マラーチハ神廟再建ノ後チ猶ホ生存スジウス族ノ政治ハゼルバツル治ヲ施スノ時ヨリ變轉巴マスゼルバツルハジウス族域及ノ軛ヲ脱シテ國ニ還ルノ後チ初任ノ總族ナリ紀元前六十三年ポンペー羅軍ヲ督シテゼルセルムヲ拔ク後チ猶太竟ニ羅馬ノ所轄ニ屬ス

# 以色列即十族王國年表 十九王 二百五十四年

紀元前即位	列王	在位
七五	ゼロボウム第二世	一 子バートノ子ナリ十族ノ王ト爲ル初ノシキユームニ在リ後チキルサニ宅ル二個ノ金犢ヲ造リテ各之ヲベセル及ヒダンニ安置シ東燕ヲレテ之ニ跪拜セシム是ニ於テ國人終ニ拜像ノ教ニ化ス竟ニアビジアノ破ル所ト爲リイスラエル族五十万人之ニ死ス
五四	ナダブ	一 ゼロボウムノ子ナリ竟ニバツサノ殺ス所ト爲ル
五三	バツサ	二 位ヲ僭シ盡クゼロボウムノ族類ヲ殄ス アサト戰フ
三	エラ	一 巴ツサノ子ナリシシリノ殺ス所ト爲ル
二九	ジンリ	位ヲ僭シバツサノ族類ヲ殲シ位ニ在ル十七日ニシテ竟ニオムリ破ル所ト爲ル
二九	オムリ	一 サリアアラ開キ之ヲ以テ國都ト爲ス
一八	アハブ	一 オムリノ子ナリ天道ヲ信ゼザルヲ以テ著ハル其右ゼレバマタ然リナボスノ葡萄園ヲ奪ヒラモースギレドヲ以テ之ニ死ス
九七	アハブ	一 アハブノ子ナリ跌倒シテ傷ヲ負ヒ終ニ歿ス
九六	ゼホラム	二 西里亞王ベンハダツトサマリアアラ圍ミ居民困弊ス
八四	ゼフ	二 八ゼヂバル及ヒアハブノ族類バールノ僧徒ヲ殲ス然レ氏猶ホゼロボウム造ル所ノ金犢ヲ拜ス
五六	ゼホアス	一 七西里亞王ハザルノ虐スル所ト爲ル
三九	ビヨアス	一 四西里亞王ベンハダツト第二世ヲ破リ又タアスビアラ走ラシ遂ニゼルセルムヲ拔ク
二六	ゼロボウム第二世	一 勇敢ニシテ用兵ニ熟ス在位ノ間國勢隆興ス
七三	ゼチヤリア	ニ
七三	サルロム	ニ
六三	マナハム	一 亞西里亞王ビウルノ治下ニ屬ス
六一	ベカイア	二 其兵總ベツカノ殺ス所ト爲ル
五九	ベツカ	一 西里亞王レダント連衡シテゼルセルムヲ圍ミアハズヲ破ル斬戮十二萬捕獲二十萬ニ至ルチクラスベルセルツカヲ破リイスラエル族ノ一部ヲ西里亞ニ送致ス而シテ竟ニホスヘアノ殺ス所ト爲ル
三九	ホスヘア	一 八亞西里亞王サルマシセルノ治下ニ屬スト雖氏援ヲ埃及王ソニ求メ以テ叛スサルマシセルノ子サマリアアラ圍テ送ニ之ヲ拔キ府城ヲ破毀ス且ツイスラエル族ヲ擄獲シテ亞西里亞及ヒ馬太ニ送致シ是國ヲ滅ス實ニ紀元前七百二十一年ナリ

是ヨリ十族ノ史記咸ク暗昧ニ屬ス後チ更ニ亞西里亞ノ人民ヲ此地ニ移ス其後裔ミナモセスノ五經中載ス所ノ法律ヲ信シ以テ獨一無二ノ聖書ト爲ス其名ヲサマリタニス族ト曰フ國都サマリヤニ取ルナリサマリタニス族一宇ノ神廟ヲゼリザム山上ニ建ツ而シテ百事シラシ族ニ異ル所アリ故ニシラス族之ヲ以テ異教ノ徒ト爲シ賤ミ且ツ憎ム

# 近世史紀年表

紀元後	世紀	年次	事件
八〇〇	第九世紀	二七	チャーレマン政西新帝國ヲ立ツ
九〇〇	第十世紀	二七	英國ヲ開創ス オキング王統ノ七國政治始ム
〇〇〇	第十世紀	二	ロルロルマンズ族ヲ率テノルマンデーヲ略ス
〇〇〇	第十世紀	六四	日耳曼ノオノ偉帝伊太里ヲ略ス
〇〇〇	第十世紀	六六	ウイリアム龍王(ハスタンクス)ノ戰ヲ以テ英國ヲ服ス
〇〇〇	第十世紀	九六	第一ノ十字軍ヲ起シ聖土ニ向フバートル隱士
〇〇〇	第十世紀	四七	第二ノ十字軍ヲ起スシトヘルナードノ鼓動スル所ナリ
〇〇〇	第十世紀	八八	英王リチャード一世及ヒ佛帝ヒリツプスオイクスチエス親ヲ將トシテ十字軍ノ第三役ヲ起ス
二〇〇	第十一世紀	二	バルドゥイン十字軍ノ第四役ヲ起シ公斯坦丁堡ヲ取ル
二〇〇	第十一世紀	二	英王ジョン賜權大証書ニ鈐印ス
三〇〇	第十二世紀	二七	蒙古帝モンケカン薩拉丁帝國ヲ蹂躪ス
三〇〇	第十二世紀	五八	クダットノ教主政治始ム
三〇〇	第十二世紀	七〇	佛帝シントロイス第九世末後ノ十字軍ヲ起ス
四〇〇	第十三世紀	一四	ロバートブリウス英王エドワード第二世ヲバシノックホルンニ破ル
四〇〇	第十三世紀	四六	英王エドワード第三世クレツシーノ戰ニ勝ツ
四〇〇	第十三世紀	四七	歐洲惡疫大ニ行ハレ居民死スルモノ四分ノ一至レリト云フ
四〇〇	第十三世紀	五八	ナムールバツキ即チタメルラン位ニ即キ遠近ヲ征服ス
四〇〇	第十三世紀	五三	トルクス族公斯坦丁堡ヲ略シ羅馬西帝國亡フ
四〇〇	第十三世紀	五五	英國ニ於テヨーク及ヒランカストルノ二統相戰フ三十年
四〇〇	第十三世紀	七九	アルラゴン及ヒカスチールノ二邦合シテ西班牙王國ヲ成ス
四〇〇	第十三世紀	八六	バルソロミウズガズ喜望峯ヲ發見ス
四〇〇	第十三世紀	九二	コロンブス亞米利加ヲ探出ス
四〇〇	第十三世紀	九七	バスコドガマ喜望峯ヲ週テ印度ニ至ル
五〇〇	第十四世紀	一七	ルイザル改教ノ道ヲ開ク 千五百十九年日耳曼帝リチャールス第五世之ヲ贊ク
五〇〇	第十四世紀	二一	コルデス墨西哥ヲ征服ス
五〇〇	第十四世紀	二二	マゼラン艦隊ヲ督シ始メテ環宇ヲ週航ス千五百八十年ドラックマタ此舉アリ
五〇〇	第十四世紀	六〇	佛國內亂作ルモンテ及ヒグイス各其兵ヲ督ス
五〇〇	第十四世紀	七九	エトレッチノ聯盟ヲ以テ荷蘭共和治體起ル
五〇〇	第十四世紀	八二	羅馬教王グレゴリー第十三世曆ヲ改ム
五〇〇	第十四世紀	三	英蘇兩國ノ王位ヲ合一ス
五〇〇	第十四世紀	七	英人始メテ亞米利加ナルビルヂニアノボームストウンニ移住ス
五〇〇	第十四世紀	二	英人始メテ印度ニ定住ス
五〇〇	第十四世紀	四八	ウエストハリア即チモンストールノ講和ヲ以テ三十年ノ役畢ル
五〇〇	第十四世紀	四九	英王リチャールス一世斷頭セラレ共和治體起ル
五〇〇	第十四世紀	八八	英國變亂アリギームス第二世位ヲ禪ル
五〇〇	第十四世紀	一三	佛國聯盟諸國ト和ヲユトレッチニ講ス
五〇〇	第十四世紀	四八	アキスラチャールベルノ和約ヲ以テ佛國即位ノ亂平ク
五〇〇	第十四世紀	五二	新曆ヲ英國ニ傳フ
五〇〇	第十四世紀	六三	巴里ノ和議ヲ以テ佛國カテラ英國ニ交付ス
五〇〇	第十四世紀	七六	北亞聯邦獨立ヲ公告ス
五〇〇	第十四世紀	八九	佛國ノ革命千七百九十二年ニ起リ同九十二年ニ畢ル
五〇〇	第十四世紀	二	英佛西及ヒ蘭ノ四國和ヲアミエニスニ講ス
五〇〇	第十四世紀	四	ナポレオンボナパルト佛蘭西皇帝ト為ル
五〇〇	第十四世紀	六	日耳曼帝國亡フ
五〇〇	第十四世紀	二	北亞聯邦英國ト戰ヒ千八百十四年ヲ以テ殺息ム
五〇〇	第十四世紀	一五	ウオートロウノ戰アリボナパルトノ治推地ニ墜ツ
五〇〇	第十四世紀	二九	魯王兩國和ヲアリボナパルトノ講ス
五〇〇	第十四世紀	三〇	佛國ニ新革命起リリチャールス第十世ヲ廢ス
五〇〇	第十四世紀	三二	改正議案英國議院ノ可決スレ河ト為ル
五〇〇	第十四世紀	三二	英國ノ新疆ニ於テ役奴ヲ禁スルノ令ヲ發ス
五〇〇	第十四世紀	四八	佛國マタ新革命アリロイスヒリツプスヲ廢ス
五〇〇	第十四世紀	六〇	伊太利立ッ瀛主エマニウル之カワリ

# 事物創始年表

紀元後	九〇〇	第九世紀	第八世紀	第七世紀	第六世紀	第五世紀	第四世紀	第三世紀	第二世紀	第一世紀	第十世紀	第十九世紀
九〇〇	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第九世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第八世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第七世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第六世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第五世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第四世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第三世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第二世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第一世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第十世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
第十九世紀	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

カラセニス族算用數字ヲ歐洲ニ傳フ  
セルベルト佛國ニ於テ齒輪時辰鏢ヲ創製ス  
綿織ヲ以テ紙ヲ製ス

アマルフニ於テ羅馬會典ヲ發見ス  
始メテ定規銀行ヲヴエニスニ設ク

英國ニ於テ始テ麻布ヲ製ス  
アルバーコン玻璃鏡并ニ照大鏡ヲ創作ス  
千三百一十一年ニ至ルマテバーコンサルビニスアルマチニス及ヒスビス眼鏡ヲ創製ス  
始メテ暗製蠟燭ヲ用フ

烟筒及ヒ玻璃窓ヲ私屋ニ始用ス  
アラビヤオオイヤ羅針盤ヲ改良ス

四十年ニ至ルマテスリツコロニ於テ火藥ヲ創製ス  
アルゼチラスヲ圍ムニ當テ巨礮ヲ用フ 千三百七十年小銃ヲ用フ  
時辰鏢ヲ用フ 英國ニ於テ始メテ之ヲ製作セシハ千五百六十八年ナリ

牌子ヲ創製ス 日耳曼ニ於テ始メテ紙磨ヲ作ル  
パンエイクブルヂスニ於テ創テ油繪ヲ製ス

佛國ニ於テ郵信局ヲ設ク 英國ニ於テハ千五百八十年之ヲ立ツ  
ワイリアムカキストン活版印行ノ術ヲ英國ニ傳フ

ニウレンベルグニ於テ袖珍時辰鏢ヲ作ル 英國ニ於テ之ヲ用フルニ至リタハ千五百九十七年ナリ  
バルツル地圖并ニ海圖ヲ英國ニ傳フ コロニアス

ビヨルゼンプリンスウツキニ在テ紡車ヲ創製ス  
コーペルニシニス真正ノ太陽系ヲ復興ス

英國ニ於テ始メテ縫織ヲ用フ  
始メテ十進算論ヲホルゼニスニ刊行ス

米國ヨリ馬鈴薯ヲ英國ニ傳フ  
千六百二十年ニ至ルマテボルタジヤセンンドレバル及ヒガリレオ相踵テ望遠鏡ヲ製ス  
サクドリウスドレツベル及ヒガリレオ寒暑計ヲ創製ス

ナビール蘇古蘭ニ在テ對數法ヲ發明ス  
ハーバー血液循環ノ理ヲ發明ス

ウエニスニ於テ始メテ新聞紙ヲ印行ス 英國ニ於テ之ヲ發行セシハ千六百六十五年ナリ  
始メテ珈琲ヲ英國ニ傳フ 茶ヲ英國ニ傳ヘタルハ千六百六十六年ナリ

トルリセリ及ヒバスカル風雨針ヲ創製ス  
ダイリツクマゴドベルグニ於テ排氣鐘ヲ創作ス

蒸氣機関ノ發明アリ 千七百六十八年ワット之ヲ改良ス  
ハイゼニス金星ノ輪環ヲ發見ス

米國ニ於テニウトン派ノ哲學書ヲ刊行ス  
上耳其ヨリ種痘ノ法ヲ英國ニ傳フ

グット模版印行ノ術ヲ發明ス  
フランクリン電光ト電氣ノ同體一物ナルヲ証明ス

アルクライト紡織ヲ創製ス  
ヘルスチエル天王星ヲ發見ス天王星ニヘルスチエル星ト名ク

ホワイト子一清綿機ヲ創製ス  
學士ゼン子ル牛痘ノ法ヲ發見シ之ヲ英國ニ傳フ

ガルバニー濕電ヲ發見ス  
セニフエルデル モニツチニ於テ石印術ヲ發明ス

始メテ汽船ヲホドワシ河流ニ泛フ  
ホンブレীগビー安全燈ヲ創製ス

リバグールトマンチエスノ間ニ鐵道ヲ布設シ始メテ汽車ヲ用フ  
汽船(クレート、イーストレン)號始メテ英國ノフリストルヲ解纜シ大西  
洋ヲ經テニウヨークニ至ル  
エリツクソン發温機ヲ創製ス

問題

備考 左ニ掲クル所ノ問題ニ附記セル數字ハ篇中ノ各節ニ對合  
スルモノナリ故ニ讀者ソノ答案ヲ求ムル甚タ容易ナリ且ツ往々  
三問若クハ四問ニ對スル答案ニシテ一章中ニ含有スルモノアリ

歴史ノ功用

(一) 歴史トハ何ソ且ツ之ヲ學フノ方法如何 (二) 歴史ハ小説稗史ニ比ス  
レハ其利害果シテ如何 (三) 世人ノ歴史ヲ愛讀スルハ何ニ起因スルヤ  
且ツ其ソノ人性ヲ論スル如何 (四) 歴史ノ更ニ高尚ナル功用ハ何ソ且ツ  
之ヲ名ケテ何トカ曰フ要スルニ歴史ハ吾人ノ經驗ニ何ヲ加フルヤ  
(五) 歴史ハ吾人ヲシテ何等ノ知識ヲ了得セシムルヤ且ツ其人心ヲシテ  
獨儻大度ナラシムルモノハ何ニ原因スルヤ (六) 歴史ハ特ニ何等ノ民  
種ニ必須ナルヤ且ツ吾人歴史ニ因テ何等ノ知識ヲ得ルヤ (七) 歴史ハ  
更ニ吾人ニ示教スルニ何ヲ以テスルヤ (八) 歴史ハ如何ニシテ人性ヲ感  
化シ善惡ヲ明示スルヤ且ツ史ヲ讀ム者ハ真正ノ榮光ニ聯結スルニ何

ヲ以テスルヤ (九) 歴史ノ吾人ヲ示教スルモノ往々天旨ニ出ルモノアルハ何ソヤ (十) 史ヲ讀テ事ヲ知ル者ハ何故ニ其令ニ安ニスルニ至ルヤ

歴史ノ原材

- (一) 歴史ノ第一原材ハ何ソ史ヲ編ムニ之ニ依リタル者ソ誰ソ (二) 其第二原材ハ何ソ其例証ヲ示セ (三) 其第三原材ハ如何 (四) 其第四ハ如何 (五) 其第五ノ如何 (六) 其第六ハ如何且ツ輓近發見シタル上古ノ貨幣ハ第何世紀ニ屬スルモノナルヤ (七) 歴史ノ第七原材ハ何ソ且ツ此種ノ大理石類ニシテ最モ有名ナルモノヲ問フ (八) 此等題銘ノ最モ重要ナルモノハ何ソ且ツ之ニ就テ説話セシ所如何 (九) 象形文繪畫及ヒ彫刻ニ就テ何ヲ説キタルヤ

歴史ノ區分

- (一) 時代ヲ以テ歴史ヲ區分スルノ方法如何 (二) 上古史トハ何ソ近世史トハ如何 (三) 一ノ史家ハ史ヲ分ツニ別ニ何等ノ紀年ヲ用ヒタルヤ (四) 歴史ノ第三區分ハ何ソ且ツ其期限中ニ含有スル所ヲ問フ (五) 中古

ニ就テ更ニ説話セシ所如何 (六) 何ヲ以テ上古史ヲ區分スルヤ (七) 中古ハ何ヲ以テ特ニ著明ナルヤ且ツ其末後ノ半世紀間ニ於テ較著ナルモノハ何ソ (八) 近世史ハ何ヲ以テ特ニ著ハル (九) 旨意ヲ以テ歴史ヲ區分スル方法如何 (十) 聖史トハ何ソ俗史教史政史各如何 (十一) 聖史ハ上世何レノ時代ニ至ルマテ何年ノ星霜ヲ經タルヤ (十二) 地質學ニ就テ述バタル所ヲ問フ (十三) 上古始メテ俗史ヲ編述シタル者ハ誰ソ且ツ其時代及ヒ民種ヲ問フ (十四) ヘロドチユス史ヲ著ハスノ前環宇ノ歴史ニ就テ説話セシ所如何 (十五) 上古ノ史記ヲ學知スルキハ何等ノ益アリヤ且ツ其獨一無二ノ原材ハ何ソ (十六) 聖經中録スル所ノ上古史中一ニ著大ノ事跡ヲ示セ (十七) 俗史ノ最モ重要ナル部分ハ何ソ (十八) 中古即チ暗世ノ歴史ニ就テ何ヲ説キタルヤ (十九) 世人ノ能ク知ル所ハ歴史中何レノ部分ナルヤ

埃及史

- (一) 埃及ハ何故ニ歴史中ニ屹出スルヤ且ツ其史ヲ編述スルニ首トシテ材料ヲ其國ニ求メタルハ何國ノ人民ナルヤ (二) 埃及ノ上古史ニ就テ

述ヘタル所如何 (三)其國往古壯嚴肅大ノ跡ヲ存スルモノ二三ヲ舉ク

ヨ (四)セーヴスノ隆榮ニ就テ說話シタル所ヲ問フ (五)セーヴスニ代

テ興リタル都府ハ何ソストラボ及ビヂオトリウスセーヴスノ事ヲ記

スル如何 (六)字母ニ代ヘテ文ヲ書シタル方法如何 (七)チヤンペリ

ン等ノ學士カ尋究シタル成蹟ヲ問フ (八)埃及ノ居民ニ就テ何ヲ述ヘ

タルヤ (九)其政體及ヒ國王ハ如何 (十)法律及ヒ風俗ハ如何 (十一)各人

死後ノ處置如何 (十二)埃及ノ兵制及ヒ武器ニ就テ述ヘタル所ヲ問フ

(十三)其第一ノ國王ハ何人ソ且ツ其後ヲ承ケタル者ニ就テ何ヲ說話セシヤ

(十四)最モ著名ノ國王ハ誰ソ (十五)其他ノ國王ハ如何 (十六)第二ノ英主ハ

誰ソ且ツ之ニ就テ述ヘタル所ヲ問フ (十七)紀元前五百二十五年埃及ヲ征

服セシ者ハ誰ソ且ツ其征略ノ形狀如何 (十八)波斯ノ所轄ヲ奪テ之ヲ占

取シタル者ハ何人ソアレキサンドル殞落ノ後チ其形勢如何

肥尼西亞史

(一)肥尼西亞ノ國民及ヒ其史記ニ就キテ陳述シタル所如何 (二)經典中

之ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ且ツ其首府ハ何々ナルヤ (三)國人何等ノ

發明アルヲ以テ名アルヤ (四)其民ヲ何レノ地ニ移シテ疆ヲ開キタル

ヤタイルヲ圍ミテ其名特ニ著ハレタルヤハ誰ソ

亞西里及巴比倫史

(一)亞西里亞ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ巴比倫ヲ開創シタル者ハ誰ソ且ツ

其史記如何 (二)亞西里亞及ヒ巴比倫ニ就テ世人ノ臆想スル所如何

學士ギルリースノ說ヲ問フ (三)ニニウス及ヒセミラミスニ就テ陳ヘ

タル所ハ如何 (四)ニニウス及ヒセミラミスノ記事如何 (五)ニニウス

ノ時ヨリサルダナパリスノ世ニ至ルマテ是國ノ歴史如何 (六)サルタ

ナパリスニ就テ何ヲ說話シタルヤ黨ヲ結ヒ反ヲ計リタル者ハ誰ナル

ヤ (七)是國ニ起リタル事變ヲ問フ (八)ピウルノ四嗣トハ何人ナルヤ

(九)亞西里亞王國ヲ亡ホシタルモノハ誰ツ (十)ナボボラツセル即チ

子ブカドニーゼルヲ嗣キタルハ何人ノ (十一)バルサーヅルノ時ニ當リ

起リタル事跡如何 (十二)巴比倫征服後ノ形勢如何且ツ其方今ノ情勢ヲ

問フ (十三)ニニウスノ事ニ就キ何ヲ陳述シタルヤ近來其遺跡ニ就テ何

ヲ發見シタルヤ

波斯史

(一) 波斯ニ就テ何ヲ説キタルヤシリウス治世以前其國ノ史記如何元ト其國ヲ何ト名ケタルヤ波斯ノ大國ヲ開創シタル者ハ何人ソ當時城内ニ含有セシ國土ハ何ナルヤ (二) 波斯ノ史記ハ何人ノ賜ソ波斯ノ史家ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ就中ソノ信據ス可キモノハ何レナルヤ (三) シリウスニ就テ何ヲ説話シタルヤ且ツ其事業如何 (四) 往古シリウスノ遺書ヲ得タル者ハ何人ソエキセノホンニ尋テ世ニ出テタル者ハ誰ナルヤ且ツエキセノホンカ記事ノ目的ハ如何 (五) カンビセスニ就テ何ヲ述ヘタルヤスメルヂスダリウスハ如何 (六) ダリウスヲ嗣キタル者ハ誰ソ且ツ其事迹如何ダリウスハ誰ニ其國ヲ讓リタルヤ (七) 其他二英主ハ誰ナルヤ (八) シリウスハ何レノ時ヲ以テ即位シタルヤダリウスヒスタスベス并ニダリウスゴドマニウスハ如何

希臘史

第一章

(一) 希臘ノ境域如何國界ハ何レニ接スルヤ且ツ其地勢ノ概況ヲ問フ

(二) 是國ニ就テ述ヘタル所如何國人何ヲ以テ其名特ニ著ハルヤ (三) 希臘國中ニハ何州ヲ包含スルヤ且ツ其州狀ノ相異ナル所及ヒ其結盟セシ情勢ハ如何 (四) 往古ノ政體ハ何ソ後チ行ハレタル政體ハ如何 (五) 此等共治政體ノ沿革如何且ツ讀者ヲシテ感激措ク能ハサラシムルモノハ何故ソ (六) 希臘及ヒ其國人ハ自ラ稱シテ何ト名ケタルヤ詩人ハ之ヲ何ト稱シタルヤ土人ノ族祖ハ何人ナルヤ (七) 文明ノ初歩ヲ希臘ニ傳ヘタルハ誰ナルヤ

第二章

(一) 希臘ノ史記ヲ概別シテ幾何ノ大期ト為スヤ其第一及第二大期ハ如何 (二) 第一ノ時期ハ幾年ナルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (三) コノ時期ヲ細分シテ幾個ト爲シタルヤ第一時期ノ始終如何且ツ之ヲ何ト名クルヤ第二第三第四期ハ各如何 (四) 第二大期(正確ノ時期)中ニハ何ヲ包含スルヤ且ツ其沿革如何 (五) コノ時期ヲ幾部ニ分チタルヤ其第一期ハ何レノ時ニ起リ何レノ時ニ畢リタルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ説キタルヤ其第二第三及ヒ第四ノ時期ハ如何

第三章

(一) 怪妄ノ世ハ幾年ヲ含有スルヤ (二) シサイラニヲ開創シタルハ誰ソ  
 アルゴスアゼンスセーグスコリンスマイセン及ヒラセドモンハ如何  
 (三) コノ時ノ一ニ大事ヲ示セ且ツ是時ニ當テ別ニ何等ノ記ス可キ事  
 アルヤ (四) 希臘人ノ計畫シタル第一ノ大事ハ何ソ之ヲ督シタル者ハ  
 何人ナルヤ且ツジヤソンニ隨行シタル怪雄ノ二三ヲ舉ケヨ (五) 其怪  
 雄ヲ名ケテアルゴノ一ト隊ト曰ヒタルハ何故ソ其目的并ニ艦録ハ如  
 何

第四章

(一) 怪妄ノ世ハ幾年ヲ包含スルヤ希臘人トゴシツク種ノ國民ト相異ル  
 ル所ヲ問フ (二) トロイノ役ハ何人ノ証言ニ據テ其事跡ヲ記スルヤ且  
 ツ史詩デイリアードニ就テ述ヘタル所如何 (三) ヘレンノ事ニ就テ何  
 ヲ説話シタルヤ其父ソノ女婿ニ向テ何等ノ誓ヲ行ハシノタルヤ其懸  
 想セラレタル者ハ何人ソ (四) パリスノ説話ハ如何且ツスパルタニ至  
 リテ何事ヲ做シタルヤ (五) 其背及ノ舉アリテヨリ何事ヲ惹起シタル

第五章

ヤトロイノ海岸ニ向テ幾多ノ戦艦及ヒ兵士ヲ發シタルヤ之カ元帥タ  
 リシ人ハ誰ソ其他特ニ高名ナル貴紳ノ二三ヲ舉ケヨ (六) トロイノ軍  
 ヲ督シタルハ何人ソ其攻伐ノ至局如何 (七) ヘラクリツド族ノ歸國シ  
 タルハ何レノ時ツ (八) ヘルクリスノ事跡ニ就テ何ヲ説キタルヤ且ツ  
 其子孫ノ國ニ還リタルハ其放謫ノ後幾年ノ久レキヲ經タルヤ其影  
 響ハ如何 (九) コノ變亂ノ結局ハ如何ナリシヤ

(一) 希臘ノ二大州トハ何ソ且ツ其特ニ較著ナル所以ヲ問フ其性情ノ彼  
 此相異ナル所アルニ至リシハ何ニ起因スルヤ (二) スパルタハ何州ノ  
 首府タリシカ其施政ノ形情如何 (三) ライクロヂユストハ何人ニシテ  
 其任ヲ負ヒタルハ何事ツ (四) 其成績ヲ問フ且ツ如何ナル元老院ヲ設  
 立シタルヤ二王ニ就テ何事ヲ為シタルヤ地ヲ分ツニ如何ナル方法ヲ  
 用ヒタルヤ (五) ライクロヂユスハ通商ノ事ニ關シ何等ノ處置ヲ施シ  
 タルヤ國人ハ如何ニシテ生業ヲ營ミタルヤ (六) 國人ノ情狀如何兒童  
 ニ關スル法規ヲ問フ (七) 其文字ヲ教フルノ方法ハ如何スパルタノ人

民ハ何事ニ抜群ニシテ其名特ニ著ハレタルヤ (八) 其特ニ少年ニ殺ユルニ何ヲ以テシタルヤ其他少年ニ關スル法規如何 (九) ライクロヂユスノ法典ヲ用ヒタルハ何ノ為ナルヤ當時何ヲ以テ人生ノ要務ト為シタルヤ如何ナル諸徳ヲ養成シ何事ヲ犠牲ニ供シタルヤ (十) 其婦人ニ就テ説キタル所如何其教育ノ方法如何母ノ其子ニ任スルニ何ヲ以テシタルヤ (十一) ライクロヂユスノ法典ハ其行ハレタルヲ幾年ノ久シキヲ經タルヤスバハタノ勢威ニ就テ述ヘタル所如何 (十二) 年ヲ經ルニ隨ヒ何事ヲ生シタルヤ其變遷ノ形情如何

第六章

(一) アゼンスニ就テ何ヲ説話シタルヤ其特ニ著明ナル所以ヲ問フ (二) アゼンスノ末王ハ誰ソ其殂落ノ後チ何事ヲ生シタルヤ監國ノ職ハ如何 (三) アゼンス初定ノ成文法典ハ何人ノ立ツル所ナルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ説話シタルヤドラコハ其刑罰ノ苛酷ヲ辯解スルニ何等ノ理由ヲ以テシタルヤ (四) 後チ新法典ヲ設ケタルハ誰ソソロンハ如何ナル事ヲ為シト欲シタルヤ (五) 自ラ其法典ヲ評シテ何ト言ヒタルヤ

ソロンハ主權ヲ以テ何人ノ手ニ歸シタルヤ其公會ニ於テ何事ヲ為シタルヤ元老院ハ幾人ノ議負ヲ以テ組織シタルヤ (六) ソロンハ何事ヲ獎勵シタルヤ其他ソロンノ法典ニ關シテ説話シタル所ハ如何 (七) アゼンス及ヒスパルダ各其法律ヲ異ニシタルヨリ何等ノ成績ヲ生シタルヤ其二府ノ相異ナル所如何アゼンス及ヒスパルダノ人民ハ各自ラ特殊ノ性質アリ其狀如何 (八) ソロン歿スルノ後チ何事ヲ生シタルヤピシストラチユス及ヒ其數子ノ權ヲ執リタルハ幾年ノ久シキニ涉リタルヤ其施治ニ就テ述ヘタル所如何 (九) ピシストラチユスハ主權ヲ何人ニ傳ヘタルヤ其位ヲ黜ケタル者ハ誰ソ且ツ其族類ノ命運如何

第七章

(一) 希臘ノ榮世トハ何レノ時代ナルヤ希臘人ノ波斯人ニ勝チタル形狀如何 (二) 當時波斯ノ形勢如何其屬國及ヒ新疆ハ何レナルヤ (三) ダリウスヲ激怒セシメタルハ何事ナルヤ (四) 何事ヲ為サント欲シタルヤ (五) ダリウス先ツ何事ヲ做シタルヤ其使官ハ如何ナル待遇ヲ受ケタルヤ (六) ダリウスハ如何ニシテ其進撃ヲ起シタルヤ第一波斯艦隊ノ

勝敗如何其第二艦隊ハ何事ヲ做シタルヤアツチカニ侵入シタル兵負  
 ハ幾許ナルヤ其軍ヲ督シタルハ何人ナルヤ (六)之ヲ遣ハ戦ヒタルハ  
 何人ニシテ何レノ地ナルヤ兩軍ノ死傷幾許ナルヤ (七)如何ニシテミ  
 ルチユードスノ功ニ報ヒタルヤ且ツ其事跡如何 (八)アセンスノ人民  
 ハ幾黨ニ分裂シタルヤ其二人ノ首領ハ何人ソ (九)アリスチツドスノ  
 事跡如何之ヲ逐ハント欲シテ國人方ニ票ヲ投スルハ何事ヲ生シタル  
 ヤアリスチツドスハ何ヲ為シタルヤ (十)波斯ノ役ハ何ニ由テ息ミタ  
 ルヤ之ヲシテ再燃セシメタルモノハ何人ナルヤエキセルキスハ幾許  
 ノ大軍ヲ聚團シタルヤ (十一)其艦隊ハ幾隻ヨリ成リタルヤ如何ナル運  
 河橋梁ヲ造リタルヤ (十二)エキセルキス親ラ其大軍ヲ瞰テ潜然渡ヲ流  
 シタルハ何故ソ (十三)波軍ハ何等ノ方略ニ出テタルヤアセンスノ軍ヲ  
 督シタルハ誰ソアセンスト共ニ事ニ與リタルハ何州ナルヤ (十四)レオ  
 ンタスハ何事ヲ做シタルヤエキセルキス使ヲ發シレオンダスンニ向  
 テ降ヲ求ムレオンダス之ニ答フルニ何ヲ以テシタルヤ是ニ於テ何事  
 ヲ惹起シタルヤ (十五)レオニダスハ何等ノ所為ニ出テタルヤ其結局如

何其地ノ碑面ニ如何ナル題銘ヲ書シタルヤ (十六)此時波斯人ハ何事ヲ  
 為シタルヤアセンスノ人民ハ何等ノ所為ニ出テタルヤ (十七)コノ時如  
 何ナル戦備ヲ做シタルヤ二隊ノ舟師ハ幾隻ヲ以テ成リタルヤ希臘ノ  
 艦隊ハ誰ノ督スル所ナルヤ交战ノ地ハ何レニシテ其勝敗ハ如何 (十八)  
 エキセルキス何人ヲ留メテ希臘ノ征服ヲ成就セント為シタルヤ其軍  
 ハ何レノ地ニ於テ何人ノ迎ヘ戦フ所ト為リタルヤ且ツ其勝敗ハ如何  
 (十九)ブラテアノ戦戦ト同日ニ於テ何事ノ起リタルヤエキセルキスノ  
 身上ニ何事ヲ生シタルヤ (二十)希臘人ハ何等ノ事ヲ為シタルヤスパル  
 ダ及ヒアセンスノ兵ハ何人ノ督スル所ニシテ何事ヲ成シタルヤ (廿一)  
 ポーサニアスノ事跡ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (廿二)セミストクルスハ如  
 何 (廿三)セミストクルス謫流ノ後チアセンスノ政務ヲ執リタル者ハ誰  
 ソ (廿四)苗シモンハ如何ナル戦勝ヲ得タルヤ (廿五)後チシモンノ身上ニ何  
 事ヲ生シタルヤ其任ヲ繼キタル者ハ何人ソ (廿六)其他シモンノ事ニ就  
 テ何ヲ述ヘタルヤ (廿七)波斯ト戦フ交ヘタルハ幾年ノ久シキニ且リタ  
 ルヤ其和約ノ條款ハ如何 (廿八)シモン歿スルノ後チ何事ヲ生シタルヤ

100/100/100  
 2011/1

西史要略 卷之八  
(元)ペリツクルスノ施治如何 (三)波斯ト戈ヲ交エルノ時何事ノアリタルヤ且ツ後ニ至リ何事ヲ生シタルヤアゼンス及ヒスパルタニ就テ何事ヲ説話シタルヤ (世)波斯ト戰テヨリアゼンスノ人民ハ如何ナル影響ヲ被リタルヤ且ツ其政權ヲ張り兵カラ加ヘ以テ至強ノ程度ニ達シタルハ如何ナル方便ニ由リタルモノナルヤ (世)爾後希臘ノ政治如何ノ形情ニ復シタルヤアゼンス及ヒスパルタノ形勢并ニ其相異ナル所如何 (世)是ヨリ何事ヲ生シタルヤ亞細亞ト交通ヲ開キタル影響如何アゼンスノ人民ハ之ニ由テ起リタル華奢ノ精神ヲ何レノ點ニ向ハシメタルヤ

第八章

(一)ペロポネ子レユスノ役ハ何ニ起因セルヤ (二)此戰ニ就テ何ヲ述ハタルヤ且ツ其戰狀如何 (三)アゼンスノ誹謗ヲ受ケタルハ何ニ由ルカ (四)率先シタル者ハ何州ナルヤアゼンスニ連衝シタルモノハ何州ナルヤ其與國ヲ問フ各州ノ兵員ハ幾許ナルヤ (五)交戦ノ第一年ニ於テ何事ヲ為シタルヤ其第二年ニ於テハ如何惡疫果シテ其戰ヲ妨ケタルヤ (六)ペリツクルス歿スルノ後チアゼンスヲ治メタル者ハ誰ソクレ

オシノ事ニ就テ何ヲ説キタルヤ其死後何事ヲ生シタルヤ (七)アルヂピアードスニ就テ説話シタル所如何 (八)細西里亞ノ征軍ヲ督シタルハ何人ソ其結果ハ如何 (九)ライサンドルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ尋テラセドモンノ人民ハ何事ヲ做シタルヤ (十)何等ノ條約ヲ以テアゼンスノ人民ハ其生命ヲ全フシタルヤペロポネ子レユスノ役ハ如何ニシテ其局ヲ結ヒタルヤ (十一)アゼンス陥ルノ後チライサンドルハ何事ヲ為シタルヤ三十虐官ハ六月間ニ幾多ノ良民ヲ殺戮シタルヤラレボルスハ何事ヲ為シタルヤ (十二)アゼンスニ於テ行ハレタル純正民政トハ何ソアゼンス人民ノ特性ハ如何 (十三)アゼンスノ榮光ト為リ又タ恥辱ト為リタル者ハ誰ソ此學士ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (十四)ソクラテス獄ニ在ルノ日ソノ舉止如何 (十五)ソクラテスノ哲學ハ如何且ツ其哲學ニ就テ何事ヲ為シタルヤ (十六)希臘ノ傭兵一萬余人ヲ役シタルハ何レノ戰ナルヤ退軍ノキ希人ヲ督シタルハ何人ナルヤ (十七)此退軍ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十八)スパルタ人ハ如何ニシテ此戰ニ干與スルニ至リシヤ波斯王ハ賄賂ヲ以テ何事ヲ為シタルヤアセシロウスハ如何ナル舉動

ニ出テタルヤ (九)如何ニシテ其戦局ヲ結ヒタルヤ和約ノ條款ハ如何  
 (十)是時ニ當テ屹然隆興シタルハ何州ナルヤスハルタ人ハ何事ヲ為  
 シタルヤ其衛城ヲ固取シタル者ハ誰ソ (十一)尋テ何事ヲ生シタルヤロ  
 一クトラノ戦ニ於テ彼我兩軍ノ死傷如何 (十二)後チセーブスノ人民何  
 事ヲ做シタルヤ是レラコニア國中ヲ蹂躪スルノ後チ幾年ヲ經タルヤ  
 (十三)後チセーブスノ將帥ハ何等ノ舉動ニ出テタルヤ且ツ其他如何ナ  
 ル勝戦ヲ為シタルヤ (十四)苗エパミノンダスニ就テ何ヲ説キタルヤ (十五)  
 マンチ子アノ戦アリテヨリ何事ヲ生シタルヤスバルタ人ハ尋テ何事  
 ニ從事シタルヤ其結果如何

第九章

(一)アゼシロウス歿スルノ後チ希臘ノ沿革及ヒ其形勢如何 (二)是時ニ  
 當テアゼンヌノ形勢如何スバルタハ如何ヒリツプハ如何ナル計畫ヲ  
 考定シタルヤ (三)馬基頓ノ王國ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其居民ハ如何  
 (四)馬基頓尼亞帝國ニ就テ何ヲ説話シタルヤ時トシテ之ヲ希臘帝國  
 ト名ケタルハ如何 (五)ヒリツプハ業ヲ何人ノ門ニ受ケタルヤ其他ヒ

リツプニ就テ何ヲ説キタルヤ佞レ希臘諸州ヲ服スルニ如何ナル方略  
 ヲ用ヒタルヤ (六)聖戰ハ何ニ起因シタルヤ其事ニ與リタルハ何州ナル  
 ヤ (七)ヒリツプハ如何ナル舉動ニ出テタルヤ且ツ如何ナル稱号ヲ得  
 タルヤアゼンヌノ人民ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (八)ヒリツプ復  
 ヒ希臘ヲ如何ニセシヤ其時機ハ如何ヒリツプニ抗シタルモノハ何州  
 ナルヤ交戦ノ結局ハ如何 (九)ヒリツプ戦ニ羸ツノ後チ何等ノ政略ヲ  
 採リタルヤ (十)ヒリツプハ之ニ次テ何事ヲ計畫シタルヤ且ツ其身邊  
 ニ何事ヲ生シタルヤ (十一)ヒリツプヲ紹キタル者ハ何人ソアレキサン  
 トルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十二)デモツセンヌハ何事ヲ為シタルヤア  
 レキサンドルハ何等ノ舉動ニ出テタルヤセーフス人ノ運命ハ如何ソ  
 ノ舉動ノ影響ハ如何 (十三)アレキサンドル之ニ次テ如何ナル政略ヲ用  
 ヒタルヤ其軍ニ從ヒタル者ハ誰ソ (十四)アレキサンドルハ如何ナル兵  
 ヲ將テヘルレスホントノ海峡ヲ濟リタルヤ先ツ何レノ地ニ向ヒタル  
 ヤ佞レアーチルレスノ事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十五)波斯ノ知州アレ  
 キサンドルヲ邀ヘ戦ヒタルハ何レノ地ヲグラニシウス河畔ノ戦ニ於

テ馬波兩軍ノ死傷ハ幾クナルヤアレキサントルノ事ニ就キ此章ニ於  
テ何ヲ記シタルヤ (其)此勝戰ノ結局如何 (七)明年ノ春如何ナル戰ア  
リタルヤ波軍ノ數ハ幾許ナルヤ其死傷ハ幾許ニシテ交戰ノ地ハ何レ  
ナルヤ (六)羸王ノ獲ル所ト為リタル者ハ誰ソダリウスハアレキサン  
ドルノ大度ナルニ感激シ如何ナル事ヲ陳出セシヤ (五)バルメニオハ  
之ニ就テ如何ナル説ヲ述ヘタルヤアレキサントルノ答詞ハ如何且ツ  
ダリウスノ陳出ニ答フルニ如何ナル言ヲ以テシタルヤ (三)アレキサ  
ンドルハ次テ如何ナル事ヲ做シタルヤタイルノ人民其需ムル所ニ應  
セス是ニ於テ如何ナル事ヲ生シタルヤアレキサントルハ如何ナル殘  
忍ヲ行ヒタルヤ (世)アレキサントルハ尋テ又タ何事ヲ成シタルヤ  
(其)是ヨリ何レニ向テ進向シタルヤ且ツ如何ナル功業ヲ成シ如何ナル  
府城ヲ開創シタルヤ (其)アレキサントル國ニ歸ルノ日ダリウスヨリ  
何事陳出シタルヤ而シテ之ニ答フルニ何等ノ言ヲ以テシタルヤ (其)  
アレキサントルハ幾多ノ大事ヲ督シテエオハレット河ヲ濟リタルヤ  
其戰ニ於テ幾許ノ死傷アリシヤ其地ハ何レニシテ此戰ヲ名ケテ何ト

曰ヒタルヤ (其)其交戰ノ結局ハ如何爾後歐洲ノ形勢ハ如何ダリウス  
及ビ其帝國ニ何事ヲ生シタルヤ (其)アレキサントル尋テ何事ヲ做シ  
タルヤ其兵卒ハ何等ノ舉動ニ出テタルヤ (其)後チアレキサントルハ  
ハ兵ヲ將テ何府ニ進向シタルヤ且ツ其地ニ至リ何事ヲ為シタルヤア  
レキサントル殂落シタルハ何レノ地ニシテ其形狀ハ如何ナリシヤ  
(其)アレキサントルノ及ヒ其舉動ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (其)アレキサ  
ントルノ才略及ヒ性質ハ如何 (三)アレキサントルハ當初何ヲ以テ其  
名特ニ著ハレタルヤ後チ何事ヲ生シタルヤ (世)アレキサントルハ如  
何ナル忘恩不止ノ舉アリタルヤ (世)其事跡ハ如何

第十章

(一)アレサンドルハ其嗣ヲ定ムルニ如何ナル言ヲ以テシタルヤ其殂落  
ハ何ニ起因シタルヤ (二)諸將ノ推ス所ト為リ其位ヲ繼キタル者ハ誰  
ノ如何ニシテ其國ヲ分割シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤアイブシウ  
スノ戰アリテヨリ更ニ其國ヲ分割シタル形狀如何 (三)トレース及ヒ  
馬基頓尼亞王國ノ末路如何西里亞及ヒ埃及ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

(四) アレキサンドルノ希臘ヲ征服スルニ當リ各州ノ舉動如何 (五) アレ  
 キサンドル殞落ノ報アゼンスニ達セルキ如何ナル影響ヲ生シタルヤ  
 デモツゼンスニ抗辯シタル者ハ誰ソボレオンノ辨論ハ如何 (六) デモ  
 ツゼンスノ勸告シタル所ハ何等ノ勢力ヲ有シタルヤ且ツ其運命ハ如  
 何 (七) アンチパートルヲ繼キタル者ハ何人ソアゼンスニ於テ何事ヲ  
 生シタルヤボレオンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (八) ポリスヘリコンヲ繼  
 キタルモノハ誰ソデメトリウス、パレリウスノ施治ニ就テ何ヲ述ヘタ  
 ルヤ (九) 後チアゼンスノ形勢ハ如何 (十) 是ヨリ希臘諸州ノ形勢ハ如  
 何ナリシヤ其國ヲ蹂躪シタルモノハ誰ソ (十一) 尋テパロボン子シウス  
 ヲ伐チタル者ハ何人ワ且ツ其人ノ身邊ニ何事ヲ生シタルヤ (十二) 希臘  
 ノ國勢ヲ復セリト欲シテ末後ノ聯盟ヲ做シタルハ如何ニノ聯盟ノ治  
 權ヲ誰ニ委子タルヤ其任ヲ受ケタル者ハ如何ナル政略ヲ用ヒタルヤ  
 (十三) アラチユスヲ嗣キタル者ハ何人ワ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十四)  
 羅馬人ニ就テ何ヲ説話シタルヤクインチユース、フラミニウスハ羅馬  
 ヲ督テ何事ヲ成シタルヤ後チ幾ント三十年ニシテ何事ヲ生シタルヤ

(十五) アーチエン聯盟ニ關シテ羅馬人ノ事ニ與リタル形勢如何援ヲ羅  
 軍ニ求メタルモノハ誰ソメトリウスノ舉動ハ如何後チ何事ヲ生シタ  
 ルヤ (十六) 希臘ノ羅馬ニ隸屬スルノ後チ其形情ハ如何羅馬ノ名士輩ハ  
 業ヲ何レノ地ニ於テ受ケタルヤ (十七) 更ニ希臘ノ史記ヲ再檢スルキハ  
 如何ナル感覺ヲ生スルヤ希臘ノ他邦ニ冠絶スル所ノモノハ何ツ (十八)  
 アゼンスノ史ヲ讀ム者ヲレテ感懐ニ堪ハサラシムモノハ如何ナル事  
 情ナルヤ不幸ニシテ無道ノ犠牲ト為リタル者ハ誰ソ之ニ就テ如何ナ  
 ル事ヲ做シタルヤ (十九) 希臘ノ徳世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ希人ノ品行  
 ハ如何 (二十) ミットフオールドノ記スル處如何 (二十一) 上古是國何ヲ以テ特  
 ニ著ハレタルヤ降テ近世ニ及テハ如何環宇ノ通史ニ於テ何ヲ証明シ  
 タルヤ

第十一章 希臘ノ故事

古代ノ學派ハ多ク何人ニ出テタルヤ希臘文學ノ隆興ヲ極メタルハ何  
 レノ時代ナレヤイオニツクノ學派ニ就テ何ヲ述ヘタルヤイタリアン  
 派即チピサゴレアン派ハ如何ソクラチツク派ハ如何サイニツクス派

ハ如何(アカデミツク)派ハ如何(ベリパチツク)派ハ如何(スセプチカル)派ハ如何(ストイツク)派ハ如何(エビキウレアンス)派ハ如何(タイトレル)ハ希臘ノ哲學ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其學ヲ世ニ傳ヘタル者ハ如何ナル進路ヲ取りタルヤ

希臘ノ詩人ニレテ其名特ニ著ハレタル者ハ誰ソ

彫像繪画及ヒ編史ヲ以テ特ニ名アル者ハ何人ソ

希臘ノ七賢士トハ誰ソ

希臘公會ハ誰ノ立ツル所ソ其組織ハ如何其代議士ハ幾人ヲ以テ成リタルヤ其會議ハ何レノ時ヲ以テ何レノ處ニ開キタルヤ 其會ノ目的ハ如何 希臘ノ如何ナル時ヲ以テ神託ヲ乞ヒタルヤ 其最モ有名ナルモノハ何ソ 希臘ノ四大祝節トハ何ソ其時公戲ヲ行フニ方リ如何ナル運動ヲ行ヒタルヤ 競走跳并ニ鬪拳ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (オリ

ンピツクガムス)ハ誰ノ為ニ設ケタルモノナルヤ之ヲ行ヒタルハ何レノ時ヲ以テ何レノ地ニ於テシタルヤ 之ニ因テ何ヲ群集セシメタルヤ 預メ之カ備ヲ為スニ何ヲ要シタルヤ 競戯ヲ行フ者ハ何等ノ誓ヲ行ハサルヲ得サリシカ 其贏者ニ賞與スルニ何ヲ以テシタルヤ (ヒシアンガムス)ニ就テ何ヲ説話シタルヤ 其贏者ニ冠スルニ何ヲ以テシタルヤ (子メアンガムス)ハ往々如何ナル状態ヲ以テ何レノ地ニ行ヒタルヤ 其贏者ニ冠スルニ何ヲ以テシタルヤ (イスマアンガムス)ハ何故ニ其名アルヤ 之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其贏者ハ何ヲ以テ賞セラレタルヤ アセンスノ府民ヲ分テ幾等ト爲シタルヤ府民トハ如何ナルモノソ之ヲ分テ幾族ト爲シタルヤ 府民ノ特例ハ如何 羈客ノ貧富ハ如何 奴隸ハ如何 行政ノ主權ハ何人ノ掌中ニ在リタルヤ之ヲ有スル者ハ如何ナル花冠ヲ用ヒタルヤ九員ノ第一位ニ居ル者ヲ何ト名ケタルヤ其職務ハ如何其死刑ニ該ルモノハ何等ノ罪ヲ犯シタルヤナルヤ 第二監國ノ職務ハ如何第三監國ハ何ヲ掌リタルヤ 其他六員ノ監國ハ何ヲ以テ職務ト爲シタルヤ アセンスノ官吏ハ何ニ因テ

三種ニ區別シタルヤ 貧困ノ府民ハ何等ノ權利ヲ有シタルヤ候補タル者ハ如何ナル義務ヲ負ヒタルヤ官吏ハ在國中何等ノ責任ヲ帶ヒタルヤ其任滿ツルノ後ハ如何ナル事ヲ為スノ義務アリタルヤ 民會ハ何人ヲ以テ組織シタルヤ其開會ノ度數及ヒ場處ハ如何 公務ヲ執ルニ方リ民會ハ幾多ノ府民ヲ要シタルヤ且ツ其決議ノ方法ハ如何 元老院ノ議負ハ幾度之ヲ撰舉シ且ツ幾人ヲ以テ成リタルヤ元老院ノ職務ハ如何 高等法院ノ名稱ハ之ヲ何ニ取リタルヤ此法院ニ就テ何ヲ述ハタルヤ其法官ハ何ヲ保護スルヲ以テ職務ト為シタルヤ 貝殼流刑ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其ノ罪科ハ必ス此流刑ヲ免レタルヤ否此法ノ是非得失ニ就テ何ヲ論シタルヤ

スバルタノ居民ハ如何ナル二種ノ等級ヨリ成リタルヤ 其府民ヲ分テ如何ナル二等ト為シタルヤ 奴隸ト良民ト其數孰レカ多キヤ奴隸ハ何ヲ做スヲ以テ職務ト為シタルヤ 二名ノ首官ハ何ソ其職務ハ如何 元老院ハ何人ヲ以テ組織シタルヤ其職務ハ如何此會

負ト爲ルヲ得ヘキ者ハ何人ソ 公撰官トハ何ソ其職務ハ如何 スバルタノ二公會トハ何ソ何レノ時ヲ以テ其大會ヲ開キタルヤ其小會ノ目的并ニ會期ハ如何

希臘史年表

第一ノ四年期ハ何レノ時ニ起リタルヤ ソロンノ法典ヲ編制シタルハ何レノ時ソ 波斯ト兵ヲ構ヘタルハ何レノ時ナルヤペロホン子シウスノ役ハ如何 アレキサンドルノ波斯ヲ伐チクルハ何レノ時ソ アイブシウスノ戰ハ何レノ時代ナルヤビドナノ役ハ如何 希臘ノ羅馬ニ隸屬シタルハ何レノ時代ナルヤ 紀元前第八世紀間ノ事跡ニ就テ其二三ヲ示セ第七世紀及ヒ第六世紀等ハ如何

希臘文學年表

紀元前第七世紀ニ於テ政事家及ヒ雄將ノ聲名特ニ著ハレタル者ハ誰ソ第六世紀以下ハ如何 紀元前第六世紀間ノ哲學士ハ如何第五世紀以下ハ如何 紀元前第七世紀間ノ詩人画工ハ如何第六世紀以下ハ如何 紀元前第五世紀間ノ史家ハ如何ナル人ナルヤ第四世紀以下ハ如何

セロシンド王統西里亞ヲ治ム

(一)アレキサンドル殞落ノ後チ其亞細亞ノ屬地ヲ略有セシ者ハ何人ソ  
 アンチゴニウスヲ破リタル者ハ誰ソ西里亞即チシロメヂアノ王國ハ  
 其存立幾年ノ久シキニ亘リタルヤ之ヲ治メタルハ如何ナル列王ナル  
 ヤ (二)セロークス及ヒ其功業ニ就テ何ヲ述ヘタルマアンチオーチハ  
 如何 (三)セロークスノ末路ハ如何之ヲ繼キタル者ハ誰ソ (四)アンチ  
 オーチユス、ソリス及ヒセロークス、カリニシウスノ治世ニ就テ何ヲ説  
 キタルヤ (五)此王統ノ中ニテ名聲較著ナルモノハ何人ソ且ツ其治世  
 ハ如何 (六)アンチオーチユスヲ訪ヒタル者ハ誰ソ其人ハ何事ヲ做サ  
 ント欲シタルヤ且ツ何レノ地ニ於テ何人ノ破ル所ト為リタルヤ (七)  
 尋テ位ニ就キタル二王ハ誰ソ其中第二ノ王ハ何事ヲ為シタルヤ猶太  
 人ハ何事ヲ成シタルヤ (八)爾後列王ノ相繼テ世ヲ治メタルハ如何 (九)  
 セロークス第一世ノ即位ハ何レノ時ツアンチオーチユス偉帝ハ如何  
 セロシンド王統ノ末主ハ何人ソ

プトレミリス王統埃及ヲ治ム

(一)埃及ノ隆盛ニ就テ何ヲ述ヘタルヤプトレミリス王統ハ幾世ノ間繼  
 續セシヤ (二)プトレミリスラキユストハ何人ソ其事跡及ヒ才略ハ如何  
 (三)其公務上ニ於テ如何ナル大功アリシヤ (四)プトレミリスト  
 ヲ繼キタル者ハ誰ソプトレミリスヒラデラフスニ就テ何ヲ説話シタル  
 ヤ其朝廷ノ事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其位ニ在ルノ日如何ナル著名ノ  
 翻譯アリタルヤ (五)プトレミリスイーブルゲートスニ就テ何ヲ述ヘタ  
 ルヤ其即位ハ何レノ時ナルヤ其居ハ如何ナル誓ヲ行ヒタルヤ (六)其  
 毛髮ハ何等ノ尊重ヲ受ケタルヤバネニスノ毛髮ニ就テ何ヲ述ヘタ  
 ルヤ之ニ就テ何事ヲ生シタルヤ (七)プトレミリスイーブルゲートスヲ  
 繼キタル者ハ誰ソ其位ニ在ルヤ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ何ニ因テ  
 猶太人ヲ憎ミタルヤ (八)拒レ如何ナル告諭ヲ發シタルヤ其成蹟ハ如  
 何後チ何ヲ命令シタルヤ其結果ヲ問フ (九)プトレミリス王統ノ列王ニ  
 就テ何ヲ述ヘタルヤ (十)プトレミリストハ何故ニ其名アリヤ  
 トレミリスヒラデルフスプトレミリスエピハ子ス等ハ如何 (十一)プトレミ  
 リス王統ノ末主ハ何人ソ其居ハ誰ソ其事跡ハ何人ト相聯串スルヤ其

殂落ノ状ハ如何後チ埃及ノ形勢ハ如何 (土) プトレミース王統ノ列后  
ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三) プトレミース王統ノ即位ハ何レノ時ナ  
ルヤニ

羅馬史

第一章

(一) 希臘征服ノ後チ人ノ注目スル所ト為リタルハ何國ナルヤ其隆興レ  
テ重要ノ位地ヲ占ムルニ至リタルトニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其沿革ハ  
如何且ツ其中ニ何ヲ包含セルヤ (二) 上古其境域ハ如何後チ如何ナル  
變遷アリシヤ此帝國ノ存立幾年ノ久キニ涉リタルヤ (三) 羅馬上古ノ事跡ハ  
如何 其沿革ニ就テ真偽相半ハスルモノアラン是レ果シテ何ノ理ソ  
(四) 七王ノ相繼テ世ヲ治メタルハ幾世ノ間ナルヤ其事跡ハ如何其治世  
ノ年數ヲ平均スレハ幾年ナルヤ (五) 上古ノ沿革ニ就テ何ヲ論シタル  
ヤロムリウス七王并ニ共治政體ノ初年ニ就テ何ヲ論シタルヤ (六) ア  
イ子アスノ事ニ就キ詩人ノ説ク所如何其族統ノ相繼キタルハ何年間  
ナルヤ (七) レズシルビクハ誰ノ母ナルヤ其兄弟ニ就テ何ヲ述ヘタル

ヤロチクウス羅馬府ヲ開ク後チ何事ヲ做シタルヤ (八) ロムリウス  
ハ如何ニシテ民等ヲ分類シタルヤ元老院ハ幾多ノ議負ヲ以テ成立シ  
タルヤ其撰舉人ハ誰ナルヤ二等ノ互ニ相附着シタル所以ヲ問フ主從  
相負フ所ノ義務ハ如何 (九) 國王ニ隨伴スル者ハ何人ソ (一) 羅馬ノ第  
二王ハ誰ソ且ツ何府ニ生シタル者ナルヤ其事跡ハ如何ニ記サレタル  
ヤ其事業ハ如何 (二) 其第三王ハ誰ナルヤ其治世ハ何ヲ以テ特ニ著ハ  
レタルヤ其格闘ノ結局ハ如何 (三) 其第四王ハ何人ソ何レ何事ヲ做シ  
タルヤ (四) アンクスマルチウスヲ繼キタル者ハ何人ソ何レ何事ヲ做  
シタルヤ (五) セルビウスチルリウスニ就テ何ヲ述ヘタルヤセルビウ  
スハ何ヲ設立シタルヤ何ヲ行フテ民籍表ノ編纂ヲ卒ヘタルヤ (六) セ  
ルビウスノ二女ハ如何ナル性質ナリシヤ其位ヲ安固ナラシメント欲  
シテセルビウスハ如何ナル政略ヲ施シタルヤ如何ニシテ其失體ヲ矯  
正シタルヤ其結局ハ如何 (七) タルクイン傲王即位ノ形況ハ如何其結  
果ハ如何ヤキヌチウスニ就テ何ヲ述ヘタルヤレクトリアハ如何ナル  
舉動ヲ做シタルヤ (八) 民心ヲ激發シテタルクインスノ族類ヲ憎惡セ

シムルニ如何ナル處置ヲ施シタルヤタルクインニ對シテ如何ナル舉動アリシヤ

第二章

(一) 王政ヲ廢シテ如何ナル政体ヲ立テタルヤ其主權ハ誰レノ掌中ニ歸シタルヤ更ニ如何ナルニ新官ヲ撰任シタルヤ其職權ハ如何初任ノ大憲ト為リタル者ハ何人ソ (二) タルクインハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ羅馬ニ於テ之ニ黨シタル者ハ何人ナルヤブリウチユスノ數子ハ如何ナル陰謀ニ與シタルヤブリウチユスハ如何ナル舉動ニ出テタルヤ古代ノ著者ハ其行ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ (三) 羅馬府内ノ反亂平定スルノ後チ何事ヲ生シタルヤブリウチユスノ長述ニ就テ如何ノ感動ヲ惹起シタルヤ初メテ凱旋ノ榮賞ヲ得タル者ハ何人ソ (四) バレリウスハ其人望ヲ復セント欲シテ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ其定ムル所ノ法律ハ如何ナル效驗ヲ有シタルヤ (五) 羅馬人ハタルクインノ事ニ就テ相闘フモノ幾年ノ久シキニ及ビタルヤ就中其戰ノ最モ著明ナルモノハ何ソ且ツ之ニ臨テ聲名特ニ著ハレタル者誰ソ (六) 之ニ加フル

ニ如何ナル困難ヲ以テシタルヤ庶民ハ如何ナル舉動ニ出テタルヤ大憲ノ職權ハ何故ニ有名無實ニ歸シタルヤ (七) 是時ニ當リ如何ナル新官ヲ設ケタルヤ之ヲ任定スルニハ如何ナル時ニ於テシタルヤ其職權ハ如何全權總領ノ撰ニ當リタル者ハ誰ソ其結果ハ如何其他全權總領ノ撰任ヲ要スルハ如何ナル時ナリシヤ (八) 平和ヲ復スルノ後チ如何ナル困難ヲ繼發シタルヤ亂將ニ作ラントスルニ及テ庶民ハ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ其公言セシ所ハ如何而シテ終ニ如何ナル事ニ及ヒタルヤ (九) 其舉動ノ成績ハ如何メ子ニウス、アグリッパ、何事ヲ為シタルヤ庶民ニ與フルニ何ヲ以テシタルヤ保民官ヲ撰任シタルハ幾回ニシテ其員數ハ幾人ナルヤ更ニ又タ如何ナルニ官ヲ置キタルヤ (十) 農事ヲ顧ミサルヨリ何ヲ生シタルヤコリオラニウスハ如何ニシテ人民ヲ激怒セシメタルヤ其成績ハ如何 (十一) 如何ナル法案ヲ提出シテ内訌ヲ惹起シタルヤ公田ノ分有ヲ要メタル者ハ何人ソ (十二) ボレロノ制定シタル法律ハ何ソ且ツ其效驗ハ如何 (十三) シンシナチユスノ事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ佞戰勝ノ後チ如何ナル事ヲ為シタルヤ (十四) 羅

馬ノ法律ニ關スル事實ハ如何審判ヲ司リタル者ハ誰ソ其行為ヲ評シ  
 テ何ト曰ヒタルヤ一部ノ法典ヲ編制スルニ如何ナル處置ヲ施シタル  
 ヤ (一) 什官ヲ任命シタルハ何ノ為ナルヤ之ヲ如何ナル成文律ノ起原  
 トスルヤ (二) 什官ニ委ヌルニ何ヲ以テシタルヤ其施治ノ形況ハ如何  
 何ニ因テ此官職ヲ廢スルニ至リタルヤ (三) アツピウス、クロウヂユス  
 數罪アリ其一ハ何ノ其他ハ何ナルヤ (四) クロウヂユスハ如何ナル告  
 諭ヲ發シタルヤヒルヂニユスハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ其結果ハ  
 如何什官及ヒ其職ニ就テ如何ナル事ヲ生シタルヤ

第三章

(一) 縉紳庶民ヲシテ猶ホ隔絶セシメタル者ハ何ソ如何ナル法令ヲ廢棄  
 シタルヤ其結果ハ如何 (二) 大憲ニ代ユルニ何等ノ官吏ヲ撰任シタル  
 ヤ其職務ハ如何且ツ其官職ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三) 人民兵役ヲ忌  
 避スルノ弊害ヲ除カント欲シテ如何ナル事ヲ行ヒタルヤ其後如何ナ  
 ル變化ヲ生シタルヤ (四) ベイリーノ事ニ關シ如何ナル告諭ヲ發シタル  
 ヤ (五) カミリウス如何ナル舉動ヲ為シタルヤ其賞ヲ受ケタル形情ハ

如何 (七) ゴールス族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其從事シタルモノハ何ナ  
 リシヤブレニウスハ元老院ノ傳諭ニ答フルニ何ヲ以テシタルヤ元  
 老院ノ使臣クレシウムノ居民ヲ援ケタルノ故ヲ以テブレニウスハ  
 何事ヲ做シタルヤ (八) アルリアノ戰アリテヨリコールス族ハ如何ナ  
 ル舉動ヲ為シタルヤ一隊ノゴールス族ハ如何ナル計畫ヲ做シタルヤ  
 其結果ハ如何 (九) ゴールス族ハ如何ナル條約ヲ以テ羅馬府ヲ去ル  
 ヲ諾シタルヤカミリウスハ何事ヲ為シタルヤ (十) 後チマンリウスノ  
 身邊ニ何事ヲ生シタルヤ (十一) 之ニ次テ羅馬人ハ其兵鋒ヲ何レニ向ケ  
 タルヤ其交戦ハ幾年ニ亘リ且ツ其戰況ハ如何ナリシヤサミウルスハ  
 羅馬人ヲシテ如何ナル凌辱ヲ受ケシメタルヤ其結局ハ如何 (十二) トル  
 クオーチユス、マンリウス大憲ノ職ニ在ルノ日如何ナル戰乱ヲ生シタ  
 ルヤマンリウスノ子ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十三) タレンチース族ハ何  
 ヲ做シタルヤピルリウスハ幾多ノ大軍ヲ督シテ上陸シタルヤ交戦ノ  
 結果ハ如何ピルリウスハ如何ナル歎詞ヲ發シタルヤ (十四) フハブリ  
 ウスハ如何ナル大度ノ行アリシヤ之ヲ以テ如何ニピルリウスヲ感動

セシメタルヤ (五) 後チピルリウスハ如何ナル舉動ヲ爲シタルヤ是時ニ當テ羅馬人ハ何地ヲ占有シタルヤ

第四章

(一) 茲ニ至リ羅馬ノ史記ハ何國ト相聯串スルヤ (二) 加爾塞地ハ何人ノ開創スル所ナルヤ其政体ハ如何ニシテ其宗族ハ如何ナルモノナルヤ (三) 加國ノ役ナルノ日其國勢ハ如何其境域ハ如何其國人ノ性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (四) 其國ニ幾多ノ學士ヲ出セシヤ將師ハ如何 (五) 西細里亞ハ何人ノ開創スル所ナルヤシラキウスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ニシテ其國ヲ治メタルヤ (六) セロン及ヒ其嗣ニ就テ何ヲ陳ヘタルヤ王政ヲ復古シタル者ハ誰ソテオンシウス冲王ヲ廢シタル者ハ何人ソ

第五章

(一) 羅馬人下部伊太里ノ全土ヲ略スルノ後チ何ヲ得ント欲シタルヤ猶未タ何レヲ侵略セサリシヤ加爾塞地ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ニシテ加人ト羅馬人トヲ比較シタルヤ (二) 第一加國ノ役ハ如何ニシテ起リタルヤ兩軍ノ目的トスル所ハ如何 (三) 羅馬人ハ如何ナル舉動

ヲ為シタルヤ其戰勝ハ如何シラキウスノ兵ハ何レニ黨シタルヤ (四) 其他羅馬人ハ何等ノ戰ニ勝ニタルレギユルスハ如何ナル舉動ヲ

做シタルヤ其結果ハ如何且ツレギユルスニ就テ何ヲ説キタルヤ (五) 交戦ノ終局ハ如何ナリシヤ加人ハ如何ナル條款ニ同意シタルヤ西細

里及ヒシラキウスノ國勢ハ如何尋テ羅馬人ハ何レノ地ヲ略シタルヤ (六) 昇平ハ幾年間繼續シタルヤジヤニウスノ神廟ヲ鎖シテヨリ幾

年ノ間平和ヲ維持シタルヤ (七) ハンリカルノ事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤハンニバルハ如何ハンニバルハ如何ニシテ第二加國ノ役ヲ起シタ

ルヤ (八) 是時ニ當テハンニバルハ如何ナル計策ヲ施シタルヤカン子ノ戰勝及ヒ羅馬軍ノ死傷ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (九) ハンニバルハ何ニ

因テ罪ヲ得タルヤ (十) 是時羅馬人ハ何人ノ指揮スル所ト為リタルヤ

フハビウス及ヒマルセリウスヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤハンニバルハ其後如何ナル事ニ遭遇シタルヤ (十一) シラキウスニ就テ何ヲ説話シタ

ルヤ是時ニ當リ其國勢ハ如何アスドルバル加軍ヲ督シテ如何ナル運命ニ遭遇シタルヤ (十二) スレピオ幼將ハ如何ナル事ヲ做シタルヤ加人

ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ尋テ如何ナル戰アリシヤ和約ノ條款ハ如何ソノ交戦ハ幾年ノ久シキニ涉リタルヤ (三) ハンニバルハ餘生ヲ何レノ地ニ送リタルヤ且ツ誰ト厚ク相交リタルヤ其問ニ答フルニ如何ナル言ヲ以テシタルヤ何人ヲ以テ功業無比ノ雄將ト為シタルヤ (四) 第一馬基頓ノ役ハ如何ニシテ其局ヲ結ヒタルヤスレピオアシアチツクス羅軍ヲ督シテ如何ナル勝利ヲ得タルヤ第二馬基頓ノ役ハ如何ニシテ畢リタルヤ (五) 羅馬人ハ第三加國ノ役ヲ起スニ方リ如何ナル口實ヲ設ケケタルヤポルシウスゲートニ就テ何ヲ記シタルヤ (六) 加入何ヲ發議シタルヤ羅馬人ハ之ニ向テ何ヲ要ノタルヤ如何ニシ其要求スル所ニ應シタルヤ (七) 環攻ノ日子及ヒ結果ハ如何其府城ヲ破毀シタル事ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (八) 其他此年ニ在テ特ニ著ハレタルモノハ何ソ後チ幾モナク羅馬人ハ更ニ何レノ地ヲ侵略シタルヤ

第六章

(一) 是ヨリ先キ羅馬人ハ何ヲ以テ著ハレタルヤ是時ニ當テ其性質ヲ變更シタルモノハ何ソ (二) 當時羅馬ノ國勢ハ如何既ニシテ外患ノ跡ヲ

絶ツノ後チ如何ナル事ヲ生シタルヤ (三) チバリウス及ヒカイウスガラツチユスニ就テ何ヲ説キタルヤチベテウスハ何ヲ做サントシタルヤ其結果ハ如何 (四) 其兄弟カイウスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五) ヨグダルサハ如何ニシテヌミヂヤノ王位ヲ得ント欲シタルヤ更ニ又タ何事ヲ做シタルヤ (六) ヨグダルサヲ伐ツキ羅軍ヲ將ヒタル者ハ何人ナルヤ其結果ハ如何後チマリウスハ如何ナル勝利ヲ得タルヤ (七) 閼闞ノ亂ハ何ニ起因セルヤ此亂ニ於テ幾多人命ヲ墮シタルヤ其終局ハ如何 (八) ミスリテートスハ如何ナル計策ヲ案出シタルヤ如何ニシテ所謂ルミスリテートノ役ヲ起シタルヤ羅馬人ニシテ其役ニ臨ミ其名特ニ著ハレタル者ハ誰ソ (九) シルラニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其敵手マリウスハ如何 (十) シルラハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤマリウスハ如何ナル事ヲ為シタルヤシルラハ如何ヲ成シタルヤ其他マリウス及ヒシルラニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一) シルラ師ヲ旋スノ後チ何ヲ做シタルヤ且ツ敵兵ニ復讐スルノ後チ何等ノ舉動ヲ為シタルヤ佞レ自ラ如何ナル碑銘ヲ草シタルヤシルラマリウスト戰ヒ為メニ幾人ノ生命ヲ墮シ

タルヤ (三)シラ死スルノ後チ如何ナル事ヲ生シタルヤマリウスノ  
 黨渠ヲ援ケタル者ハ誰ソ (四)尋テ羅馬ハ如何 (五)スバルタキユス敗  
 戦ノ後チ數年ヲ出テスレテ何事ヲ生シタルヤ如何ナル計策ヲ用ヒタ  
 ルヤ (六)此陰謀ヲ發見シテ遂ニ之ヲ破リタル者ハ何人ナルヤ其終局  
 ハ如何

第七章

(一)ポンペーハ何故ニ偉人ノ副号アリタルヤ其事實ハ如何其羅馬ニ還  
 ルノ日衆民ノ之ヲ迎ヘタル形况ハ如何 (二)是時ニ當テ羅馬國中著明  
 ノ人物ハ誰ゾゼリウス、セーサルニ就テ何ヲ述ヘタルヤポンペークラ  
 ヲシユス及ヒセーサルハ何事ヲ做シタルヤ (三)其三士ハ如何ニシテ  
 國中ヲ分轄セシヤクラツシユスノ舉動ハ如何セーサル及ヒポンペー  
 ニ就テ何事ヲ生シタルヤ (四)セーサル國中ヲ分轄スルノ後チ如何ナ  
 ル舉動ヲ為シタルヤ其履歴ハ如何且ツ其仁義ノ假面ヲ被リテ能ク事  
 ヲ處シタル形情ハ如何佗レ何ニ收得シタルヤ (五)ポンペーニ就テ何  
 ヲ述ヘタルヤセーサルノ任期將ニ滿チントスルニ及テ如何ナル事ヲ

生シタルヤ尋テ何事ヲ繼發シタルヤポンペーニ黨シタル者ハ何人ナ  
 ルヤセーサルニ與レタル者ハ誰ソ (六)ポンペーハ如何ナル準備ヲ做  
 シタルヤ人アリ其備ノ整否ヲ問フポンペー之ニ答フルニ何ヲ以テシ  
 タルヤ且ツ如何ナル兵ヲ以テセーサルニ抗ランヲ期シタルヤ (七)  
 セーサルハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ其治權ヲ分界シタルモノハ如  
 何ナル河流ナリシヤ其河岸ニ至ル片何事ヲ爲シタルヤ (八)此報ノ羅  
 馬ニ達シタル片如何ナル影響ヲ生シタルヤポンペーハ如何ナル舉動  
 ニ及ヒタルヤ之ニ從ヒタル者ハ誰ソ (九)セーサルハ如何ナル勝戦ヲ  
 做シタルヤセーサル曰ク吾己ニ伊太里ニ入ルト是果シテ何ノ為ナル  
 ヤセーサル尋テ又タ何事ヲ做シタルヤ (十)東方諸國ノ君主ハ何レニ  
 黨シタルヤポンペーニ合シタル者ハ誰ソ (十一)日間羅馬  
 ニ在ルノ後チ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ其戦ノ重大ナルヲニ就テ何  
 ヲ述ハタルヤ (十二)兩黨各幾多ノ兵負ヲ有シタルヤポンペーノ黨與ハ  
 如何ナル感情ヲ懷キシヤ其交戦ノ結果ハ如何 (十三)セーサルハ如何ナ  
 ル慈仁ヲ為シタルヤ其戰場ヲ目撃シタルヲニ就キ何ヲ述ヘタルヤ

西史要

卷二

七

(五) 齒ポンペーノ舉止并ニ命數ニ就テ何ヲ記述シタルヤ其屍灰ノ上ニ如何ナル碑銘ヲ題シタルヤセーサルノ行為ニ就キ如何ナル奇談ヲ録シタルヤ (五) 是時ニ當テ埃及ノ王位ヲ有チタル者ハ何人ソクレオパトラニ就テ何ヲ記述シタルヤ尋テ如何ナル戦乱ヲ生シタルヤセーサルノ埃及ヲ去リタルハ何ニ起因スルヤセーサル自ラパルナセスノ戦勝ヲ公報スルニ如何ナル語ヲ以テシタルヤ (六) セーサルハ尋テ何等ノ舉動ヲ為シタルヤ其亞弗利加ノタツブレウスニ於テ之ヲ破リタルハ何人ナルヤケートニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (七) セーサル羅馬ニ歸ルノ日如何ナル凱旋ヲ行ヒタルヤ且ツ軍人并ニ國民ノ歡心ヲ得ント欲シテ如何ナル事ヲ爲シタルヤ之ニ因テ衆庶及ヒ元老院ニ於テハ如何ナル感覺ヲ生シタルヤ (八) 尋テセーサル何レノ地ヲ征スルニ至リタルヤ其結局ハ如何 (九) 既ニシテセーサル悉ク其己レニ抗敵スル者ヲ服スルノ後ナ如何ニシテ其權ヲ弄シタルヤ自ラ其計策ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ其舉止并ニ成績ハ如何 (三) セーサルノ計策ニ就テ如何ナル訛言アリシヤ其民情ニ就テ何ヲ述ヘタルヤセーサルヲ刺サント欲シテ如何

何ナル密計アリタルヤブリウチユス及ヒカツシウスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十) 密謀ノ徒ハ如何ナル時ヲ以テ其事ヲ實行セント欲シタルヤセーサルハ如何ニシテ自ラ防キタルヤ且ツ其結局ハ如何其年齢及ヒ事跡ニ就テ何ヲ列記シタルヤ (十一) セーサルハ一身ニシテ三能ヲ兼子タルハ如何其尊敬ス可キ所ハ何レニ在リヤ (十二) 其事跡及ヒ性質ニ就テ何ヲ論シタルヤセーサルノ為ニ如何ナル辯ヲ做ス者アリヤ其同時代ニ生存シタル羅馬ノ愛國者ハ何人ナルヤ (十三) セーサル嘗テアルプス山中ノ一小村ヲ過ルルハ如何ナル言ヲ發シタルヤセーサル屢エウリヒツドスノ詩句ヲ口吟シテ如何ナル感情ヲ發シタルヤ (十四) 其用兵ニ長シ且ツ兵士ニ名望アリシヲニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ニシテセーサルヲアレキサンドルニ比シタルヤ (十五) モルレルハ如何ニシテセーサルノ功業ヲ略叙シタルヤ (十六) セーサル謀殺ニ遭フトキ羅馬人民ヲ激動セシメタル形情ハ如何マークアントニハ何ヲ做シタルヤ且ツ其成績ハ如何 (十七) マークアントニレピヂウス及ヒオクタヴィウスニ就テ何ヲ記シタルヤ (十八) 其三人相約シテ何ヲ做シタルヤ其殺戮ニ

遭フヘキ者ノ二三ヲ攀ケヨシセロノ死シタルヲニ就テ何ヲ述ヘタル  
ヤ其毒手ニ斃レタル者ハ誰ソ (三) ブリウチユス及ヒカツシウスニ就  
テ何ヲ述ヘタルヤ之ヲ追躡シタル者ハ何人ナルヤ其結果ハ如何ブリ  
ウチユス及ヒカツシウスハ如何ナル舉動ニ出テタルヤ (世) 什官ニ就  
テ何ヲ記述シタルヤアントニ及ヒクレオパトラニ就テ何ヲ述ヘタ  
ルヤ (世) アクチウムノ戦ハ如何ナル成績ヲ生シタルヤアントニ及  
ヒクレオパトラハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ

第十章

(一) アクチウムノ戦ニ就テ何ヲ述ヘタルヤオーグスチユスニ就テ何ヲ  
説話シタルヤアグリツパノ舉止ハ如何ノセナスハ之ニ勸ムルニ何ヲ  
以テシタルヤ (二) オーグスチユスハ何レニ就キタルヤ其行為如何  
(三) 其聲譽ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其施治及ヒ功蹟ハ如何 (四) 其姐シタ  
ルハ即位ノ第何年ニシテ春秋幾年ナリシヤオーグスチユスニ就テ何  
ヲ述ヘタルヤ (五) オーグスチユス及ヒソセナスハ何ヲ勸扶シタルヤ  
オーグスチユスノ世トハ何ソ (六) オーグスチユスニ就テ何ヲ以テ

特ニ著ハレタルヤ救主耶蘇ノ降世ハ何レノ時ナルヤ其ノ十字架上ニ  
死シタルハ何レノ日ソ (七) オーグスチユスヲ紹キタル者ハ誰ソ即位  
ノ初年如何ニシテ施治ノ端ヲ發キタルヤ後チ如何ナル舉動ヲ為シタ  
ルヤ (八) ベルマニキユスノ戰勝ニヨリチベリウスハ如何ナル舉動ヲ  
做シタルヤ後チ能ク何人ヲ懐ケタルヤセジヤニウスハ之ニ説クニ何  
ヲ以テシタルヤセジヤニウス及ヒチベリウスノ末路ハ如何 (九) チベ  
リウスハ何人ヲ以テ其嗣ト為シタルヤ其舉動ハ如何センカハ之ヲ評シ  
テ何ト曰ヒタルヤ (十) カリグラ死スルノ後チ何事ヲ生シタルヤ其位ニ  
登リタル者ハ誰ソ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一) 佞レ如何ナル事ヲ做  
サント欲シタルヤカラクタキユスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其ノ羅馬市  
街ヲ通過スルキ如何ナル歎詞ヲ發シタルヤ (十二) ソツセリナニ就テ何  
ヲ述ヘタルヤアグリツパハ如何 (十三) 子ロハ業ヲ何人ノ門ニ受ケタル  
ヤ即位ノ初メ如何ナル事ヲ做シタルヤ其性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
其虐政ノ下ニ命ヲ殞シタル者ノ二三ヲ示セ (十四) 其羅馬ヲ燬キタルハ  
何ノ故ソ佞レ如何ニシテ世怨ヲ避ケント欲シタルヤ (十五) 子ロニ就テ

何ヲ述ハタルヤ何人ノ首唱ニテ子ロヲ殺サント謀リタルヤカルバハ如何ニシテ其罪條ヲ列舉シタルヤ之ニ就テ何事ヲ生シタルヤ (六)子口殂スルノ後チ帝位ニ登リタル者ハ誰ソガルバニ就テ何ヲ述ハタルヤガルバハ誰ヲ以テ嗣ト為シタルヤ且ツ其成蹟ハ如何ヲ述ハタルヤ評シテ何ト曰ヒタルヤ (七)而シテ後チ遂ニ帝祚ヲ踐ミタル者ハ何人ナルヤ後チ何事ヲ生シタルヤビヒリウス帝タルニ及テ何事ヲ做シタルヤ後マタ何事アリタルヤ (八)バスパニアニ帝位ニ登ルノ後チ國人果シテ之ヲ悦ヒタルヤ否其人質并ニ行為ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (九)其位ニ在ルノ日何事ヲ以テ特ニ著ハレタルヤゼルセルムニ對シテ何事ヲ做シタルヤ其命ヲ殞シ及ヒ俘ト為リタル者ハ幾多ナルヤ其幸ニ生存シタル者ハ如何ナル事ニ遭遇シタルヤ (十)バスパニアニ就テ何事ヲ生シタルヤチチウースニ就テ何ヲ述ハタルヤ其位ニ在ルノ日何事ヲ生シタルヤチチウースヲ嗣キタル者ハ何人ナルヤ (世)ドミニチアニ就テ何ヲ述ハタルヤ其性質并ニ常習ハ如何ニ著ハレタルヤ (世)十二セーサルノ末人ハ何人ソ且ツ其第一人ハ誰ソ

第九章

(一)ドミニチアニ就テ何ヲ述ハタル者ハ何人ソ子ルバニ就テ何ヲ述ハタルヤ子ルバハ誰人ヲ以テ其嗣ト定メタルヤ (二)トラジヤニ就テ何ヲ記述シタルヤ佞レ如何ナル命令ヲ受ケタルヤ一將帥トシテ之ヲ評スル片ハ如何トラジヤニ親ラ其佩劍ヲ侍衛總監ニ授ケ之ニ託スルニ何ヲ以テシタルヤ元老院之ニ授クルニ如何ナル副号ヲ以テシタルヤ且ツ爾後新帝ノ即位ヲ祝スル毎ニ如何ナル言ヲ以テシタルヤ (三)トラジヤニ位ニ在ルノ日羅馬ノ境域ハ如何トラジヤニ何レノ地ヲ征服シタルヤ國人其戰功ヲ稱讚シテ之ヲ不朽ニ傳ヘタルノ形状ハ如何 (四)文事ニ關シテトラジヤニ何ト評シタルヤ其殂落ニ就テ何ヲ評論シタルヤ其品性ハ何ヲ以テ汚点ヲ生ジタルヤ (五)トラジヤニ嗣キタル者ハ何人ソアドリアンニ就テ何ヲ評シタルヤアドリアンハ專ラ其身ヲ何事ニ委子タルヤ如何ナル征軍ヲ發シタルヤ其不烈顛ニ在ルノ日何事ヲ做シタルヤ (六)佞レゼルセルムニ向テ何事ヲ爲シタルヤ猶太人ハ如何ナル舉動ニ出テタルヤアドリアンノ兵ゼルセルムヲ破壞シタ

ル形況ハ如何アドリンアン如何ナル人ヲ以テ其嗣ト為シタルヤ(七)  
チチウースアントンウスノ在位ニ就テ何ヲ記述シタルヤ(八)何ヲ以  
テ得意ノ格言ト為シタルヤ(九)アモニウスヲ繼キタル者ハ誰ソ之ニ  
就テ何ヲ述ヘタルヤ其人ハ何ニ心醉シタルヤ(十)二人ノアントニウ  
スハ果シテ耶蘇教徒ヲ殘害セシヤ否其一人タルチウスハ何ニ遭遇  
シタルヤオーレリウスノ兵ノ何事ニ遭ヒタルヤ(十一)末後ノ五帝ヲ何  
ト名ケタルヤ

第十章

(一)オーレリウスヲ紹キタル者ハ誰ソコシモチウスニ就テ何ヲ述ヘタ  
ルヤ何人ガ其位ヲ繼キタルヤ其運命ハ如何(二)是時ニ當テ羅馬  
帝國ノ形勢ハ如何デヂウス、ジャリアニウスニ代テ帝位ニ登リタル者  
ハ何人ナルヤ其位ヲ争ヒタル者ハ誰ソセバリウスニ就テ何ヲ述ヘタ  
ルヤ(三)セバリウスハ天下ヲ何  
人ニ傳ヘタルヤ之ニ就テ何ヲ記述シタルヤ(四)マクリニウスヲ紹キタル  
者ハ何人ソアレキサンドル、セバリウスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ之ヲ殺

シテ其位ヲ繼承シタル者ハ何人ツマギンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

(六)アレキサンドルヨリデオクレチアンニ至ルマテ帝王相繼クモノ

幾世ナルヤ其年代ハ幾星霜ヲ經タルヤ其歴世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

(七)バレリアンヲ擒ニシタル者ハ誰ソ且ツ其待遇ハ如何(八)オーレリ

アンノ治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(九)何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ且

ツ如何ナル功業アリシヤ其ノ羅馬ニ還ルノ日何事ヲ生シタルヤ(十)

デオクレチアンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其一時位ニ在ルノ後チ何事ヲ

倣シタルヤ如何ニシテ國中ヲ分畫セシヤ(十一)其在位ノ日何事ヲ生シ

タルヤ其殘害ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(十二)デオリレチアンハ在位ノ末

年ニ至リ何事ニ遭遇シテ如何ナル舉動ニ出テタルヤ且ツ親ラ其情態

ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ

第十一章

(一)コンスタンチニウスハ何レノ地ニ殂シタルヤ之ヲ紹キタル者ハ誰  
ソ史家ノ説ク所如何ナル奇變アリタルヤ(二)コンスタンチンハ何職  
ト為リテ何ヲ絶滅シタルヤ其世ヲ治ムルノ日何ヲ以テ特ニ著ハル

(三) 其位ニ在ルル如何ナル大事ヲ生シタルヤ其處置ノ影響ハ如何コ  
スタンチンノ性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(四) コンスタンチンハ如何ニ  
シテ國中ヲ分畫シタルヤ獨主ト為リタル者ハ何人ソコンスンチユス  
ノ治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(五) コンスタンチユスヲ繼キタル者ハ  
誰人ソ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ何事ヲ做サント欲シテ其結果ハ  
如何ナリシヤ其弒セラレタル形状ハ如何(六) ジュリアンヲ嗣キタル  
者ハ何人ナルヤ尋テ國中ニ推撰セラレタル者ハ誰ナルヤ佞レ如何ナ  
ル舉動ヲ為シタルヤトレースニ定住シタル者ハ誰ソグラチアン及ヒ  
バレンチニアン弟二世殂スル 後チ獨主ト為リタル者ハ何人ナルヤ  
其位ニ在ルヤ何ヲ以テ特ニ著レタルヤ佞レニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其  
位ヲ嗣キタル者ハ誰ソ(八) 歷帝ノ懦弱ナルヲ以テ何事ヲ生シタルヤ  
ゴス族ハ何事ヲ做シタルヤアラリツクヲ破リタル者ハ誰ソ後チアラ  
リツクハ何事ヲ成シ羅馬府ヲ如何シタルヤ(九) 饑饉熄ムノ後チ何事  
ヲ生シタルヤアラリツク部下ノ兵衆ニ向テ何ヲ演ヘタルヤ且ツ其踪  
躡シタル形状ハ如何(十) アラリツク死スルノ後チゴス族ノ舉動ハ如

何(十一) アラリツク羅馬ヲ略スルノ後チ何事ヲ生シタルヤアツチラハ  
如何ナル敗戦ヲ為シタルヤ佞レ後チ何事ヲ為シタルヤ(十二) ゼンセリ  
ツク境ヲ侵スノ日ソノ形況ハ如何ナリシヤ且ツ佞レ何事ヲ成シタル  
ヤ(十三) バレンチニアン弟三世殂スルノ後チ西帝國ニ就テ何事ヲ生シ  
タルヤ(十四) 羅馬帝國ノ興廢ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第十二章

(一) ヘルリ一族ノ王國ハ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ之ヲ止ホシタル者  
ハ何人ナルヤセオトリツクハ居テ何レニ定メタルヤセオドチユスヲ  
破リタル者ハ誰ソ後チ何事ヲ生シタルヤ(二) ジヨスチンナルセスヲ  
招還スルノ後チナルセスハ何事ヲ成シタルヤアルボインハ何事ヲ為  
シタルヤロムバード族ノ王國ハ其存立幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ之  
ヲ轉覆シタル者ハ何人ソセオドシウスノ時ヨリロムバード族伊太里  
ニ據ルニ至ルノ間ソノ事跡如何(三) ゴス族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
ストロコス族及ヒビシゴス族ハ何故ニ其名アルヤヘルリ一族及ヒロ  
ムバード族トハ如何ナル民種ナルヤ(四) 東帝國ニ就テ何ヲ述ヘタル

(五)東帝國極盛ノ日ハ何レノ時ナルヤ  
 (六)ベリサリウス及ヒナルセスハ何事ヲ成シタルヤ  
 (七)帝京ヲ遷スノ後千何事ヲ生シタルヤ  
 (八)千二百四年十字軍ニ從フ者  
 (九)東帝國ヲ亡ホシタルハ何  
 人ニシテ何レノ時ナルヤ

第十三章 羅馬ノ故事

(一)羅馬君政ノ片國憲ノ全體ヲ組織シタル者ハ何人ソ然レモ其實ニ至  
 テハ果シテ如何ロムリウス分ツ所ノ三種ノ民族ハ如何其第四族ヲ加  
 ヘタル者ハ誰ソ如何ニシテ每族ニ命名シタルヤ  
 (二)如何ナル民族ヲ設ケタルヤ  
 (三)當時幾多ノ百類アリタルヤ  
 (四)セルビウスハ更  
 民ノ二族ニ加フルニ何族ヲ以テシタルヤ  
 (五)騎紳ハ何ヲ以テ組織シタル  
 ヤ  
 (六)貴族トハ何ソ新民ハ如何賤民トハ何ソ良民トハ何ソ釋民ハ如

何 (七)羅馬府民ハ何ヨリ成立シタルヤ  
 (八)奴隸トハ何ソ之ヲ待ツノ  
 状態ハ如何且ツ如何シテ人ヲ奴ト為シタルヤ  
 (九)國王ニ就テ何ヲ述  
 ヘタルヤ其獨裁ノ權ナキモノハ何ナリシヤ其職識ハ如何且ツ何ニ  
 坐シ何ヲ從ヘタルヤ  
 (十)元老院ハ幾多ノ議員ヲ以テ組織シタルヤ其  
 撰舉ノ方法ハ如何其會期ハ如何元老院ノ發令トハ何ソ何故ニ元老ヲ  
 國父ト名ケタルヤ  
 (十一)縉紳ノ名ハ何故ニ之ニ記因セルヤ  
 (十二)凡ソ官吏ハ  
 其撰任ノ前之ヲ候補ト名ケタルハ何故ソ  
 (十三)羅馬ノ官吏ハ如何ニシテ  
 之ヲ分類シタルヤ  
 (十四)常時官トハ何ソ非常官トハ何ソ地方官トハ何ソ  
 (十五)大憲ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (十六)危急存亡ノ秋ニ當テ之ニ任スルニ何ヲ  
 以テシタルヤ  
 (十七)大憲ニ任スル者ハ幾歳ノ齡ニ至ルヲ要シタルヤ  
 (十八)審  
 司ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (十九)其職務ハ如何  
 (二十)視官ノ職ニ就テ何ヲ述ヘ  
 タルヤ  
 (二十一)當時幾人ノ視官アリタルヤ  
 (二十二)且ツ其職務ハ如何  
 (二十三)保民官ノ職  
 ヲ設ケタルハ何ノ為ナルヤ  
 (二十四)監工官ノ職務ハ何ソ其種類二種アリ  
 如何  
 (二十五)檢稅官ハ如何ナル職務ニ從事タルヤ  
 (二十六)檢稅武官并ニ檢稅地方  
 官ハ如何ナル職務ヲ執リタルヤ  
 (二十七)公會トハ何ソ其種類ハ幾多ナルヤ  
 (二十八)公

會ヲ召集タルハ何ノ為ナルヤ (子)民種會ハ何ヲ以テ組織シタルヤ  
(世)百都會ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其職務并ニ會場ハ如何 (世)族類會ト  
ハ何ツ其開會ノ目的ハ如何 (世)公會ノ存立ハ幾年ノ久シキニ及ヒタル  
ヤ且ツ之ヲ廢絶シタル者ハ誰ソ (世)祭司ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ普ク  
百神ニ事ヘタル祭司ハ何ソ (世)監僧ニ就テ何ヲ陳ヘタルヤ祭司長ハ  
如何 (世)僧ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其職務ハ如何且ツ占トノ法五種ア  
リ如何 (世)儀僧トハ何ソ且ツ何ニ由テ其占トノ兆証ヲ求メタルヤ  
(世)書僧トハ何ソ讖書中ニ載録スルモノヲ以テ何ト為スヤ (世)饌僧ト  
ハ何ソ (子)各神特殊ノ祭司ヲ何ト名ケタルヤ其首位ヲ占ムル者ハ誰  
ソ (世)羅馬人拜神ノ地ハ何レナルヤ其祭式ハ如何 (世)羅馬人ハ如何  
ナル祝節ヲ行ヒタルヤ就中最モ有名ナルモノハ何ソ (世)如何ナル公  
威ヲ行ヒタルヤ (世)闘囚トハ何ソ之ヲ傳入シタルハ何レノ時ナルヤ  
其格闘ヲ行ハシムルニハ何ヲ以テ之ニ充テタルヤ之ニ就テ何事ヲ生  
シタルヤトラジヤングシアニ克ツノ後チ行ヒタル事ニ就キ何ヲ記述  
シタルヤ (世)凱旋トハ何ソ其榮光ヲ享クル者ハ何人ナルヤ其整列ニ

就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ其整列ハ何ヲ以テ成リタルヤ (世)是國衣服  
ノ特ニ著明ナルモノハ何ツ長袵トハ如何ナルモノナルヤ剛袵ナルモ  
ノアリ何人ノ用フル所ナルヤ袵褌トハ何ソ (世)羅馬人第一ノ餐膳ハ  
何ソ上古羅馬人ハ何ヲ以テ常食トシタルヤ後チ如何ナル形狀ニ至リ  
タルヤ其食事ノ方法ハ如何且ツ其常用ノ飲料ハ何ソ (世)公館トハ何  
ソ且ツ其四面何ヲ以テ繞圍スルヤ (世)練武場トハ何ソ之ヲ修飾スル  
ニ何ヲ以テシタルヤ

羅馬史年表 (第一号)

羅馬ノ初王ハ何人ソ其末王ハ誰ナルヤロムリウスノ羅馬ヲ開キタル  
ハ何レノ時代ナルヤ王政ノ廢レタルハ何レノ時ソロムリウスヌマ等  
ノ事ヲ問フ 縉紳ノ庶民ト隙ヲ生シタルハ何レノ時ニ始マリタルヤ  
ゴールス族ノ羅馬ヲ燬キタルハ何レノ時ナルヤ第一加國ノ役ハ何レ  
ノ時ニ起リタルヤ其第二役及ヒ第三役ハ如何ハンニバルノ戰勝ハ如  
何、ミスリデートスノ役ハ何レノ時ニ起リタルヤマリウス及ヒシル  
ラノ間ニ起リタル内訌ハ如何セーサル及ヒポンパーノ争ハ如何アク

チウムノ戰ハ如何 紀元前第四世紀間ニ於テ起リタル事跡ハ如何其  
第三世紀以下ニ於テ起リタル事蹟ヲ問フ

羅馬史年表(第二号)

羅馬ノ初帝ハ何人ナルヤ 東西兩帝國獨主ノ末帝ハ誰ソ西帝國ノ末  
帝ハ如何 オイグスチユスノ即位ハ何レノ時ナルヤトラジヤンデオ  
クレチアン及ヒロンスタンチン偉帝ハ如何十二セルサルノ末人ハ何  
人ソ 羅馬帝國ヲ東西ノ兩部ニ分チタルハ何ノ時代ナルヤ 西帝國  
滅亡ノ時ヲ問フオイクスチユスノ入ト為リ并ニ其施治ニ就テ何ヲ述  
ハタルヤチビソウス以下ノ諸帝ハ如何

羅馬文學年表

紀元前第五世紀ニ於テ聲名特著ノ政事家ハ何人ナルヤ其第四世紀以  
上ニ於テハ如何 紀元前第二世紀ニ於テ有名ナル詩人ハ誰ソ其第一  
世紀ニ於テハ如何紀元後第一世紀及ヒ第二世紀ニ於テハ如何 紀元  
前第一世紀并ニ紀元後第一世紀ニ於テ著名ノ史家ハ何人ナルヤ 紀  
元前第一世紀ノ學士辯士等ハ誰ナルヤ紀元後第一世紀ニ於テハ如何

紀元前第五世紀ニ於テ猶太人ノ著名ナルモノハ何人ナルヤ紀元後  
第一世紀ニ於テハ如何 紀元後第一世紀ニ於テ耶蘇教徒ノ特ニ名ア  
ル者ハ誰ソ其第二世紀以下ニ於テハ如何

中古史

(一) 中古ハ幾世紀ヲ包含スルヤ其間歐洲ノ形勢ハ如何 (二) ゴス族バン  
ダルス族匈奴等ノ移住ハ何レノ時ニ起リタルヤ其略有セシモノハ何  
ソ隨テ何事ヲ生シタルヤ文學ノ漸ク衰頹ヲ萌シタルハ何レノ時ソ黒  
暗ヲ極メタルハ何レノ時ナルヤ (三) 其時代ニ就テ何ヲ述ハタルヤ其  
僅ニ存在シタル學科ハ何ニ止リリシヤ (四) 道德及ヒ耶蘇教ノ形況ハ  
如何歐洲政治上ノ形勢ハ如何 (五) 罪科ノ有無ヲ檢定スルニ如何ナル  
方法ヲ用ヒタルヤ (六) 中古歐洲ニ於テ如何ナル冒名者ノ現出シタル  
ヤサラヤン族ノ文學ヲ研究シタルハ何レノ時ナルヤ (七) 中古特著  
ノ事跡ニ就テ其二三ヲ示セ

亞刺比亞史

(一) マホメット未タ出テサルノ前亞刺比亞ノ民風ニ就テ何ヲ述ハタル

ヤ (二) サラセンス族ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (三) 耶蘇教ノ亞刺比亞  
 ニ入りタル事跡ニ就キ何ヲ述ヘタルヤ當時耶蘇教ニ何等ノ種類アリ  
 シヤ (四) マホメットニ就テ何ヲ述ヘタルヤ天經ハ如何ニシテ之ヲ編  
 成シタルヤマホメットハ何ヲ以テ天神感應ノ証ト為シタルヤ (五) 其  
 二大教旨ハ何ソマホメット如何ナル人ヲ認メテ天神ノ感應ヲ受ケタ  
 リト為シタルヤ其道ヲ説クヤ何書ニ依リテ何旨ヲ保持シタルヤ之ヲ  
 要スルニ遂ニ能ク其目的ヲ達シタルハ何ニ原由スルヤ (六) マホメツ  
 トハ如何ニシテ教旨ヲ傳布シ其信徒ヲ勸奨シタルヤ何ヲ以テ教旨ノ基  
 本ト為シタルヤサラセンス族ハ自ラ其宗教ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ  
 (七) マホメットハ如何ニシテ先ツ其功ヲ奏シタルヤ當初先ツ何人ヲ  
 感化セシメタルヤ (八) マホメットハ如何ナル危急ニ逼リタルヤ其道  
 走ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ何レ如何ニシテノゲヤニ入りタルヤ爾後何  
 事ヲ為シタルヤ (九) マホメットヲ稱讚シテ何ト曰ヒタルヤ且ツ其性  
 質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十) マホメットヲ繼キタル者ハ誰ソ教主トハ  
 何ノ謂ツアズビークルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其後嗣ハ何人ナルヤ

(十一) オマルハ何レノ地ヲ征略シタルヤ (十二) オマルアレキサンドリア  
 ヲ略スルノ日居民ソノ書庫ヲ保安センコトヲ請フオマル之ニ答フル  
 ニ何ヲ以テシタルヤ且ツ庫中幾卷ノ書アリタルヤ (十三) オマル  
 十年間ニ於テ何事ヲ成シタルヤ之ヲ嗣キタル者ハ誰ソオスマン列  
 スルノ後チ帝位ニ推撰セラレタル者ハ何人ナルヤ其人ニ就テ何ヲ  
 述ヘタルヤ (十四) 薩拉丁帝國ノ進歩及ヒ境域ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (十五) アリー位ニ在ルノ日何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤアリーノ徒弟  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤソノイトス派ハ如何ニ派各如何ナル人アリ  
 タルヤ (十六) アリーハ帝都ヲ何レノ地ニ遷シタルヤ後チ復タ之ヲ何  
 レノ地ニ遷シタルヤ教主ノ職ニシテ其格位バクダツトノ教主ノ職  
 ニ亞クモノハ何ソツリツドニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十七) 教主ノ初統  
 ヲ何ト名ケタルヤ其第二族統ハ如何アルマンソルニ就テ何ヲ述ヘタ  
 ルヤ (十八) ハロウン、エルラスチツドノ治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ何レ  
 何ヲ以テ其名特ニ著ハル是時ニ淵源スルモノハ何ソ且ツ如何ナル學  
 科ヲ研究シタルヤハロウン、エルラスチツドノ後嗣ニ就テ何ヲ述ヘタ

ルヤ (五) 政府ヲバグダツトニ遷シテヨリ以來亞刺比亞國中ニ何事ヲ  
生シタルヤ (六) サラセンス族及ヒ其各州ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ西班牙  
牙族及摩錄哥及ヒ印度ノ諸國バグダツトノ教主ヲ視ル如何ノ形情ナ  
リシヤ (七) アツパス統ヨリ出テタル教主ハ幾人ナルヤバグダツドノ  
帝京ト為ル幾年ノ久シキニ涉リタルヤ教主ノ職ハ何レノ時何人ノ廢  
スル所ト為リタルヤ (八) マホソツトノ直嗣ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其  
舉止ハ如何王權己ニ鞏固ナルニ至テ皆ナ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ  
(九) 教主ノ權ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ當時特例ヲ享クル者アリタルヤ  
教主ハ何ヲ以テ仁義ヲ行フノ責任アリタルヤ其職權ハ何ニ類シタル  
ヤ

### 封建記事

(一) 封建ノ起源ハ何ソ之ヲ用ヒタル君主ハ何人ナルヤ (二) 北夷ハ如何  
ニシテ其略地ヲ分收シタルヤ其最モ大ナル部分ヲ得タル者ハ何人ナ  
ルヤ其地ヲ得タル者ハ何等ノ義務ヲ有シタルヤ (三) 其廷臣如何ニシ  
テ之ヲ處理シタルヤ封建ノ王國ヲ記スル其狀如何 (四) 諸侯即チ地主

ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五) 封建制度ノ原則トハ何ソ地ヲ授クル者及  
ヒ之ヲ受クル者ヲ名テ何ト曰ヒタルヤ其役務ヲ貴重スルノ形狀如  
何 (六) 民狀ハ如何 (七) 封建政治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ一王國ハ何ニ  
類シタルヤ (八) 一王國ノ形勢ハ如何歐洲舉テ無政戰乱ノ形勢ニ至リ  
タルハ何レノ時ナルヤ (九) 封建制度覆滅ノ要因ハ何ナルヤ今猶ホ其  
制ノ存在セル國ハ何レナルヤ

### 十字軍記事

(一) 十字軍トハ何ソ之ニ從軍シタル者ハ何等ノ國民ナルヤサラセンス  
族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤトルクス族ハ如何諸拜者ノ遭難ニ就テ何ヲ  
述ヘタルヤ (二) パートル隱士ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三) 羅馬教王オ  
ルバン第二世ハ如何コノ遠征ヲ名ケテ十字軍ト曰フハ何故ツ從軍  
徒ニ許スニ何ヲ以テシタルヤ (四) 從軍シタル者ハ如何ナル種類ノ人物  
ナリシヤ其之ヲ誘導シタルモノハ何ソパートル隱士ハ何ヲ做シタル  
途ニパートルノ軍ニ從ヒタル者ハ誰ノ其運命ハ如何 (五) 十字軍中其  
他ノ部分ニ就テ何ヲ說話シタルヤ之ヲ督シタル者ハ何人ナルヤ從軍

ノ人負ハ幾多ナルヤ (六) 從軍ノ徒ハ何ヲ成シタルヤゴットフレレノ  
 運命ハ如何 (七) 其戰ニ勝チ地ヲ略シタル者ハ如何ニシテ西里亞及ヒ  
 巴勒斯且ヲ分チタルヤ後チ何事ヲ生シタルヤホー帥ユル所ノ軍ハ如  
 何ナル運命ニ遭遇シタルヤ (八) 人ヲ説テ第二ノ十字軍ヲ起シ且ツ之  
 ニ從軍シタル者ハ何人ナルヤ其結果ハ如何 (九) サラヂンニ就テ何ヲ  
 述ヘタルヤ (十) 相合シテ第三ノ十字軍ヲ起シタル者ハ誰ソフレデリ  
 ツキノ身邊ニ何事アリタルヤ英佛兩軍ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一)  
 チヤードノ舉動ハ如何其國ニ還ルノ日其身邊ニ何事ヲ生シタルヤ  
 (十二) 十字軍ノ第四役ニ從事シタル者ハ誰ナルヤ且ツ其人ノ運命ハ如何  
 (十三) ユンダブリーンハ何事ヲ成シタルヤ (十四) シントロイス第九世  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十五) 其事ノ成否ハ如何其十字軍ヲ起シテム  
 ルス族ヲ伐チタル結果ハ如何 (十六) 十字軍ハ何ニ起因スルヤ之ニ就テ  
 何ヲ述ヘタルヤ其性質ハ如何其效驗ノ二三ヲ示セ此役ニ於テ歐人ノ  
 屍ヲ東國ニ埋ムル者幾人ノ多キニ至リタルヤ其僅ニ生存シタル者ハ  
 如何ナル事ニ遭遇シタルヤ (十七) 十字軍ハ如何ナル裨益ヲ興シタルヤ

何ヲ以テ果シテ其然ルヲ証明ス可キヤ (十八) 是時ニ當テ歐洲ニ如何ナ  
 ル制度ノ行ハレタルヤ十字軍ニ從事シタル諸侯ハ何ヲ為サ、ルヲ得  
 サリシヤ其效驗ハ如何各國ノ帝王ハ如何ニシテ金ヲ募リタルヤ (十九)  
 當時歐洲ニ於テ行ハレタル風俗并ニ生計ノ狀態ハ如何十字軍ニ從事  
 シタル者ハ東國ニ於テ何ヲ知ルニ至リタルヤ十字軍アリテヨリ如何  
 ナル編制ノ起ルニ至リタルヤ (二十) 十字軍ハ商業及ヒ技術ニ如何ナル  
 影響ヲ及ホシタルヤ是ヨリ先キ商業ヲ行フノ方法ハ如何ナリシヤ後  
 チ如何ナル變化ヲ生シタルヤ (二十一) 十字軍ハ文學及ヒ宗教上ニ何等ノ影  
 響ヲ來タシタルヤ十字軍ハ幾年ニ及ヒタルヤ禍害相踵ク二百年ノ後  
 チ如何ナル事ヲ生シタルヤ (二十二) 十字軍ノ世ヲ益シタルハ果シテ此役  
 ヲ起シタル者ノ目的ニ暗合シタルヤ否

武紳紀事

(一) 武紳ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其中古ニ於テ何等ノ關係アリタルヤ其  
 特ニ較著ナルモノハ何ソヤ (二) 武紳創立ノ事跡ニ就テ何ヲ述ヘタル  
 ヤ其起原ハ何レノ時ナルヤ往時其趣旨ハ己ニ何レノ地ニ行ハレタル

ヤ其大成セシハ何ニ由テ然ルヲ致シタルヤ十字軍ハ之ニ如何ナル影  
 響ヲ及ホシタルヤ (三) 武紳ノ行ハレタルハ何レノ國ナルヤ (四) 貴族  
 ノ子ニシテ武紳ト爲ル可キ者ハ如何ニシテ之ヲ訓練レタルヤ其教育  
 ハ何レノ處ニ於テ之ヲ行ヒタルヤ其各種ノ稱号ハ如何 (五) 之ヲ管理  
 スルノ方法ハ如何其常ニ接スル所ノ者ハ如何ナル人ナルヤ之ニ教フ  
 ルニ何ヲ以テシタルヤ (六) 城中ノ貴婦ハ之ニ授クルニ何ヲ以テシタ  
 ルヤ之ヲシテ其學ヲ所ヲ實行セシメント欲シ如何ナル事ニ習熟セシ  
 メタルヤ (七) 武紳ノ列ニ入ルニハ其年齡幾許ナルヲ要シタルヤ之カ  
 候補タル者ハ如何ニシテ其預備ヲ爲シタルヤ (八) 其已ニ預備ノ禮儀  
 ヲ卒ルキハ何ヲ爲シタルヤ (九) 其武紳及ヒ貴婦ヨリ受クル所ノ武紳  
 ノ職識ハ何ソ其打禮ヲ受クルノ方法ハ如何 (十) 武紳必須ノ所屬物中  
 ソノ重要ナルモノハ何ソ其武器ハ何品ナルヤ其衣服ハ何メ (十一) 完全  
 ノ武紳タラント欲セハ如何ナル德行ト稟性ヲ要シタルヤ (十二) 當時武  
 紳ヲ尊重スル果シテ如何ノ程度ニ達シタルヤ已ニ打禮ヲ受クル者ハ  
 如何ナル資格ヲ有シタルヤ且ツ何ヲ爲スノ權アリタルヤ (十三) 何

ヲ爲スノ公許ヲ得タルヤ其愛婦ニ就テ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ國  
 王モシ兵ヲ將テ出征スルヲアラハ如何ナル嚴誡ヲ下シタルヤ (十四) 武紳  
 ハ婦人ニ對シテ如何ナル感執ヲ有シタルヤ武紳ハ貴婦ニ向テ如何ナ  
 ル本務アリタルヤ (十五) 佳人ニ對シテ武紳ハ如何ナル舉動ヲ爲シタル  
 ヤ (十六) 武紳及ヒ貴婦ノ志望ハ何レニ在リタルヤ (十七) 武紳ニハ如何ナ  
 ル德行アリタルヤ甲武紳アリ乙武紳ノ城中ニ入ルキハ如何ナル待遇  
 ヲ受ケタルヤ且ツ傷ヲ負フテ至リタルキハ如何 (十八) 武紳ハ如何ナル  
 遊戲運動ヲ愛シタルヤハルラムハ馬上。戲闘ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ  
 (十九) 之ニ贏ツ者ハ何ヲ以テ賞セラレタルヤ (二十) 武紳ノ感執ニ就テ何  
 ヲ述ヘタルヤ其成績ニ就テ何ヲ記シタルヤ (廿一) 武紳ハ何ト其興廢ヲ  
 同フシタルヤ封建及ヒ武紳ノ共ニ絶滅シタルハ何ニ起因スルヤ (廿二)  
 學士ロバルトソンハ武紳ノ事業及ヒ其成績ニ就テ如何ナル評語ヲ下  
 シタルヤ武紳ノ成績最モ世ヲ動カシタルハ第何世紀ナルヤ (廿三) 武紳  
 ノ品行ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ何等ノ書ヲ以テ其品行ノ放洩ナルヲ証  
 ス可キヤ (廿四) 武紳ハ何ヲ業トシテ何事ヲ成シタル其養成シタル所ノ

モノハ何ソ是ヨリ如何ナル事ヲ生シタルヤ (五) 裁闘ノ起原ハ何人ニ出テタルヤ其已ニゼルマンヌ族ダニス族及ヒフランクヌ族ノ中ニ行ハレタルハ何レノ時ナルヤ (六) 其法規ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ當時因テ以テ之ヲ行ヒタルハ何ノ為ナリヤ

### 近世史

(一) 近世史ノ端緒ニ就テハ其年代一ナラス之ヲ示セ (二) 歐洲列國ノ史記ヲ論スルニ至便ノ方法ハ如何歐洲列國中其起原ノ第九世紀以前ニ在ルモノハ何々ナルヤ (三) 東帝國滅亡以後ノ年代ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ眼ヲ轉シテ此年代ヲ顧ミレハ其事迹如何 (四) 時勢ノ變遷ニヨリ世ヲ益スルノ原因ト為リタルモノ一ニシテ足ラス其二三ヲ舉ケヨ (五) 商都同盟ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其同盟ヲ組織シタルハ何レノ時ニシテ之ニ加盟シタルモノハ何都ナルヤ其外舖ハ何レノ地ニアリタルヤ (六) 商都同盟極盛ノキハ何レノ時代ナルヤ其衰頹ニ就テ何ヲ述ヘタルヤガエニスゼノア及ヒピサハ何レノ時ニ於テ歐洲ノ商權ヲ握リタルヤ第十五世紀及ヒ第十六世紀間ニ於テ率先シテ海路ヲ檢出シタ

ルモノハ何國ナルヤ (八) 西班牙及ヒ葡萄牙ニ繼テ海業ヲ行ヒタル者ハ何レノ國ソ (九) 是時ニ當テ歐洲第一ノ強國ハ何國ナルヤ其國史ノ特ニ米人ニ重要ナルモノハ何國ナルヤ

### 佛國史

#### 第一章

(一) 英佛兩國ノ史記ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ英王相繼テ屬地ヲ佛國內ニ有シタルハ幾年ノ久シキニ涉リタルヤ (二) 佛人ノ族祖ハ何人ソ古代ノゴールス族中ニハ何ヲ含有シタルヤ之ヲ征服シタルハ何レノ時代ニシテ且ツ何人ナルヤ近古之ヲ名ケテ佛人ト曰フハ其名ヲ如何ナル民族ニ取リタルモノナルヤ (三) フランクス族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ佛王ノ初統ヲ何ト名ケタルヤ何人ヲ以テ其國王政ノ始祖ト為スヤ其人ハ如何ナル事業ヲ為シタルヤ (四) メロビンヂアン統ノ列王ニ就テ何ヲ述ヘタルヤペピントヘリストル及ヒチャールヌスルテニ就テ何ヲ説話シタルヤ (五) ペピンハ如何ニシテ王位ヲ占有シタルヤペピンハ如何ナル王統ノ始祖ナルヤ且ツ如何ニシテ羅馬教王ニ報ヒタ

ルヤ (六) ベンヲ紹キタル者ハ誰ソ (七) チャーレマンニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ其ノ歐西皇帝ト為リタルハ何レノ時ナルヤ其帝國中ニハ何  
國ヲ包含シシヤ (八) チャーレマンノカラ文事ニ盡シタルニ就テ何  
ヲ述ヘタルヤ且ツ如何ニシテ其信教ニ熱心ナル所以ヲ彰表シタルヤ  
(九) 其内行ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (十) チャーレマンヲ嗣キタル者  
ハ何人ナルヤ其兄弟相闘テ如何ナル大戦ヲ做シタルヤ尋テ如何ニシ  
テ其國ヲ分割シタルヤ (十一) チャーレス禿王ヲ嗣キタル者ハ誰ソ其子  
ロイス第三世及ヒカルロマン位ニ在ル久シカラス後子推撰セラレテ  
王位ヲ踐ミタル者ハ何人ナルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (十二) 次テ其位  
ヲ何人ニ譲リタルヤチャーレス撰王位ニ在ルノ日何事ヲ生シタルヤ  
(十三) ロイス第四世及ヒロシヤル世ヲ治ムルノ時ニ當テ何事アリタル  
ヤホーカベツトニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第二章

(一) ホーカベツトヲ嗣キタル者ハ誰ソ (二) ヘンリー第一世ノ時如何ナ  
ル法典ヲ制定シタルヤ (三) ヒリツプ第三世ノ位ニ在ルル何ヲ以テ特

ニ著ハレタルヤウイリアム麻王併國ヲ侵略シテヨリ以來何事ヲ生シ  
タルヤ (四) ロイス第六世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五) ロイス第六世ノ  
時名士三人アリ誰ナルヤ (六) ロイスハ如何ナル暴行ヲ為シタルヤ其  
慚悔シタルヨリ何事ヲ來スノ源因ヲ生シタルヤ (七) ロイスノ居ハ何  
人ニシテ且ツ之ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (八) ヒリツプオーグスチエ  
スニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其位ニ即クヤ如何ニシテ其名ヲ較著ナラシ  
メタルヤ (九) ヒリツプ英王ジョンヲ責ムルニ何ヲ以テシ且ツ其奪ヒ  
タルモノハ何ナルヤ (十) ヒリツプヲ嗣キタル者ハ誰ソ (十一) ロイス第  
九世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤロイスハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ且ツ  
其性質ノ特ニ懦弱ナル所ノモノハ何ソ (十二) ロイスヲ嗣キタル  
者ハ何人ナルヤ其在位ノ日何事ヲ生シタルヤ (十三) ヒリツプ第四世ニ  
就テ何ヲ述ヘタルヤ其羅馬教王ボニフエーラスト争ヲ生シタル形况ヲ  
問フ (十四) ボニフエーラスト後子何事ヲ生シタルヤ羅馬教王ノ坐  
位ヲアピニンニ遷ス時人之ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ其他ヒリツ  
プハ何事ヲ成シタルヤ (十五) ヒリツプヲ嗣キタル者ハ誰ソヒリツプ第

五世ノ治世ハ何ヲ以テ著名ナルヤ

第三章

(一)ヒリツプ美王ノ子ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (二)敢テ其位ヲ嗣クノ權アリト唱ヘタル者  
 (三)誰ソチヤールレス第五世ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (四)ヒリツプ美王ノ子ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (五)其位ヲ嗣キタル者ハ誰ソチヤールレス  
 (六)其位ヲ踐ミタル者  
 (七)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (八)其位ヲ踐ミタル者  
 (九)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十)其位ヲ踐ミタル者  
 (十一)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十二)其位ヲ踐ミタル者  
 (十三)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十四)其位ヲ踐ミタル者  
 (十五)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十六)其位ヲ踐ミタル者  
 (十七)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十八)其位ヲ踐ミタル者  
 (十九)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (二十)其位ヲ踐ミタル者

テ其大功ヲ立テタルヤ  
 (一)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (二)其位ヲ踐ミタル者  
 (三)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (四)其位ヲ踐ミタル者  
 (五)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (六)其位ヲ踐ミタル者  
 (七)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (八)其位ヲ踐ミタル者  
 (九)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十)其位ヲ踐ミタル者  
 (十一)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十二)其位ヲ踐ミタル者  
 (十三)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十四)其位ヲ踐ミタル者  
 (十五)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十六)其位ヲ踐ミタル者  
 (十七)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十八)其位ヲ踐ミタル者  
 (十九)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (二十)其位ヲ踐ミタル者

第四章

(一)チヤールレス第八世ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (二)其位ヲ踐ミタル者  
 (三)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (四)其位ヲ踐ミタル者  
 (五)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (六)其位ヲ踐ミタル者  
 (七)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (八)其位ヲ踐ミタル者  
 (九)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十)其位ヲ踐ミタル者  
 (十一)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十二)其位ヲ踐ミタル者  
 (十三)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十四)其位ヲ踐ミタル者  
 (十五)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十六)其位ヲ踐ミタル者  
 (十七)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (十八)其位ヲ踐ミタル者  
 (十九)其位ヲ嗣キタル者ハ如何ナル處置ヲ施シテ何事ヲ成シタルヤ  
 (二十)其位ヲ踐ミタル者

ンニスハチヤールスト何ノ候補ト為リテ相争ヒタルヤフランシス其  
争ノ目的ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (七)其結果ハ如何且ツ之ニ因テ其二  
人ハ何ヲ受ケタルヤ (八)チヤールスト第五世位ニ在ルノ日何ヲ以テ特  
ニ著ハレタルヤチヤールスト及ヒ其他同時代ノ國王ニ就テ何ヲ述ヘタ  
ルヤ (九)フランシスチヤールスト争ヲ生シタル端緒ハ如何警備總監  
ボルボンニ就テ何ヲ説キタルヤ佛王パビアニ在テ其身邊ニ何事ヲ生  
シタルヤ (十)チヤールストフランシスニ對シテ如何ナル舉動ヲ為シ  
タルヤ佛王已ニ釋サレテ後チ如何ナル事ヲ為シタルヤ其二王ノ行為  
ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一)二王戈ヲ交ユル二十年後チ互ニアイグス  
モルテスニ會シテ如何ナル待遇ヲ行ヒタルヤ後チ何事ヲ生シタルヤ  
(十二)何ニ因テ復ヒ戰端ヲ發キタルヤ其結果ハ如何 (十三)フランシスハ  
如何ニシテ其位ヲ去リタルヤ且ツ何ヲ勸導シタルヤ是時ニ當テ佛廷  
ハ何ヲ以テ其名ヲ得タルヤ (十四)フランシスハ如何ナル性質ヲ有シタ  
ルヤ且ツ其人ト為リハ如何 (十五)フランシスヲ嗣キタル者ハ誰ソヘン  
リ一第ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其治世ニ就テ何ヲ説キタルヤ其戰

アルニ當テ如何ナル大事ヲ生シタルヤ (十六)其戰ハ如何ニシテ其局ヲ  
結ヒタルヤ其他ヘンリー在位ノ時何事ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ (十七)  
ヘンリーヲ嗣キタル者ハ何人ナルヤフランシス第ニ世ヲ嗣キタル者  
ハ誰ソ (十八)當時佛國新教ノ形況ハ如何 (十九)舊教ノ首領ハ何人ソアム  
ボイスノ密謀ハ何ノ目的ニ出テタルヤ其結果ハ如何 (二十)如何ナル公  
會ヲ開キタルヤ如何ナル上諭ヲ發シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ  
(二十一)其争ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其和約ハ如何 (二十二)ナバールノヘンリ  
ーノ結婚ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ナル殘戮ヲ行ハント欲シタルヤ  
シント、バルソルミウノ祭日ニ於テ殘戮ヲ行フ其事ニ就テ何ヲ述ヘタ  
ルヤ (二十三)其殺戮ニ遭ヒタル者ハ幾多ナルヤドソノ之ヲ評シテ何ト曰  
ヒタルヤ (二十四)苗チヤールストニ就テ何ヲ説話シタルヤ (二十五)羅馬ニ於テ其  
事ヲ傳聞シタルヤ如何ナル事ヲ行ヒタルヤ更ニチヤールスト及ヒ其施  
治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二十六)チヤールストヲ嗣キタル者ハ何人ナルヤ  
シント、バルソルミウ祭日ノ殘戮アリテヨリ何事ヲ生シタルヤヘンリ  
ーハ新教ノ徒ノ為ノニ何事ヲ做シタルヤ舊教ノ徒ハ如何ナル進路ヲ

取リタルヤ (七)ヘンリー人ニ説カレテ如何ナル政略ヲ行フニ至リタルヤ 如何ニシテ自ラ其身ヲ處シ且ツ何事ヲ行ヒタルヤ其影響ハ如何

第五章

(一)ヘンリー三世殂スルノ後チ其位ハ何人ノ掌中ニ歸シタルヤヘンリー第四世及ヒ其母ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)同盟ノ兵ニ就テ何ヲ述ヘタルヤヘンリーノ之ヲ破リタルハ何レノ戰ナルヤ (三)何故ニヘンリーハ其教門ヲ改メタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤヘンリー新教ノ徒ニ報ユルニ何ヲ以テシタルヤ (四)ヘンリー已ニ位基ヲ固フスルノ後チ其意ヲ何事ニ注キタルヤ之ヲ扶ケタル者ハ何人ソ如何ナル變化ヲ生ジタルヤ (五)ヘンリーハ如何ナル奇計ヲ考案シタルヤ未タ其策ヲ行ハサルノ前其身邊ニ何事ヲ生シタルヤ (六)ヘンリーノ性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ人アリヘンリーニ問フニ佛國ノ歲入其額幾許ナルヲ以テスヘンリー之ニ答フルニ何ヲ以テシタルヤ (七)其稟性ノ欠點ハ如何其即位ノ十八年間ニ於テ裁斷ヲ行フテ幾多人命ヲ

頭シタルヤ (八)ヘンリーヲ嗣キタル者ハ誰ソマリドメデオスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ君牧リチリウノ政略及ヒ目的ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (九)新教ノ徒ハ如何ナル進路ヲ取リタルヤリチリウハ如何ナル政策ヲ用ヒタルヤ其結果ハ如何 (十)其他リチリウノ舉止ニ就テ何ヲ説話シタルヤ叛乱ヲ煽動シタル者ハ何人ナルヤリチリウハ何ヲ為シタルヤ (十一)ロイスノ性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十二)次テ其位ヲ嗣キタル者ハ誰ソ大臣ニ推撰セラレタル者ハ何人ナルヤマザリンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其施治ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ (十三)マザリン歿スルノ後チ何事ヲ生シタルヤロイス并ニ其事業ニ就テ何ヲ説キタルヤ (十四)孟入テハ内閣ニ坐シテ政ヲ談シ出テハ戰場ニ臨テ勇ヲ彰ハンタルロイスカ股肱ノ臣數名アリ令其二三ヲ舉ケヨ (十五)ロイスハ如何ナル戰勝ヲ行ヒタルヤロイス已ニ遠近ヲ征略シテ其志猶ホ飽クヲ知ラス隨テ何事ヲ生シタルヤ (十六)オーグスボルクニ會盟シテロイスニ叛シタルモノハ何州ナリシヤ千七百一年ニ於テ如何ナル同盟ヲ構成シタルヤ當時ロイスノ兵ハ何人ト戰ハサルヲ得サルニ至リシヤマルボロー

及ヒエウゼン侯ハ如何ナル戰勝ヲ做シタルヤ (六)ロイスカ拙策ノ一  
ハ何ナルヤ之ニ因テ何ヲ為シタルヤ佛國ハ之ニ由テ何ヲ喪ヒタルヤ  
(七)ロイスノ治世ハ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ (八)ロイスノ容止ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (九)其才略及ヒ  
稟性ニ就テ何ヲ記述シタルヤロイスハ何ヲ勸奨シタルヤ且ツ之ニ因  
テ時人其施治ヲ目シテ何ト評シタルヤ

第六章

(一)ロイス第十四世ヲ繼キタル者ハ何人ソ公爵オルレーノ攝政ハ何  
ヲ以テ著名ナルヤ (二)ロイス第十五世ハ老年ニ及テ何人ヲ撰任シテ  
其大臣ト為シタルヤフレウリーノ施治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三)フ  
レウリーノ歿スルノ後チ佛國ニ如何ナル戰乱ヲ生シタルヤ二人帝位ヲ  
爭ヒタルハ誰ナルヤ之ヲ扶援シタル者ハ何人ソ佛軍ハ何レノ地ニ破  
レテ何レノ戰ニ勝チタルヤ如何ニシテ其戰局ヲ結了シタルヤ (五)ロ  
イスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其臣民之ニ與ラルニ如何ナル稱号ヲ以テシ  
タルヤ然ルニ臣民ヲシテ終ニ之ヲ與ヘサルニ至ラシメタルハ何ニ由

テ然ルヲ致シタルヤ其他ロイス及ヒ其施治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(六)其位ヲ嗣キタル者ハ何人ソロイス第十六世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其  
地位ノ困難ハ如何 (七)其第一ニ施シタル處置數多アリ其一ヲ舉ケヨ  
其登用セラレタル者ハ誰ソ其成績ハ如何 (八)子ツケルニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ其黜職ノ後チ何事ヲ生シタルヤ (九)大英ノ米國新疆ト戰端  
ヲ開クノ後チ何事ヲ生シタルヤ其平和ヲ復スルノ後チ物情如何 (十)  
佛國革命ノ要因數多アリ其二三ヲ舉ケヨ且ツ其近因タルモノハ何ソ  
(十一)ロイスハカロンノ諫ニ從テ如何ナル處置ヲ施シタルヤ名士會ニ  
提出スルニ何ヲ以テシタルヤ名士會ニ於テハ如何ニシテ其議案ヲ受  
理シタルヤ (十二)カロンヲ繼キタル者ハ何人ソ尋テ如何ナル會議ヲ開  
キタルヤ三公會ハ如何ナル民等ヲ以テ組織シタルモノナルヤ (十三)  
子ツケルハ三公會ニ就テ如何ナルヲ發議シタルヤ其結局ハ如何  
(十四)國王ノ三公會ニ向テ演説シタル形况ハ如何是ヨリ何等ノ難事  
ヲ惹起シタルヤ (十五)庶民ハ如何ナル舉動ニ出テタルヤ國會議員中首  
位ヲ占ムル者ハ誰ソ (十六)其處置ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ國王及ヒ貴族

ノ地位ハ如何 (七)子ツケルノ職ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ナル暴  
行ヲ為シタル者アリシヤ國王及ヒ皇族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (六)革  
命及ヒ變遷ノ次第ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五)次テ國會ニ於テ如何ナ  
ル計畫ヲ為シタルヤロイスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ國會ニ就テ如何  
(三)次田ノ國會ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤジャコビン會ニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ (二)次テ如何ナル新會ヲ開キタルヤ其第一會ニ於テ何事ヲ  
為シタルヤ國王ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (一)ドセーヅロイスノ為ニ辯  
護シタル言論ノ大略ヲ示セ (三)衆議國王ヲ刑スルニ決シタル形況ハ  
如何其他ロイスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第七章

(一)國憲ノ大成シタルハ何レノ時ナルヤ當時行政ノ權ハ之ヲ何人ノ手  
ニ委子タルヤロバスピール及ヒ其黨友ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ國約  
公會ニ於テ如何ナル二派ヲ生シタルヤ其首領ハ何人ノ (二)モンタイ  
ン黨ハ如何ナル事ヲ做シタルヤ公爵オレルスニ就テ何ヲ説話シタ  
ルヤ (三)國約公會ハ更ニ如何ナル過激ノ事ヲ行フニ至リタルヤ寺院

ニ對シテ如何ナルコトヲ爲シタルヤ (四)國約公會ハ新ニ幾派ニ分裂シ  
タルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ後チ行政ノ權ヲ何人ノ手ニ託シタルヤ  
千七百九十一年ヨリ千七百九十九年ニ至ルマテ幾多ノ憲法ヲ制定シ  
タルヤ其第四田ノ憲法ニヨレハ行政ノ權ハ誰レノ手ニ歸シタルヤ  
(五)第一田ノ佛國革命トハ何ソ其結局ハ如何ノ形情ニ至リタルヤ之ニ  
向テ如何ナル變化ヲ生シタルヤ (六)國王未タ刑ニ就カサルノ前貴族  
及ヒ僧侶ハ如何ナル進路ヲ取リタルヤ其結果ハ如何此事終ニ何ノ源  
因ト爲ルニ至リシヤ國王已ニ刑セラル、ノ後チ佛國ニ對シテ交戦ヲ  
公告シタル者ハ何國ナルヤ (七)公爵ブリンスウイキニ就テ何ヲ述ヘ  
タルヤ (八)其來攻ノ結果ハ如何佛國ハ如何ナル勝利ヲ得タルヤ伊太里  
屯在ノ兵ヲ督シタル者ハ何人ソボナバルテハ如何ナル事業ヲ成シタ  
ルヤ (九)第二ノ同盟成リタルハ何レノ時ソ未タ此事アラサルノ前ボ  
ナバルテハ何事ヲ爲シタルヤ (十)千七百九十九年佛軍ヲ破リタル形  
情如何此危急ニ臨ミテボナバルテハ何事ヲ做シタルヤ (十一)是時ニ當  
テ佛國ノ形勢如何ナル變化ヲ生シタルヤ (十二)此時ボナバルテハ如何

ナル武功ヲ彰ハシタルヤマレンゴ及ヒホヘンルーデンノ戰勝アリテ  
 ヨリ何事ヲ生シタルヤ (三)佛國ノ境域及ヒボナバルテノ執威ニ就テ  
 何ヲ述ヘタルヤ國約公會ハ宗教ニ關シテ如何ナル處置ヲ行ヒタルヤ  
 (四)是時ニ當テボナバルテハ如何ナル官職ニ昇リタルヤ密ニ相率テ  
 ボナバルテヲ害セント欲シタル者ハ何人ナルヤ其密謀ノ徒ハ如何ナ  
 ル處分ヲ受ケタルヤ次テボナバルテハ如何ナル地位ニ昇リタルヤ  
 (五)第三ノ同盟ヲ組織シタルハ何レノ時ニシテ何國ナルヤ此時ボナバ  
 ルテハ如何ナル進路ヲ取リテ如何ナル勝戰ヲ為シタルヤ壤地利ノ戰  
 勝以來尋テ何事ヲ生シタルヤ (六)將ニ壤地利ノ戰アラントスルノ前  
 爵紳子ルソシハ如何ナル戰勝ヲ為シタルヤ (七)ボナバルテハ子一ブ  
 ルス及ヒ荷蘭ニ對シテ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ日耳曼帝國ニ對シ  
 テハ如何フランシス第二世ハ何事ヲ做シタルヤボナバルテハ如何ナ  
 ル撰帝候ヲ王位ニ進メタルヤ (八)第四ノ同盟ハ何人ノ如何シテ組織  
 スル所ナリシヤボナバルテハ如何ナル戰ニ勝チタルヤボナバルテ普  
 都三入ル片何事ヲ為シタルヤ其他佛軍ハ如何ナル戰ニ勝チタルヤ

(九)ボナバルテハ次ニ何事ヲ為シタルヤ魯普二國ト如何ナル條約ヲ結  
 締シタルヤ普國ノ略地ヲ以テ如何ナル處置ヲ為シタルヤ (十)伯林令  
 ニ對シテ英國政府ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤチルニットノ和約以  
 後佛帝ハ何事ヲ做シタルヤ (十一)ボナバルテハ其戰勝ヲ以テ如何ニ其  
 心ヲ動カシタルヤ且ツ西班牙及ヒ葡萄牙ニ對シテ如何ナル事ヲ為シ  
 タルヤ (十二)ボナバルテハ西班牙ノ王位ヲ左右スルニ何等ノ舉動ニ及  
 ヒタルヤ (十三)西人はニ於テ何國ニ黨シタルヤ其戰ハ幾年ノ久シキニ  
 涉リタルヤ英西二國ノ兵ヲ督シタル者ハ何人ノ其戰功ノ二三ヲ擧ケ  
 ヨ (十四)佛國ハ再ヒ何國ト兵ヲ構ユルニ至リタルヤボナバルテハ如何ナ  
 ル勝利ヲ得タルヤ (十五)墺帝ハ維也納ノ盟約ニ遵テ如何ナル條約ヲ結  
 締シ隨テ何事ヲ生シタルヤ (十六)チルニットノ盟約ヲ以テアレキカ  
 ンドル何ヲ承諾シタルヤ且ツ其結果ハ如何千八百十一年ニ於テハ如  
 何ナル事アリタルヤボナバルテハ如何ナル處置ヲ行ヒタルヤ (十七)ボ  
 ナバルテハ何レノ地ニ向テ進軍シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ何故  
 ニモスコウヲ燬キタルヤ (十八)之ニ因テボナバルテハ如何ナル感覺ヲ

生シ且ツ何ヲ期望シタルヤ是ニ於テ科ナバルデハ如何ナル進路ヲ取  
 ラサルヲ得サルニ至リタルヤ (一) 其退軍ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ人命  
 ヲ殞シタルハ幾多ナルヤ (二) 佛帝ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ是時  
 ニ當テ幾多ノ大軍ヲ募リタルヤ之ニ抗シタルハ何モノナルヤ (三) 次  
 テ何事アリタルヤレイプリツクノ戰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (四) 是時  
 ボナバルテハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ同盟諸國ノ兵ハ何事ヲ為シ  
 タルヤ (五) 是時ニ當テボナバルデハ如何ナル處置ヲ為サ、ルヲ得サ  
 ルニ至リタルヤ且ツ何レノ地ヲ以テ其居處ト為シタルヤ尋テ何事ヲ  
 生シタルヤ (六) 維也納ノ公會ヲ開キタルハ何ノ為メナルヤ是時ニ當  
 テボナバルテハ何事ヲ企圖シタルヤ且ツ如何ニシテ其事ヲ行ヒタル  
 ヤ其進軍ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (七) 其威權ヲ鞏固ナラシムル為ニ如  
 何ナル處置ヲ施シタルヤ (八) 維也納ノ公會ニ於テ何事ヲ決議シタル  
 ヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (九) ウォートロノ戰ニ就テ何ヲ述ヘタ  
 ルヤ是時ボナバルテハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ同盟諸國ノ帝王ボ  
 ナバルテニ對シテ何事ヲ為シタルヤボナバルテハ幾歳ニシテ何レノ

時ナルヤ其威威ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (一) 何故ニボナバルデハ造王  
 者ノ名ヲ得クルヤ其末後ノ四王ニ就テ何ヲ論述シタルヤ (二) ボナバ  
 ルテハ一身ニシテ幾能ヲ兼有シタルヤ其事業ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 佛國ノ其恩波ニ浴スルモノハ何ソ (三) ボナバルテハ何等ノ公益ヲ起シ  
 タルヤ其性情ノ特ニ甚シキモノハ何ソ其世ヲ益スルノ機ヲ得タルヲ  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ拒レ自ラ擇テ何レニ就キタルヤ (四) 其他ボナ  
 バルテ及ヒ其事歴ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第八章

(一) ボナバルテノ再ヒ廢セラレテヨリ後チ何事ヲ生シタルヤ佛國ニ對  
 シテ如何ナル處置ヲ施シタルヤボナバルテニ黨シタル武官ノ處置ハ  
 如何 (二) ロイス第十八世及ヒ其地位政略ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其在  
 位ノ日起リタル大事ノ一ハ何ソ (三) ロイス第十八世ヲ嗣キタル者ハ  
 誰ソ且ツ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (四) 其治世ハ如何ナル事業ヲ以テ  
 特ニ著ハレタルヤ (五) 政黨ノ争ニ就テ何ヲ述ヘタルヤチマールスハ  
 如何ナル進路ヲ取リタルヤ (六) 代議士局ニ於テ何事ヲ為シタルヤ尋

テ何事ヲ生シ如何ナル處置ヲ施シタルヤ (七)是ニ於テ何事アリタルヤ (八)府民ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (九)國兵ヲ督シタル者ハ誰ノ代議士局ハ何事ヲ行ヒタルヤ (十)ロイス、ヒリツプニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其舉動ハ如何其大臣ノ二三ヲ舉ケヨ (十一)其外交上ノ政略及ヒ在位ノ間佛國ノ形勢ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其他ロイス、ヒリツプ及ヒ其運命ニ就テ何ヲ陳ヘタルヤ (十二)外國ニ對シテ如何ナル大功ヲ立テタルヤ (十三)佛國ノ形勢及ヒ下民ノ感情ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ下民ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (十四)政府ニ於テ如何ナル民等ニ恩顧ヲ與ヘタルヤ其民等ハ政府ノ為ニ何事ヲ為シタルヤ (十五)官職ヲ賣テ國庫ヲ充タスノ策ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ政府ヲ罪スルニ何ヲ以テシタルヤ其他不滿ヲ懷クノ原因ハ何々ナルヤ (十六)斯クノ如ク人心ヲ激昂セシムル處置ヲ為シタル者ハ何人ソ人民ハ如何ナル感覺ヲ惹起シタルヤ (十七)如何ナル事ヲ以テ益其不平ヲ熾ナラシメタルヤ政府ニ抗スル者ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (十八)革命會ヲ巴里ニ開カントシタルハ何レノ時ナルヤ左右ノ大臣ハ如何

ル進路ヲ取リタルヤ其結局ハ如何 (十九)革命會ヲ開クノ日何事ヲ生シタルヤ人民ハ何事ヲ為シタルヤ (二十)其二日間ニ於テ何事ヲ為シタルヤ國王及ヒギゾーハ何事ヲ為シタルヤ (二十一)作乱ノ徒ハ如何ナル進路ヲ取リタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (二十二)假設政府ニ於テ何事ヲ做シタルヤ且ツ如何ナル告諭ヲ發シタルヤ (二十三)國會ニ於テ何事ヲ為シタルヤ (二十四)六月ニ至リ何事ヲ生シタルヤ尋テ何事ノ起リタルヤ (二十五)國會六月間議ヲ開クノ後チ何事ヲ為シタルヤ憲法中如何ナル條款アリタルヤ (二十六)其大統領ニ撰任セラレタル者ハ誰ソ其投票ノ數ハ幾多ナリシヤロイス、ナホレオンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ何レヲ以テ其名特ニ著ハレタルヤ (二十七)新設國會ノ初ノ議ヲ開キタルハ何レノ時ナルヤ其撰舉ノ結局ハ如何政府ノ舉動ハ如何 (二十八)千八百四十八年羅馬ニ於テ何事ヲ生シタルヤ佛兵ハ何事ヲ為シ且ツ何事ヲ成就シタルヤ

佛國史年表 (第一号)

カロビンヂアン種ノ王統ニシテ初ノテ其位ニ即キタルニ王ハ何人ソカバチアン統ノ初王ハ何人ナルヤプロイス統ノ初王ハ誰ナルヤ

チャールスマンノ即位ハ何レノ時ナルヤホーカペットシント、ロイスヒ  
リツプ第六世及ヒフランシス第一世ハ如何 ヤヒン及ヒ其施治ニ就  
テ何ヲ述ヘタルヤチャーマンシ

佛國史年表 (第二号)

ボルボン統ノ初王ハ何人ソ ヘンリー第四世ノ即位ハ何レノ時ナル  
ヤロイス第十四世ロイス第十六世ボナハルテロイス第十八世及ヒロ  
イス、ヒリツプハ如何 ロイス、ヒリツプハ如何 ロイス、ヒリツプノ佛  
國大統領ニ任シタルハ何レノ時ソ 佛國ノ初メテ共治政體ナルヲ公  
告シタルハ何レノ時ナルヤ其末後ノ公告ハ何レノ時ナルヤヘンリー  
第四世及ヒ其治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤロイス第十三世ハ如何

英國史

第一章

(一)英國ノ史記ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)英國ニ於テハ如何ナル争鬪  
アリタルヤ (三)英國ノ史記ハ何故ニ北亞聯邦ノ人民ニ感趣ヲ生スル  
ヤ (四)英國ニ於テ政教ノ自由ヲ得ント欲シテ暴政ニ抗シ妄信ヲ破リ

タル事跡ニ就キ吾人ヲシテ一種ノ感激ヲ煥發セシムルハ何故ソ (五)  
ゼリウス、セーサルノ英國ヲ伐チタルハ何レノ時ナルヤカラクタキユ  
スヲ破リタル者ハ何人ソ國中ニ羅馬ノ治權ヲ確定シタルハ何人ノ力  
ナルヤ (六)是國ヲ征服シタルキブリトンス族ハ如何ナル民種ナリシ  
ヤ其常習及ヒ宗教ハ如何ナルモノソ (七)羅馬人ハ不烈顛ヲ横斷シテ  
三條ノ長城ヲ築キタルハ如何ナルモノナルヤ其全ク英國ヲ去リタル  
ハ何レノ時ナルヤ (八)後チ其南部ヲ侵シタルモノハ何人ナルヤブリ  
トンス族ハ援ヲ何人ニ求メタルヤ其結果ハ如何 (九)サキソンス族ハ  
如何ナル舉動ヲ為シタルヤ英國ノ名稱ハ何人ニ淵源スルヤ (十)アル  
ゾルニ就テ何ヲ説話シタルヤ七國政治ハ其存立幾年ノ久レキニ及ヒ  
タルヤ七國ヲ合シテ一君主國ト為シタルハ何人ナルヤ (十一)如何ニシ  
テ耶蘇教ヲ是國ニ傳ヘタルヤ社會ノ形情ハ如何

第二章

(一)ダニス族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)アルフレットニ就テ何ヲ説話  
シタルヤ且ツ其ダニス族ト戦ヒタル形情ハ如何アルフレットハ如何

ナル窮途ニ陥リタルヤア(三)アルフレットハ如何ナル計略ヲ用ヒタルヤ其成功ハ如何(四)己ニシテ平和ヲ復スルノ後チアルフレットハ其身ヲ何事ニ委テタルヤ且ツ如何ナル處置ヲ為シタルヤ(五)アルフレットノ性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(六)アルフレットヲ嗣キタルモノハ誰ゾエドワードニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(七)アゼルスタンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(八)エドモンドニ就テ何ヲ述ヘタルヤエドレット并ニドンスタンニ就テハ如何(九)エドウィー即チエドウィーニ就テ何ヲ記述シタルヤ(十)エドガルノ治世ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ(十一)エドガルヲ嗣キタル者ハ誰ゾエドワードニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(十二)エゼルレットダニス族ヲ殄戮シテ如何ナル殘害ヲ行ヒタルヤ(十三)エゼルレットダニス族ヲ珍護シテ如何ナル殘害ヲ行ヒタルヤ(十四)エゼルレットダニス族ハ何事ヲ成シタルヤエゼルレットヲ嗣キタル者ハ誰ゾ(十五)ウエインズルノ後チ何事ヲ生シタルヤカニウトノ事業ヲ問フ且ツ其人ト爲リニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(十六)其他ダニス統ノ二王位ヲ繼タリ何人ナルヤ(十七)其後位ニ昇リタル者ハ何人ゾエドワードニ就テ何ヲ述ヘタルヤエドワードハ如何ナル特例ヲ有シタルヤ英王相繼テ瘵

瘵ヲ治スルノ法ヲ行ヒタルハ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ(十八)エドワードハ遺詔シテ其位ヲ何人ニ傳ヘタルヤ貴族ハ何人ヲ推撰シタルヤ(十九)ウエイリアムハ決意シテ何事ヲ做シタルヤ其兵ヲ亡フ幾人ニシテ其結果ハ如何

第三章

(一)ウエイリアムニ就テ何ヲ述ヘタルヤホルク之ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ(二)ウエイリアムハ如何ニシテ英人ノ厭惡ヲ來タシタルヤ且ツ如何ニシテ是國ノ形勢ヲ一變シタルヤ(三)ウエイリアムハ森林律ヲ設ケテ何事ヲ為シタルヤ且ツ如何ニシテ新林ヲ作りタルヤ其在位ノ間最モ有益ナル事業ノ一ハ何ゾ(四)ウエイリアム弟二世及ヒ其治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(五)ヘンリー第一世ハ如何ニシテ其位ヲ得タルヤ且ツ其兄弟ニ對シテ何ヲ為シタルヤ(六)サキツン及ヒノルマンノ二統ハ如何ニシテ合體シタルヤヘンリーハ如何ナル艱苦ヲ受ケタルヤ且ツ其人ト爲リニ就テ何ヲ述ヘタルヤ(七)ヘンリー殂スルノ後チ正統ノ嗣ハ何人ナルヤ其位ヲ僭シタル者ハ誰ゾ尋テ何事ヲ生シタルヤ(八)

ヘンリーハ何事ヲ做シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤステヘンノ治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第四章

(一)ヘンリー二世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ何故ニ之ヲ名ケテ短套ト曰ヒタルヤ且ツ其英國以外ニ如何ナル屬地ヲ有シタルヤ (二)歐洲諸國ハ何ニ因テ動搖シタルヤ其争ノ極度ニ違シタルハ何レノ時ナルヤトイマス、エ、バツケツトニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三)僧侶ノ權力ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其品行ハ如何 (四)ヘンリー自ラ意ヲ決レテ何事ヲ為サント欲シタルヤ且ツ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ其憲法ヲ以テ何ヲ制定シタルヤバツケツトノ舉動ハ如何ヘンリーニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其結局ハ如何 (五)其舉ニ因リテ何事ヲ生シタルヤ羅馬教王ハ何事ヲ為シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (六)ヘンリーハ其罪ヲ消滅スル為メ如何ナル苦刑ヲ受ケタルヤ其刺客ノ末路ハ如何 (七)ヘンリー治世ノ末年ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其數子ニ就テハ如何 (八)其后エレオノルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ之ヲレテ厭嫌ノ心ヲ生セシメタルモノ

ハ何ツ (九)ヘンリーノ其子ヲ愛シタルニ就テ何ヲ述ヘタルヤヘンリー其子ジョーンノ叛徒ニ黨シタルヲ聞キタルハ何事ヲ為シタルヤ

(十)ヘンリーノ性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一)其治世ハ何ヲ以テ持テ著ハレタルヤ日常ノ技術并ニ其便宜ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十二)バツケツトノ華奢ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十三)リチャード第一世ハ如何ニシテ其位ヲ繼キタルヤ何人ニ合從シテ十字軍ニ臨ミ且ツ如何ナル武功アリタルヤ (十四)其國ニ歸ルル途ニ其身邊ニ何事ヲ生シタルヤ且ツ如何ニシテ其身ヲ償ヒタルヤ (十五)リチャードヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ其入ト為リニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十六)リチャードノ兄弟ニシテ且ツ其嗣タルジョーンハ如何ナル罪科ヲ犯シタリト想定セルヤ佛王ヒリツプオースクスチユスハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (十七)羅馬教王インノーセント第三世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤジョーンハ如何ニシテ和ヲ成シタルヤ (十八)諸候ハ何事ヲ為シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ大允可證ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其他國王ヨリ如何ナル允可證ヲ下賜シタルヤ (十九)ジョーン及ヒ其施治ニ就テ何ヲ説話シ

タルヤ (世)自由ヲ得タル源由并ニ國民ノ昌榮ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(世)諸侯ハ何ヲ做シタルヤ二十四諸侯ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ  
(世)其舉アリテヨリ何事ヲ生シタルヤレイセストルノ王師ヲ破リタ  
ルハ何レノ地ナルヤ後チレイセストルハ何事ヲ為シタルヤ其代議士  
ヲ大邑ヨリ召集スルニ及テ何事ノ端ヲ開キタルヤ皇子エドワードハ  
何事ヲ成就シタルヤ其結局ハ如何 (世)エドワード第一世ハ猶太人ニ  
對シテ何事ヲ做シタルヤ且ツ後チ何事ヲ成就シタルヤ其長子ヲ封シ  
シテ何ト為シタルヤ (世)エドワードトウエールスヲ征服シテヨリ如何  
ナル感覺ヲ生シタルヤ蘇格蘭ニ對シテ何事ヲ生シタルヤ (世)バリオ  
ルノ叛スルニ及テ何事ヲ生シタルヤエドワードハ何事ヲ成シタルヤ  
(世)スコツツ族ヲ鼓動シテ其獨立ヲ回復セシメタル者ハ誰ツ其結局ハ  
如何ワラスノ身邊ニ何事ヲ生シタルヤ蘇格蘭第二ノ英傑ハ何人ナ  
ルヤエドワードハ更ニ何事ヲ為シタルヤ (世)エドワードニ就テ何ヲ  
述ヘタルヤ其施治ニ就テハ如何且ツ大允可証中ニ如何ナル重要ノ條  
款ヲ加ヘタルヤ (世)エドワード第三世ハ如何ナル事業ヲ企圖シタル

ヤ其結局ハ如何 (世)エドワードニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其施治ハ何ヲ  
以テ特ニ著ハレタルヤ (世)イサベルラニ就テ何ヲ述ヘタルヤ國王ニ  
對シテ何事ヲ做シタルヤ (世)エドワード第三世猶ホ幼冲ナルニ當テ大  
權ヲ左右シタル者ハ誰ソ其長スルニ及テハ如何モルチメル及ヒイサ  
ベルラノ末路ハ如何 (世)エドワードノスコツツ族ヲ破リタル形狀ハ  
如何且ツ佛國ニ對シテ如何ナル處置ヲ施シタルヤ (世)エドワード海  
ニ戰テ如何ナル勝利ヲ得タルヤ (世)クレツシーノ戰ニ就テ何ヲ述ヘ  
タルヤ此戰ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤエドワードハ更ニ又タ如何  
ナル勝利ヲ得タルヤ (世)エドワード佛國ニ在ルキ英國ニ於テ何事ヲ  
生シタルヤ (世)ホイクトールスノ戰狀ヲ述フル如何英王ジョンニ對  
シテ如何ナル事ヲ為シタルヤ (世)エドワード治世ノ末年ハ如何黒太  
子及ヒ佛王チャールス第五世ニ就テ何ヲ記述シタルヤ黒太子ノ殞落  
ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (世)エドワード及ヒ其施治ニ就テ何ヲ述ベタ  
ルヤ其戰ニ就テハ如何 (世)其在位ノ日武紳ノ形況ニ就テ何ヲ記述シ  
タルヤ (世)リチャード第二世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其幼冲ナルニ當テ

施治ノ權ヲ何人ニ託シタルヤ  
シヨノンオスガントニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(一)如何ナル租稅ヲ賦課シタルヤ  
且ツ其影響ハ如何稅吏ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
尋テ何事ヲ生シタルヤ  
(二)如何ナル戰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
此戰ニ基キテ成リタル歌曲ハ何ナルヤ  
(三)如何ナル戰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
對シテ何事ヲ做シタルヤ  
ヘンリーハ如何ニシテ自ラ其讐ヲ報ヒタルヤ  
國王ノ末路ハ如何  
(四)正統ノ王嗣ハ何人ナルヤ  
尋テ如何ナル争鬪ヲ生シタルヤ  
カウセルニ就テ何ヲ生シタルヤ

第五章

(一)ヘンリーノ地位ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
スレウスベリーノ戰狀ハ如何  
(二)ヘンリー未タ王タラサル所其舉動ハ如何其已ニ位ヲ踐ムニ及テ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ  
(三)ヘンリー及ヒ其治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(四)ヘンリー晩年ニ及テ如何ナル憂苦ヲ受ケタルヤ  
其太子ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(五)ヘンリー其事情ヲ聞テ如何ナル言ヲ發シタルヤ  
(六)ヘンリー第五世位ニ登ルニ及テ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ  
其行為ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(七)シヨニオールドカツスルニ就テ何

テ何ヲ述ヘタルヤ  
(八)ヘンリーハ如何ナル戰ニ臨テ如何ナル勝利ヲ得タルヤ  
佛軍ノ死傷ハ如何尋テ何事ヲ生シタルヤ  
(九)ヘンリーノ施治并ニ其性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(十)ヘンリー第六世ハ幾歲ニシテ英佛兩國ノ王ト為リタルヤ  
且ツ業ヲ何人ノ門ニ受ケタルヤ  
國保ノ職ニ在リタル者ハ何人ナルヤ  
(十一)チヤイレス第七世及ヒ其功績ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(十二)ヘンリー長スルニ及テ其才略如何且ツ何人ヲ嫁テ后ト為シタルヤ  
其后ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(十三)ジャックカードノ叛逆ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(十四)公爵グロウセクトルニ就テ何ヲ記述シタルヤ  
其歿スルニ及テ何事ヲ生シタルヤ  
(十五)ヨーク及ヒランカストルニ統ノ起源ハ何ソ如何ニシテ其兩派ヲ區別シタルヤ  
其戰乱ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ  
(十六)此争鬪ニ就テ何ヲ説話シタルヤ  
(十七)ランカストル派ノ軍ハ何レノ戰ニ於テ敗レタルヤ  
皇后ハ何事ヲ為シタルヤ  
公爵ヨークノ嗣子ハ何事ヲ成就シタルヤ

第七章

(一)ヘンリー第七世ハ如何ニシテ王位ヲ嗣クノ權利ヲ鞏固ナラシメタ

ルヤヘンリーノ血統ハ何ナルヤチウドル統ニ就テ何ヲ述ハタルヤ  
(二)ヘンリーノ政略ハ如何ラムバルトシム子ルハ何事ヲ為サント欲シ  
タルヤバルキンウールウイツキハ如何且ツ之ニ就テ何ヲ述ハタル  
ヤ (三)其冒險ノ徒ハ何ヲ得ンヲ求メタルヤシム子ルノ運命ハ如何  
ナルキンハ如何之ト同時ニ刑セラレタル者ハ誰ソ (四)ヘンリーノ性  
質及ヒ其常習ニ就テ何ヲ述ハタルヤ其節儉ト聚斂トニ因テ何ヲ累積  
シタルヤ (五)其施治ニ就テ何ヲ述ハタルヤ其制法ノ效驗ハ如何 (六)  
貴族ヲシテ縦ニ其土地ヲ賣與スルヲ得セシメタルヨリ何事ヲ生シタ  
ルヤ英國海軍ノ權輿ハ如何 (七)ヘンリー第八世ハ其位ヲ嗣クニ及テ

第六章

(一)エトワード第四世ノ位ニ登ルヤ後チ幾モナク二派ノ間ニ如何ナル  
戰アリタルヤ之カ為ニ人命ヲ殞シタルハ幾多ナルヤヘンリーノ末路  
ハ如何 (二)其居ハ如何強賊ノ之ヲ釋シタルヲニ就テ何ヲ説話シタル  
ヤ (三)是ヨリ先キヨーク統ヲ輔佐シタル者ハ誰ナルヤエトワードノ  
伯爵ウオールウツキヲ凌辱スルニ及テウオールウツキハ如何ナル舉

動ヲ為シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (四)バル子ツトノ戰ハ其結局  
如何テウクスボリーノ戰ハ如何皇后及ヒ其子ノ末路ハ如何 (五)後チ  
エドワードハ如何ナル進路ヲ取リタルヤ其兄弟公爵クラレンスニ對  
シテ何事ヲ述ハタルヤ (六)其位ヲ嗣キタル者ハ誰ソゴロウセストル  
ノ公爵リチャードニ就テ何ヲ述ハタルヤ幼皇子ニ對シテ何ヲ傲シタ  
ルヤ (七)リチャード第三世ハ誰ニ向テ讐ヲ報ヒント欲シタルヤ尋テ  
何事ヲ生シタルヤホスウオルスノ戰ハ其結局如何 (八)リチャードノ  
性質并ニ其容態ハ如何 (九)如何ナル利益ヲ得タルヤ (十)其長スルニ及テ如何ナル性質ヲ表ハシ  
タルヤウオルトラレーハ之ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ (十一)ヘンリー  
ノ施治并ニ其大臣ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (十二)其承クル所ノ遺産ヲ如  
何ニシタルヤ其在位ノ日兵事ニ關シテ如何ナルヲアリタルヤ (十三)ヘ  
ンリーハ如何ニシテ護教者ノ名ヲ得タルヤ (十四)其治世ニ當テ事業ノ  
特ニ較著ナルモノハ何ノ其初娶ノ后ヲ何ト曰ヒタルヤ其結婚ニ就テ  
何ヲ述ハタルヤ (十五)此事ニ關シ君牧ウオールセルニ就テ何ヲ述ハタ

ルヤ (古)其結婚ヲ無效ナラシムルニ如何ナル處置ヲ施シタルヤ後チ  
 英國ニ於テ何事ヲ生シタルヤ (五)英國羅馬教主ノ治下ヲ離レタル事  
 跡ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ是時ニ當リヘンリーハ如何ナル舉動ヲ為シ  
 タルヤヘンリーヲ認メテ教事ノ主宰ト為サ、ルヲ以テ斷頭ヤラレタ  
 ル者ハ何人ナルヤ (六)アンボレイノ運命ハ如何其他ヘンリーノ娶  
 リタル數后ハ何人ナルヤ且ツ其運命ハ如何 (七)ヘンリー三子ヲ遺セ  
 リ誰ナルヤヘンリーヲ嗣キタル者ハ何人ナルヤ其治世及ヒ改教ノ事  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (八)エドワードニ就テ何ヲ説話シタルヤ且ツ  
 遺詔シテ其位ヲ何人ニ傳ヘタルヤ (九)エドワードヲ嗣キタル者ハ何  
 人ツマリニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十)ジヤングレー及ヒ其夫ニ就テ  
 何ヲ述ヘタルヤ (十一)ジヤングレー刑ニ就クノ日其良人ニ向テ如何ナ  
 ル書ヲ寄セタルヤ (十二)宗教ニ關シテ如何ナル處置アリタルヤ不幸ニ  
 シテ冤死シタル者ノ中特ニ名アルモノ二三ヲ舉ケヨ之ニ因テ如何ナ  
 ル影響ヲ生シタルヤ (十三)マリイハ何人ニ嫁シタルヤ其位ノ末年ニ於  
 テ何事ヲ生シタルヤ其殂落ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十四)エリザベツス

ノ位ニ登ルル國人ノ喜悅如何其治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ如何  
 ナル名士アリタルヲ以テ其名特ニ著ハレタルヤ (十五)宗教上ノ變化ニ  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤエリザベツス位ニ登リタル片僧侶九千人ノ中  
 其職ヲ辞シタル者幾多ナルヤ (十六)エリザベツス蘇后マリイヲ待ツ嚴  
 酷ナリ時人エリザベツスヲ非難スルニ何等ノ言ヲ以テシタルヤマリ  
 イハ如何ナル人ナルヤ且ツ人ノ説ク所ニ從テ何事ヲ為シタルヤ (十七)  
 マリイ蘇古蘭ニ歸ルノ日何事ヲ生シタルヤ (十八)マリイノ再婚三嫁シ  
 タル事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其行狀ニ因リテ何事ヲ生シタルヤ (十九)  
 當時マリイノ舉動ハ如何其運命ハ如何 (二十)エリザベツスハ如何ニシ  
 テ西王ヒリツプヲ激怒セシメタルヤヒリツプハ如何ニシテ自ラ其讐ヲ  
 報ヒント欲シタルヤ (二十一)其水軍ハ何ヲ以テ編成シタルヤ如何ナル將  
 帥ニテ如何ナル兵ヲ督シ以テ之ニ當リタルヤ其結局ハ如何 (二十二)エリ  
 ザベツスヲ輔佐シタル名臣ハ何人ナルヤ其特ニ恩寵ヲ受ケタル者ハ  
 誰ソ (二十三)エリザベツスノ晩年ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其不幸ハ何事ニ  
 基因シタルヤエツセツキスニ就テ如何ナル珍談アリタルヤエリザベ

ツス及ヒ其主治者タルノ資格ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其政略ノ三要訣  
ハ如何其他エリザベツスノ治世及ヒ其性質ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(壹)其内行ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第八章

(一)エリザベツスハ何人ヲ指名シテ其嗣ト為シタルヤゼームスハ如何  
ナル稱号ヲ冒シタルヤスチユアルト統ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)如  
何ナル密計ヲ設ケテゼームスヲ害セント為シタルマウオルトルラレ  
ルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三)火藥密計ノ目的ハ如何燧具ヲ懷ニシテ  
捕ヘラレタル者ハ何人ナルヤ (四)ゼームスノ天稟懦弱ナル所ハ何ナ  
ルヤ其特ニ寵ヲ受ケタル者ハ誰ゾ (五)ピウリタンス教徒ノ始メテ現  
出シタルハ何レノ時ナルヤ其主唱スル所ノ趣旨ハ如何ゼームスノ位ニ  
登ルニ及テ其期スル所果シテ空シカラザリシヤ否且ツ如何ナル移住  
ノ端ヲ發キタルヤ (六)ゼームスノ特性ハ何ソ其得意ノ論旨ハ何ナル  
ヤ其天稟ノ最モ善ナルモノハ何ソ (七)其内行才略及ヒ起居ニ就テ何  
ヲ述ヘタルヤ牧師ボル子ツトハ之ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ (八)如何

ナル時情アリテ能ク自由ノ精神ヲ普及セシメタルヤ公議輿論ノ流行  
ハ何レノ方向ニ傾キタルヤ (九)チャーレス第一世ノ位ニ登リタルニ  
其時情ハ如何國人多クハ如何ナル感覺ヲ表ハシタルヤチャーレス幾  
モナク何等ノ實証ヲ示シタルヤ且ツ何人ヲ娶リタルヤ (十)チャーレ  
スノマドリツトニ至リタルハ何故ナルヤ其結果ハ如何チャーレスハ  
何故ニ國會ノ舉動ヲ以テ發怒シタルヤ且如何ナル進路ヲ取りタルヤ  
(十一)チャーレスハ如何ナル租税ヲ課シタルヤ如何ニシテ供艦費ヲ課  
收シタルヤチャーレスハ何等ノ權利ヲ主唱セシヤ此租税ニ就テ何ヲ  
述ヘタルヤ (十二)此課税ニ抗シタル者ハ何人ナルヤ且ツ其人ノ審判ハ  
如何ニシテ判決セウレタルヤ (十三)ブツキンガム刺客ノ手ニ斃ルハノ  
後チ首トシテチャーレスノ顧問タル者ハ何人ツロウドハ如何ナル進路  
ヲ取りタルヤ (十四)チャーレスハ蘇格蘭ニ對シテ如何ナル處置ヲ施シ  
タルヤ其效驗ハ如何エデンボロウノ一寺院ニ於テ何事ヲ生シタルヤ  
(十五)其牧師ハエデンボロウ以外ノ地ニ於テ果シテ其功ヲ奏シタルヤ  
否國盟ナルモノニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其他如何ナル盟會ヲ組織シタ

ルヤ (六) 休會十一年ヲ經テチャールレス國會ヲ開キタル下院ノ議員ハ如何ナル舉動ヲ做シタルヤ後チ開議シタル國會ニ於テハ何事ヲ為シタルヤ (七) チャールレス已ニ如何ニシテ國會ノ特例ヲ破リタルヤ後チチャールレス如何ナル躁暴ノ舉動ニ及ヒタルヤチャールレス議長レンサールニ命シテ其五人ヲ指名セシム此時レンサル之ニ答フルニ何等ノ言ヲ以テシタルヤ (八) 是ニ於テチャールレスハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ是時ニ當テ國會ノチャールレスニ對スル感情ハ如何 (九) 内乱ノ作ルニ及テ王師ニ黨シタル者ハ何人ナルヤ國會ノ兵ヲ援ケタル者ハ誰ソ其各之ニ黨スル者ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ (十) 國會ノ首領中多クハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ首トシテ放浪沈淪ノ誹ヲ受ケタル者ハ誰ソバキストルハ之ヲ評論シテ何ト曰ヒタルヤ (十一) 英國一タヒ乱レテヨリ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ王師ノ將帥ハ何人ナルヤ國會兵ノ將帥ハ誰ソ交戦ノ始ニ當リ命ヲ殞シタル者二人アリ誰ナルヤ王師ノ勝チタルハ何レノ戦ナルヤ其敗レタルハ何レノ戦ナルヤ (十二) チャールレスノ身上ニ何事ヲ生シタルヤ之ニ就テ如何ナル處置ヲ施シタルヤ如

何ナル斷案ヲ宣告シタルヤ (十三) チャールレス及ヒ其舉動ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (十四) 苗チャールレスノ末路ハ如何ナル歲鑑ト為ルヘキヤ其受刑ニ就テ國人ノ感覺ハ如何且ツ之ニ因テ其聲譽ヲ増減シタルヤ (十五) チャールレスノ不幸ハ何ソ其瑕瑾ノ甚シキモノハ何ナルヤ (十六) 其才略内行及ヒ態度ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十七) チャールレスノ舉止ニ就テ何ヲ述ヘタルヤホームピウリタンズ教徒ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ (十八) 王ニ抗シタル者ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十九) 王已ニ殂スルノ後チ如何ナル處置ヲ行ヒタルヤ (二十) 牧師主教ノ法ニ就テ如何ナル事アリシヤ後チ幾モナク屹然興起シタル者ハ誰ソ國會ヨリ其権力ヲ何人ノ手ニ移レタルヤ國會議員中牛股ノ名アル者ハ何人ヨリ成ルヤ (二十一) 蘇格蘭ノ國會ニ於テハ如何ナル進路ヲ取リタルヤコロノウエルノ王師ヲ破リタルハ何レノ地ナルヤウォールセストルノ戰狀ヲ問フ (二十二) 幼主チャールレスハ如何ナル險難ヲ冒シタルヤ (二十三) 航海令ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ是ヨリ如何ナル戦乱ヲ惹起シタルヤ其戦ノ結局ハ如何且ツ之ニ臨テ其名特ニ著ハレタル何人ナルヤ (二十四) 長期國會ハ其開議幾年ノ久シキ

ニ及ヒタルヤ其國會ニ於テハ如何ナル進路ヲ取りタルヤコロンウエ  
 ル決意シテ何事ヲ為サント欲シタルヤ其武官ヲ會シテ事ヲ議スルヤ何  
 事ヲ做シタルヤ (世) 次テ何事ヲ行ヒタルヤ (世) 小國會ハ如何ニシテ  
 其議ヲ開キタルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (世) コロンウエルハ  
 小國會解散ノ片如何ナル稱号ヲ冒シタルヤ其他コロンウエルニ就テ  
 何ヲ述ヘタルヤ (世) コロンウエルノ施治如何其治世及ヒ英國ノ形勢  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其末年ハ如何 (世) 其才略并ニ履歷ニ就テ何ヲ  
 述ヘタルヤ (世) コロンウエルハ自ラ其高位ニ登リタルヲ以テ之ヲ  
 何人ノ力ニ歸シタルヤ其將卒ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其苦心シテ高位  
 ニ立タンヲ求メタル片其舉動ハ如何 (世) コロンウエルノ名譽ハ如  
 何史家之ヲ評シテ何ト曰ヒタルヤ且ツ何故ニ然ルヤ (世) 其内行ニ就  
 テ何ヲ述ヘタルヤ (世) リチャードコロンウエルニ就テ何ヲ述ヘタル  
 ヤ將軍モンクハ何事ヲ為シタルヤチャールス第二世ノ位ニ復シタル  
 ハ何レノ時ナルヤ (世) 國人如何ニシテチャールスヲシテ位ニ即カシ  
 メタルヤチャールス及ヒゼームスノ治世ハ如何其新王ニ就テ何ヲ述

ヘタルヤ (世) 此時如何ナル變状ヲ生シタルヤ嘗テ弑君ノ罪アル者ニ  
 就テ如何ナル處置アリタルヤ如何ナル主義教育ノ行ハル、ニ至リタ  
 ルヤ教事ニ關シテ如何ナル法令ヲ議定シタルヤ (世) ドンキルクニ就  
 テ如何ナル處置アリタルヤチャールスハ何國ト兵ヲ構ヘタルヤ倫敦  
 ニ於テ如何ナル禍災アリタルヤ (世) 政府ノ民望ヲ失ヒタル所以ハ何  
 ソ其罪ハ何人ニ歸スヘキヤクランドン刑ニ就クノ後チ政ヲ執リタ  
 ル五相ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ (世) チャールス及ヒゼームスハ何教  
 ヲ信シタルヤチャールスノ佛王第十四世ヨリ若干金ノ支給ヲ受ケタ  
 ルハ何ノ為メナルヤチャールス在位ノ末年ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (世) 教王密計ヲ企テ刑セラレタル者ハ誰ゾ麥康密計ニ就テ何ヲ述ヘタ  
 ルヤ (世) 官人ノ品行ハ如何其治世ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤチャ  
 ールス第二世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (世) ゼームス第二世及ヒ其治世  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤゼームス政ヲ執ルニ及テ如何ナル進路ヲ取り  
 タルヤ其幕賓タルモノハ何人ソ且ツゼームスハ何事ヲ為シタルヤ  
 (世) 公爵モンモースニ就テ何ヲ述ヘタルヤ之ニ黨シタル者ハ如何ナル

處分ヲ受ケタルヤジエツフレースニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五) 誰ニシテ遂ニ其目的ヲ達シタルヤ且ツ如何ナル舉動ヲ以テ人心ヲ激怒セシメタルヤ國人ノ請ニ應ジ英國ニ來リテ政ヲ執リタル者ハ誰ソ (六) 尋テ何事ヲ生シタルヤ立盟國會ニ於テ何事ヲ為シタルヤ此事ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ (七) 是時ニ當テ英國ノ憲法ハ如何宗教ニ關シテ如何トル法規ヲ制定シタルヤ臣民ノ權利ヲ公告スルキ其條款ノ特ニ重要ナルモノ二三アリ何ソヤ (八) 總收サンクロフト等ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ之ヲ何ト名ケタルヤ (九) 愛倫ノ舉動ハ如何ウイリアムノゼームスヲ破リタルハ何レノ地ナルヤ如何ナル海戰アリタルヤ尋テ如何ナル和約アリタルヤ (十) ウイリアムニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其后マリニ就テハ如何 (十一) ウイリアムヲ繼ギタル者ハ誰ソアンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ其施治ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ (十二) 同盟シテ佛國ヲ伐チタルモノハ何國ナルヤ其同盟ノ軍ヲ督シタルモノハ何人ナルヤ其軍ハ如何ナル勝利ヲ得タルヤ其戰ノ局ヲ結ヒタルハ何レノ時ナルヤ (十三) 英蘇兩國憲法ヲ合同シタル事跡ニ就テ何ヲ述ヘ

タルヤ (至) 民擁黨及ヒ王擁黨ノ名稱始メテ世人ノ普知スル所ト為リ

タルハ何レノ時ナレヤ此二黨ニ就テ何ヲ陳ヘタルヤウイリアム及ヒマリノ登位並立ヲ助成シタル者ハ何人ナルヤアン在位ノ日政黨ノ形狀ハ如何

第九章

(一) アンヲ嗣キタル者ハ誰ゾゾ第一世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其施政上二三ノ失錯アリタルハ何ニ基因シテ然ルヤ (二) 政黨ノ名稱ニ如何ナル變化ヲ生シタルヤジヨージノ恩寵ヲ受ケタル者ハ何人ナルヤ王擁黨ハ何ヲ説話シタルヤ (四) ヨージ第二世及ヒ其朝廷ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其大陸屬地ニ向テ偏愛ノ心アリタル事ニ就キ何ヲ述ヘタルヤ (五) ロバルトワルポールニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (六) ヨージノ治世ニ當リ如何ナル戰アリシヤ日帝チヤールス第六世ヲ嗣キタルハ者誰ソ其位ヲ嗣クノ正當ナルヲ主唱シタル者ハ何人ナルヤ (七) 是ヨリ如何ナル戰乱ヲ惹起シタルヤ同盟諸國ノ兵ハ何レノ戰ニ勝チテ何レノ戰ニ敗レタルヤ其勝敗ノ結局ハ如何 (八) ヨージ第二世ノ大

陸ニ在ルキ英國ニ於テ何事ヲ生シタルヤ。託王ノ天兵ヲ破リタルハ何  
 レノ地ナルヤ。其終ニ敗レタルハ何レノ地ナルヤ。(九)英軍在米ノ佛兵  
 ト戦テ如何ナル勝利ヲ得タルヤ。尋テ何事ヲ生シタルヤ。(十)ジョージ  
 位ニ在ルノ日大英ノ形勢ハ如何其國債ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。(十一)ジ  
 ヨージ第三世即位ノ日其國勢ハ如何佛國ト戦ヒタル終局ハ如何。(十二)  
 ウイリアムピットニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。米國新疆ニ對シテ抑壓ノ處  
 置アリ其影響ハ如何。(十三)其他ジョージ第三世治世ノ日重大ノ事跡ハ  
 何ナルヤ。(十四)佛國ノ革命ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。英國政府ハ如何ナル  
 進路ヲ取リタルヤ。(十五)戰鬪ノ計畫ヲ為シタル者ハ誰ゾ此戰ニ就テ何  
 ヲ述ヘタルヤ。英軍ノ得タル勝利ノ二三ヲ舉ケヨ。(十六)ジョージ第三世  
 ノ施治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。其末後ノ十年間ニ於テ如何ナル狀態ナ  
 リシヤ。ジョージ第三世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。(十七)ジョージ第三世ヲ  
 嗣キタル者ハ誰ゾ其性質并ニ舉動ハ如何。(十八)如何ナル議案ヲ上院ニ  
 下付シタルヤ。其結局ハ如何。(十九)希臘人ニ就テ何ヲ説話シタルヤ。(二十)  
 教徒任官令ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。此法令ヲ革除シテヨリ尋テ何事ヲ

生シタルヤ。其效驗ハ如何其他法律上ノ改定ニ就テ何ヲ記述シタルヤ  
 (二十一)ジョージ第四世ヲ嗣キタル者ハ誰ゾ其登位ノ後チ幾ミナク何事ヲ  
 生ジタルヤ。英國ノ民心ハ如何ナリシヤ。多年英國ヲ擾動セシタル論旨  
 ハ何ナルヤ。公爵ウエルリントンハ何事ヲ為シタルヤ。其結果ハ如何  
 (二十二)爵紳ジョーンルツセルハ何事ヲ做シタルヤ。其結局ハ如何其處置ニ就  
 テ何ヲ述ヘタルヤ。(二十三)第一回ノ改正國會ニ於テ如何ナル重要ノ法令  
 ヲ決議シタルヤ。(二十四)ウイリアム第四世ヲ嗣キタル者ハ誰ゾ  
 トリアノ治世ニ當リ英兵戰鬪ノ重大ナルモノヲ示セ第一支那ノ役ニ  
 就テ其年月源因及ヒ結果ハ如何其第二役ニ於テハ如何。(二十五)土耳其ニ  
 對スル英佛兩國ノ政略ハ如何第一土耳其ノ役ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 クリミアノ役ニ就テ其年月源因及ヒ之ニ黨シタル者ヲ示セセバスト  
 ポールノ圍ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ。之ニ聯串シタル戰ハ何ノ。(二十六)英國  
 舟師ノ海戰ハ如何其死傷ヲ問フフロウレンスナイチンガルトハ何人  
 ツビクリアクロスタル武紳ノ等級ハ何ソ。(二十七)アフガンノ役ニ就テ其  
 年月源因及ヒ結局ヲ示セ英屬印度ノ地ハ何ソ。(二十八)荒土兵ノ乱トハ何ソ

其年月及ヒ源因ハ如何 (三) 其開戦ノ時状ヲ説話セヨ子ナサヒゴトハ  
何人ソ世<sup>(世)</sup>テルヒヲ圍ミタルハ何人ニシテ何レノ時ナルヤコウシ  
ルノ残骸トハ何ソルクノウノ救援ハ如何其叛乱ノ結局ハ如何東印度  
社中ニ就テ何ヲ送ハタルヤ (世) カナダ史中重大ノ事蹟ハ何ソ  
刺里新彊ニ就テハ如何 (世) 愛倫ニ於テ如何ナル擾動アリタルヤ  
蘇古  
蘭ノ自由教ハ如何ニシテ何レノ時起リタルヤ (世) 英國ノ政黨ハ如何  
允証黨トハ何ソ重大ノ法令ハ何ナルヤ (世) 佛國ト將ニ隙ヲ生セント  
スルニ至リタル成蹟ハ如何其他如何ナル事蹟ヲ記述シタルヤ歿シタ  
ル名士ハ何人ナルヤビクトリア<sup>(世)</sup> 治世ノ首相ハ何人ナルヤ

英國史概問

英王ニシテ在位最モ久シキ者ハ誰リ其最モ短キ者ハ何人ナルヤ其戰  
乱最モ多キモノハ何王ノ時ナルヤ其昇平ヲ極メタルハ何王ノ治世ナ  
ルヤ

蘇古蘭ト戰ヒタルハ何王ノ時ソ佛國及ヒ米國ト兵ヲ構ヘタルハ何王  
ノ時ナルヤ内國ノ革命ニシテ其最モ著名ナルモノハ何王ノ時ナルヤ

其駭々文明ニ進ミタルハ何王ノ時ソ

蓄徽軍ノ年月黨與源因及ヒ其結局ハ如何大内乱米國獨立ノ乱クリミ  
アノ役ニ就テ其年月等ヲ示セ

蘇古蘭ト兵ヲ構ヘタル全局ノ結果ハ如何佛國ト戰ヲ開キタル結局ハ  
如何

英國ノ威爾斯蘇古蘭加拿陀及ヒ奧斯多刺利亞ヲ占有シタルハ何レノ  
時ニシテ如何ノ方法ヲ以テシタルヤ且ツ其印度ノ屬地ハ如何

ロバルト、ピール、ジョン、ウイック、ル、フ、ウ、オ、ルト、ル、ラ、レ、ー、オ、リ、ー、グ、ル、コ  
ロン、ウ、エ、ル、ジ、ヤ、ン、オ、ス、ア、ル、ク、公、爵、マ、ル、ボ、ロ、ウ、ウ、イ、リ、ア、ム、ピ、ツ、ト、ウ、イ  
リアム、シ、エ、ー、キ、ス、ピ、ール、コ、ール、ド、ライオン、ゼ、オ、フ、レ、ー、コ、ー、セル、及、ヒ  
トーマス、コロン、ウ、エ、ル、ハ、如何ナル人ナルヤ  
火藥密計トハ何ソ勝ツ可カラサルノ水軍トハ如何長期國會トハ何ソ  
教徒任官令トハ如何ナルモノソ何ヲカ大允可証ト曰フ

英國史年表 (第一号)

サキソン統ノ初王ハ何人ナルヤダニス統ノ列王ハ誰々ナルヤノルマ

ン統及ヒヨーク統ノ初王ハ如何

エグバルトノ即位ハ何レノ時ナルヤカニウトウイリアム嬴王ヘンリ  
一第二世エドワード第三世及ヒヘンリー第五世ノ即位ハ如何

英國史年表 (第二号)

チウドル統スチユアルト統及ヒプリンスウイツキ統ノ列王ハ何人ナ  
ルヤ

ヘンリー第七世ノ即位ハ何レノ時ナルヤヘンリー第八世エドワード  
第六世等ハ如何

ヘンリー第七世ヘンリー第八世及ヒエドワード第六世等ノ在位ハ幾  
年ノ又シキニ直リタルヤ

ヘンリー第七世及ヒ其施治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤヘンリー第八世等  
ニ就テハ如何

英國文學年表

第十六世紀并ニ第十七世紀以下ニ於テ著名ナル政事家及ヒ將帥ハ何  
人ナルヤ

第十六世紀并ニ第十七世紀以下ニ於テ詩人及ヒ高僧ノ其名特ニ著ハ  
レタル者ハ何人ナルヤ

歐洲列國史

蘇格蘭史

(一)アレキサンドル偉帝ノ時ヨリ是國既ニ萬世一系ノ王統アリト為ス  
モノハ何ソヤ往古蘇格蘭ニ居住シタル首要ノ蠻族ハ何ナルヤ始メテ  
蘇格蘭全國ヲ一統シタル王ハ何人ソ (二)蘇英兩王兵ヲ交ヘ其戰激烈  
ヲ極ノタルハ何王ノ時ナルヤエドワードニ抗シタル者ハ誰ソロベル  
トブリウスノ英軍ヲ破リタルハ何レノ戰ナルヤ (三)千六百三年及ヒ  
千七百零六年ニ於テ何事ヲ生シタルヤ

日耳曼史

(一)八百四十三年歐西帝國分裂シテ三君主國ト為リタルハ其國ハ何ナ  
ルヤ後チ何事ヲ生シタルヤ第十世紀ニ於テニ主日耳曼ヲ治ム何人ナ  
ルヤ (二)ヘンリー第四世ノ時何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤコンラード  
第三世ノ推撰アリテヨリ如何ナル黨派ヲ生シタルヤ帝王黨及ヒ教王

黨ハ各何人ニ隨屬シタルヤ (三) フレテリツキバルバロサノ治世ハ何  
 ラ以テ特ニ著ハレタルヤ (四) コンラード第四世在位ノ後チ尋テ何事ヲ生  
 シタルヤ (五) 大空位ノ後チ撰ハレテ帝位ニ登リタル者ハ何人ナルヤ (六)  
 フラシコニアノ統及ヒスロビアノ統フ末ニ至リ事跡ノ重大ナルモノ  
 ハ何ツ且ツ其争鬪ハ何ニ基起シタルヤ (七) ロイス第十世ハ羅馬教  
 王ジヨン第廿一世ト如何ナル争ヲ生シタルヤ (八) 中裁條規ヲ以テ何事ヲ  
 決定シタルヤ (九) レジスモンドノ治世ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ  
 恒久公會ノ決議ヲ以テ焚殺セラレタル者ハ誰ソボヘミアニ於テホッ  
 ス及ヒジエロームニ黨シタル者ハ何事ヲ為シタルヤ (十) マキレミリ  
 アン第廿一世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一) 當時勢威無比ノ帝王ハ何人ナル  
 ヤ (十二) チヤールス第五世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十三) 改教ノ事ニ就テ何ヲ述ヘ  
 タルヤ (十四) フエルチナンド第廿二世及ヒフエルチナンド第廿三世ノ治世  
 ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ (十五) 其戰ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (十六) 其結果ハ  
 如何 (十七) チヤールス第五世ノ殂スルニ及テ何事ヲ生シタルヤ (十八) 墺國即  
 位ノ乱ハ如何ニシテ其局ヲ結ヒタルヤ (十九) 日耳曼帝國ノ絶滅ヤシハ

何レノ時ナルヤ且ツ其形狀ハ如何ナリシヤ (二十) 帝政ノ世襲タリシハ  
 何レノ時ナルヤ後チ之ヲ改メテ何ト為シタルヤ (二十一) 其始メテ制定シタル  
 推撰ノ法ハ如何後チ又タ何等ノ變革アリシヤ (二十二) 千八百四十八年ニ  
 於テ何事ヲ生シタルヤ

墺地利史

(一) 墺地利帝國ノ開創ハ何レノ時ナルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (二) 千八百四十八年ノ佛國革命ハ維也納ニ於テ何等ノ影響ヲ生シタ  
 ルヤ (三) 墺帝フエルチナンドハ何事ヲ做シタルヤ (四) 伊太里ニ在ル所ノ  
 墺國屬地ニ於テ何事ヲ生シタルヤ (五) ホンガリーニ就テ何ヲ説話シ  
 タルヤ (六) 魯帝ハ何事ヲ為シタルヤ其結果ハ如何 (七) 千八百四十九  
 年墺帝ハ何等ノ處置ヲ施シタルヤ

西班牙史

(一) 第五世紀ニ於テ是國ヲ伐チタル者ハ何人ヲ等八世紀ニ至リ何事ヲ  
 生シタルヤ (二) ムールス族ハ何事ヲ為シタルヤ七百五十五年アブド  
 ルラマンハ何事ヲ成就シタルヤ (三) ムールス族據ル所ノ國土ニ就テ何ヲ

述ハタルヤ (三)ゴス族即チ耶蘇教徒ノ軍ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ  
 西班牙現今ノ事跡ハ如何ナル耶蘇教會ヲ創建シタルヤカスチ  
 ールレオン及ヒアルラゴンノ三國ハ如何ニシテ合一シタルヤ (五)フ  
 エルヂナンド及ヒイサベルラノ治世ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (六)チヤ  
 ーレス第一世及ヒヒリツプ第二世ノ時ニ當リ西班牙ノ國勢ハ如何後  
 チ何事ヲ生シタルヤ是國文學ノ隆興ヲ極メタルハ何レノ時ナルヤ  
 (七)千八百八年ニ當リ何事ヲ生シタルヤ其結局ハ如何 (八)千八百十一  
 年ヨリ千八百二十一年ニ至ルマテ是國何事ヲ生シタルヤ爾後西班牙  
 ノ國勢ハ如何

葡萄牙史

(一)是國上古ノ史記ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (二)ボルゴンデーノ公爵ハ  
 ンリー曾テカヲカスチール王アルホンソノ為ニ盡スアルホンソ之ニ  
 報ユルニ何ヲ以テシタルヤ其嗣子アルホンソ何事ヲ成就シタルヤ  
 (三)ジョン第一世ノ施治ハ何ヲ以テ著名ナルヤ (四)ジョン第二世及ヒ  
 エマニウルノ治世ハ何ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ且ツ其間何事ヲ行ヒ

タルヤ喜望峯ヲ週航シテ印度ニ至ルノ航路ヲ發見シテヨリ貿易上何事  
 ヲ生シタルヤ始メテ葡人ト共ニ之ヲ週航シタル者ハ誰ソ (五)ジョン  
 第一世ノ時ヨリ西王ヒリツプ第二世ノ是國ヲ征略スルニ至ルマテ其  
 事跡ハ如何 (六)千五百八十年何事アリタルヤ西人ヲ逐ヒタルハ何レ  
 ノ時ソ (七)ブラジルノ發見及ヒ其開疆ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (八)千  
 八百七年ニ於テ何事アリタルヤブラジルニ對シテ如何ナル處置ヲ施  
 シタルヤ千八百二十六年ニ至リ何事ヲ生シタルヤ

紐折爾蘭史

(一)中古紐折爾蘭ノ國勢ハ如何第十五世紀ニ於テハ如何 (二)チヤーレ  
 ス第五世ハ其國ヲ何入ニ讓リタルヤ後チ之ニ關シテ何事ヲ生シタル  
 ヤ (三)和蘭聯邦ノ隆興ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (四)維也納ノ公會ニ於  
 テ十七州ニ對シテ如何ナル處置アリシヤ其聯盟ハ幾年ノ久シキヲ保チ  
 タルヤ (五)千八百三十年何事アリシヤ其結局ハ如何

波蘭史

(一)耶蘇教ノ是國ニ入りタルハ何レノ時ニシテ何人ノ力ニ由レルヤ君

主政治ノ隆盛ヲ極メタルハ何ノ時ナルヤ (二)カシミル第三世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ第十四世紀ノ末ニ至リ何事ヲ生シタルヤ (三)是國ノ隆大ヲ極メタルハ何王ノ時ナルヤ後チ何事ヲ生シタルヤ (四)波蘭ヲ征服シテ之ヲ分治シタルハ何レノ時ニシテ且ツ何人ナルヤ (五)千八百七年キルシットノ和約アリテヨリ何事ヲ生シタルヤ千八百十五年ニ於テハ如何 (六)大公爵コンスタンチンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ千八百三十年ニ於テ何事ヲリタルヤ (七)魯帝ニコラスニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

瑞典史

(一)往時瑞典ハ諾威ト共ニ何國ヲ構成シタルヤ第十四世紀ノ末ニ至ル何事ヲ生シタルヤ尋テ何事アリタルヤ (二)ガスタブス、バサニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三)ガスタブス、アドルフス及ヒ其治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (四)チャールレス第十二世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其履歴ハ如何 (五)ガスタブス第四世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其位ヲ繼キタル人ハ誰ナルヤハイランドノ喪失ヲ償ヒタルハ何人ナルヤ (六)チャールレス第

十三世ノ殂スルニ及テ何事ヲ生シタルヤ

丁抹史

(一)千八百四十八年丁抹ノ王位ハ何人ノ掌中ニ歸シタルヤ其君政ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)第十八世紀ノ始ニ當テ是時何人ト兵ヲ構ヘタルヤ後チ國界昇平事ナキモノ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ (三)クリスチアン第六世及ヒフレデリック第五世ノ時ソノ國勢ハ如何フレデリックヲ輔佐シタル政事家ハ誰ナルヤ (四)クリスチアン第七世ハ何人ニ嫁シタルヤマチルダニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五)千八百一年コツパシオンハ何人ノ襲撃シタル者ハ誰ソ千八百七年ニ至リ名ヲ何ニ託シテ之ヲ砲撃シタルヤ英軍ニ降リタル舟師ハ幾多ナリシヤ (六)千八百四十三年何事アリタルヤ

普魯士史

(一)是國強大ヲ致スノ基礎ヲ立テタル者ハ何人ナルヤ其嗣ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)フレデリック第二世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三)千七百五十六年フレデリックハ何人ニ向テ開戦ヲ公告シタルヤ其交戦及



略シタルヤソリマン華王ノ施治及ヒ其功業ハ如何 (四)ソリマン以後  
トルクス族ハ何人ト兵ヲ構ヘタルヤ (五)輓近土耳其ノ國力衰弱シタ  
ルハ何ニ源因スルヤ (六)希臘人ノ乱ヲ作シタルハ何レノ時ナルヤ後  
チ何事ヲ生シタルヤ千八百二十八年及ヒ千八百三十二年ニ至リ何事  
ヲ做シタルヤ

歐洲列國帝王略譜解説

日帝チャールレス第五世ノ即位ハ何レノ時ナルヤ西班牙ノフェルデナ  
ンド及ヒイサベルラハ如何瑞典ノガスタブスバサハ如何普王フレデ  
リツキ第一世魯帝ベートル第一世及ヒ墺帝フランレスハ如何  
第十六世紀以下墺地利ノ歴帝ハ誰ナルヤ

歐洲列國文學略表解説

第十四世紀第十五世紀以下ニ於テ伊太里ニ於テ如何ナル名士ヲ出シ  
タルヤ

文學ノ再興ニ就テ伊太里ノ事ヲ記スル如何其名士ノ二三ヲ舉ケヨ  
佛國ニ就テ何ヲ述ハタルヤ佛國文學ノ隆興ヲ極メタルハ何レノ時ナ

ルヤ其名士ノ二三ヲ示セ西班牙日耳曼瑞典及ヒ和蘭ニ就テ何ヲ述ヘ  
タルヤ

亞米利加史

(一)亞米利加ノ發見ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其影響ノ二三ヲ示セ (二)此  
發見ニヨリテ天下ノ人其恩ヲ誰ニ歸ス可キヤコロングスニ就テ何ヲ  
述ヘタルヤ (三)コロングス地球ノ平均ヲ全フスルニ何物ノ必ス無カ  
ル可カラサルヲ覺知シタルヤ (四)未タ喜望峰ノ航路ヲ檢出セサル前  
如何ニシテ印度ノ貨物ヲ歐洲ニ輸送シタルヤコロングス自ラ海ニ航  
シテ其地ヲ發見セント欲シタルハ何ノ為ナルヤ (五)コロングス何人  
ニ向テ頻リニ其扶助ヲ請ヒタルヤ之ヲ請求スル七年ニシテ終ニ何人  
ノ恩顧ヲ得タルヤ其遠航ニ就テ如何ナル準備ヲ受ケタルヤ且ツ如何  
ナル命令ヲ受ケタルヤ (六)其解纜シタルハ何レノ時ニシテ何レノ地  
ヨリシタルヤ且ツ如何ニシテ進航シタルヤ (七)如何ナル事情アリテ  
コロングス舟子ト共ニ驚動シタルヤコロングス如何ニシテ之ヲ處理

シタルヤ後チ廿日ヲ經テ何事ヲ生シタルヤコロンブスハ如何ニシテ舟  
子ノ言フ所ニ從ハサルヲ得サルニ至リタルヤ (八)コロンブス始メテ  
燈光ヲ認メタルハ何レノ時ナルヤ此時舟子ハコロンブスニ向テ如何  
ナル満足ノ意ヲ表ハシタルヤ (九)始メテ檢出シタル島嶼ハ何島ナル  
ヤ後チ發見シタルモノハ何ソコロンブスハ何故ニ以上ノ諸島ニ名ク  
ルニ西印度ヲ以テシタルヤ (十)其未タ西班牙ニ歸航セサルノ前何ヲ  
得タルヤ其航海中何事ヲ生シタルヤ其發見ノ記事ヲ保存スルニ如何  
ナル方法ヲ以テシタルヤ如何ナル好時機ヲ生シタルヤ且ツ何レニ向  
テ進航シタルヤ (十一)コロンブス南亞米利加ノ大洲ヲ檢出シタルハ何  
レノ時ナルヤ其成功ニ因リテ何事ヲ生シタルヤコロンブスニ對シテ  
何事ヲ為シタル者アリシヤ船長ノコロンブスニ向テ其桎梏ヲ解カン  
トコト發言シタル片コロンブス之ニ對テ何ト曰ヒタルヤ (十二)後チコロ  
ンブス其桎梏ヲ以テ何事ヲ為シタルヤ (十三)コロンブス桎梏ノ身ヲ以  
テ西班牙ニ歸リタル片國人ノ感情ハ如何ナリシヤ且ツ如何ナル待遇  
ヲ受ケタルヤ (十四)コロンブスハ其第四回ノ航海ニ於テ如何ニシテ土

蕃ヲ服シタルヤ後チ其身上ニ何事ヲ生シタルヤ其葬儀ニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ其墓碑ニ刻スルニ如何ナル銘ヲ以テシタルヤ (十五)コロンブ  
スヲシテ此大洲ニ命スルニ其名ヲ以テスルヲ得サラシメタル者ハ何  
人ナルヤアメリカキウスハ自ラ以テ如何ナル權アリト為シタルヤ其不  
正ノ所為ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十六)初メテ喜望峰ヲ週航シテ印度ニ  
至リタル者ハ何人ナルヤ其事業ニ就テ何ヲ述ヘタルヤマゼラニ  
就テ何ヲ述ヘタルヤ (十七)初メテ北亞米利加洲ヲ檢出シタルハ何人ニ  
シテ何レノ時ナルヤ (十八)初メテ如何ナル陸地ヲ發見シタルヤ其徒ハ  
何レニ向テ進航シタルヤ且ツ如何ニシテ其地ヲ占取シタルヤ (十九)コ  
ロンブスハ如何ナル兵ヲ將テ何レノ時墨西哥ヲ伐キタルヤ其兵卒ノ軍  
裝ハ如何ナリシヤ其他コロンブスハ何物ヲ携ヘタルヤ (二十)コロンブスハ  
先ツ何事ヲ為シタルヤモンテズマハ如何ニシテ之ヲ待チタルヤコン  
テスハ如何ニシテ其優待ヲ促シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (廿一)コ  
ロンブスハ如何ナル扶援ヲ得タルヤ西人ノ奏功ハ如何 (廿二)西人ノパナ  
マニ開疆シタルハ何レノ時ナルヤビザロウハ如何ナル兵ヲ率テ此

地ヲ發シ白露ヲ征略セント欲シタルヤ (三)ピザルロウハ國王アクバ  
 リパニ對シテ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (四)アタバリバハ其身ヲ贖  
 ハント欲シテ何事ヲ為シタルヤ其財寶ハ幾許ナリシヤ且ツ之ヲ以テ  
 如何ナル事ヲ為シタルヤ後チ其國王ニ對シ何事ヲ為シタルヤ (五)西  
 軍ノ將帥ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (六)白  
 露及ヒ墨西哥ノ人民ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ如何ナル技術ニ熟レ  
 タルヤ白露ノ人民ハ何事ニ長シタルヤ其宗教ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (七)千五百二十四年佛王フランシス第一世ハ何事ヲ為シタルヤゼー  
 ムス、カルナールニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (八)ウオルトル、ラレーハ何事  
 ヲ成就シタルヤ其英國ニ歸ルノ日何事ヲ生シタルヤ (九)英人ニ就テ  
 ビルゲニアニ移住セント欲シ遂ニ其志ヲ果サマリシ者ハ如何ナル  
 種類ノ人ナルヤ (十)歐洲ノ人民ハ如何ナル權利ヲ根據トシテ到ル處  
 亞米利加ノ各地ヲ占取シタルヤ如何ニシテ土蕃ヲ待チタルヤ之カ墻  
 ヲ作りタル者ハ何人ナルヤ其人ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (十一)羅  
 馬教王ハ何事ヲ為シタルヤ何ヲ以テ亞米利加ヲ占有スルノ理由ト為

タルヤ且ツ之ヲ以テ如何ナル口實ト為シタルヤ (十二)西人ヲ誘導シタ  
 ルモノハ何ソ其金塊ヲ執望シタルニ就キ何ヲ述ヘタルヤ如何ニシ  
 テ土蕃ヲ待チタルヤ其結局ハ如何 (十三)其殘酷ヲ非トシタル者ハ何人  
 ナルヤ疆民ハ工人ヲ何レノ地ニ求メタルヤ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (十四)苗初ノテ黒奴ヲ亞弗利加ヨリ輸入シタル者ハ何人ニシテ且ツ何レ  
 ノ時ナルヤ後チ何事ヲ為シタル者アリシヤ

北亞聯邦史

(一)各國ミナ何ヲ唱フルノ傾向アリタルヤ是國ノ人民ニ至テハ如何是國開  
 創ノ沿革及ヒ其隆興ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)初ノテ居テ此地ニ移  
 シタル者ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ其人ハ何ニ左祖シタルヤ其隆興  
 ニ適シタル事情ハ何ナルヤ其政治及ヒ貿易上ノ關係ニヨリ何國ト交  
 際ヲ結フニ至リタルヤ (三)是國ノ開疆ハ何ニ源因スルヤ其源因ニヨ  
 リテ新ニ民ヲ移シ疆ヲ開キタルハ何レノ地ナルヤ (四)當初其艱苦ノ  
 狀ハ如何其結局ハ如何 (五)英王ノ允可証ヲ下賜シテ初ノテ疆ヲ北亞  
 米利ニ開キ遂ニ其志ヲ果シタルハ何レノ時ナルヤ如何ナルニ社ヲ組

織シタルヤ之ニ附與スルニ如何ナル地ヲ以テシタルヤ (六) 初メテ一  
 新疆ヲ開カン<sup>一</sup>ヲ試ミタルハ何レノ時ニシテ且ツ何人ナルヤ先ツ何  
 レノ地ヨリ始メタルヤ施治ノ方法ハ如何ナリシヤ (七) 初任ノ會長ハ  
 何人ナルヤ明年其撰ニ當リタル者ハ誰ソスミスニ就テ何ヲ述ヘタル  
 ヤ (八) 疆民ハ如何ナル争鬪ニ從事シタルヤ是ヨリ先キ土蕃ハ何ニ因  
 リテ已ニ忿激シタルヤ (九) 兵總スミスノ身邊ニ何事ヲ生シタルヤス  
 ミスハ如何ナル酋長ノ面前ニ送致セラレタルヤ (十) スミスニ就テ如  
 何ナル處置アリタルヤ何人ノ勢力ニヨリテ其難ヲ免レタルヤ (十一) 後  
 十二年ヲ經テホカホ<sup>一</sup>ニタルヤ (十二) 疆民ノ為ニ何事ヲ為シタルヤ其他ホカ  
 ホ<sup>一</sup>ニタルヤ (十三) 就テ何ヲ述ヘタルヤ (十四) 數月ヲ出テスシテ疆民ノ數如何  
 ニ減少シタルヤ其年末ニ至リ其數幾クナリシヤ (十五) 後キ疆民ハ如何  
 ナル艱苦ヲ受ケタルヤ (十六) 其饑饉ノ影響ハ如何ナリシヤ其生存シタ  
 ル者ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ之ヲシテ猶ホ此地ニ留マルニ至ラ  
 シノタルモノハ何ソ (十七) 十二年ヲ經ルノ後キ疆民ノ數ハ如何千六百  
 十九年ニ至リ其増加シテ幾人ト為リタルヤ開疆ノ徒ニ就テ何ヲ述ヘ

タルヤ之ヲシテ妻帯セシムルニ何等ノ法ヲ用ヒタルヤ一妻ノ價幾許  
 ナリシヤ役奴ノ端緒ハ如何 (十八) 千六百二十二年如何ナル密計ヲ設ケ  
 テ疆民ヲ殄滅セント欲シタル者アリシヤ其徒ヲ斬ル幾多ナリシヤ尋  
 テ如何ナル禍災ヲ來タシタルヤ千六百二十四年疆民ノ數幾許ナルニ  
 至リシヤ (十九) 其他如何ナル事情ニヨリテ疆民ノ艱苦ヲ生シタルヤウ  
 イルレム、バルケレー<sup>一</sup>及ヒ其施治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ新疆ノ貿易ヲ  
 制限シタルヨリ何事ヲ生シタルヤ其影響ハ如何 (二十) 千六百六十年人  
 口幾許ナリシヤ爾後二十八年間ニ於テ其増殖ハ如何初メテ險ヲ冒シ  
 テ此地ニ至リタル者ノ目的ハ如何千六百十六年其方向ヲ何レニ變シ  
 タルヤ煙草ノ用法ハ如何 (二十一) ホドソン<sup>一</sup>河ヲ發見シタルハ何人ニシテ  
 且ツ何レノ時ナルヤ蘭人初メテ永久ノ新疆ヲ開キタルハ何レノ時ニ  
 シテ且ツ何レノ地ナルヤ其地及ヒマンハツタン<sup>一</sup>島ノ新疆ヲ何ト名ケ  
 タルヤ (二十二) 相繼テ蘭疆ヲ治メタル知疆ハ何人ナルヤ英疆ノ漸ク加ハ  
 ルニ及テ何事ヲ惹起シタルヤ (二十三) 英王チャールズ二世ハ其地ヲ何  
 人ニ與ヘタルヤ後キ何事ヲ生シタルヤ (二十四) フライモース社中ニテ一

新疆ヲ開キテ遂ニ其目的ヲ果サ、リンハ何レノ地ナルヤ其地名ヲ變  
シタルハ何人ナルヤ英王ゼームス特許証ヲ何人ニ與ヘタルヤ其地ハ  
何緯度ノ間ニ在リタルヤ (其) 初ノテ新疆ヲニウ、エングランドニ開キ  
タルハ何レノ時ニシテ且ツ何人ナルヤ其徒ヲ名ケテピウリタンス教  
徒ト曰ヒタルハ何故ソ且ツ何教會ノ一部ヲ成シタルヤ (其) 是ヨリ先  
キ其徒ノ走リタルハ何レノ地ナリシヤ其亞米利加ニ來リタルハ何故  
ナルヤ當時宗教寛恕ノ論說ニ就キ何ヲ述ヘタルヤ (其) 其徒ハ何レノ  
時河流ニ溯ラント欲シタルヤ其初ノテ發見シタル土地ハ何レナルヤ  
其フライモースニ上陸シタルハ何レノ時ナルヤ (其) 其徒ハ如何ナル  
艱苦ヲ受ケタルヤ (其) 其徒ハ如何ナル政体ヲ設ケタルヤ初ノテ新疆  
ト為リタル二人ハ誰ナルヤ其徒ハ如何ナル食品ヲ培養シタルヤ數年  
間如何ニシテ其財産ヲ所有シタルヤ土蕃ノ來襲ヲ防クニ如何ナル方  
法ヲ以テシタルヤサモセツトニ就テ何ヲ述ヘタルヤマツサソイトハ  
如何之ト結締シタル條約ハ相守ルヲ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ (其)  
マツサキセツツ灣頭ノ新疆ハ何人ノ開ク所ニシテ且ツ何レノ時ナル

ヤボストン及ビ其他近傍ノ地ヲ開キタルハ何人ナルヤ (其) 初ノテニ  
ウ、ハンパレエールヲ開キタルヲニ就キ何ヲ記述シタルヤ其マツサキ  
セツツニ合併シタルハ幾年間ナリシヤ (其) コンチククトットノ新疆  
ヲ開キタルハ何レノ時ニシテ何レノ處ヨリ始メタルヤニウ、ヘーデン  
ノ新疆ハ如何之ヲ聯絡シタルハ何レノ時ソ (其) ロードイスランドノ  
新疆ハ何レノ時何人ノ開ク所ニシテ何レノ地ナリシヤ (其) 疆民ハ宗  
教并ニ學事ニ就テ注意セシ所ハ如何始メテマツサキセツツ灣頭ノ新  
疆ヲ開クテヨリハハルト大學校ノ創立ニ至ルマテ幾年ヲ經過シタ  
ルヤ (其) 疆民ハ如何ナル德行ヲ以テ特ニ著ハレタルヤ (其) 其見ル所  
何事ニ就テ狹隘ナリシヤ其所論及ヒ習行ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (其)  
疆民ハ如何ニシテ其地ヲ占有シタルヤ歐人ハ如何ニシテ土蕃ヲ待チ  
タルヤ (其) 兵總スタンヂス及ヒロビンソンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ數  
年ノ間土蕃ノ襲撃ヲ受ルヲ少ナカリシハ何レノ新疆ナリシヤコンチ  
クチククトットノ新疆ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其争鬪ノ結果ハ如何 (其) マ  
ツサキセツツ灣頭プライモースコンチクチククトット及ヒニウ、ヘーデン

ノ四疆ハ其安固静寧ラシテ益確立セシムル為ノ如何ナル處置ヲ施シ  
タルヤ各幾多ノ代議士ヲ撰任シタルヤ此聯結ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
(兗)疆民ノ土蕃ト戦テ残忍ヲ極メタルハ何レノ役ナリシヤヒリツプ  
ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (甲)土蕃ハ何ヲ為サント欲シタルヤ如何ナル  
處置アリシヤ (乙)交戦ノ近因ハ何ヲ尋テ何事ヲ生シタルヤ (丙)如何  
ニシテ兵ヲ交ヘタルヤ其大戦ヲ何ト名ケタルヤ其交戦ノ地ハ何レナ  
ルヤ疆民ヲ督シタル者ハ何人ナリシヤ彼我ノ死傷ハ幾クナリシヤ  
(丁)敗後土蕃ノ状態ハ如何ヒリツプノ身邊ニ何事ヲ生シタルヤ其死ニ  
就テ何ヲ述ヘタルヤ後チ疆民ハ如何ナル戦ニ於テ土蕃ノ窘ム所ト為  
リタルヤ (戊)是時ニ當テ諸疆英人ノ數ハ幾クナリシヤ其死傷ハ幾多  
ナリシヤ幾多ノ屋宇及ヒ都城ヲ破壊シタルヤ (己)マリーランドヲ開  
キタル者ハ何人ナルヤ當初其人ハ疆ヲ何レノ處ニ開キタルヤ其地ニ  
命スルニ何人ノ名ヲ以テシタルヤ爵紳バルチモールヲ繼キタル者ハ  
誰ゾ (庚)初メテ其疆ニ任セラレタル者ハ誰ゾ其人ハ何レノ時ヲ以  
テ何レノ處ヨリ一新疆ヲ開キタルヤ且ツ如何ナル政略ヲ履行シタル

ヤ (望)ペンシルバニアノ地ハ何人ニ賜ハリタルヤ何故ニ之ヲペンニ  
附與セラレタルヤペンハ何レノ時何人ヲ携ヘテ此地ニ至リタルヤ  
(哭)パンハ何ヲ以テ諸規ノ基本ト為シタルヤ且ツ如何ニシテ土蕃ト交  
ハリタルヤ (哭)互ニ其約ヲ守ル幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ (辛)此新  
疆ノ昌榮ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ移住者ヲ勸誘シタルモノハ何ゾ (至)  
初メテ信教ノ自由ヲ公許シタルハ何レノ新疆ナルヤ

第二章

(一)新疆ヲ此地ニ開キテヨリ以來相繼テ英王ノ位ニ登リタル者ハ何人  
ナルヤ其所見ノ影響ハ如何疆民ハ何ヲ以テ驚動シタルヤ (二)エドワ  
ードランドルフハニウエングランドノ自由ヲ壓壞セント欲シテ何事  
ヲ為シタルヤゼームス弟二世ハ何人ヲ以テニウエングランドノ知疆  
ト為シタルヤエドモンドアンドロスハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ其  
允可証ニ對シテ何ヲ做シタルヤ後チエドモンドハ如何ナル處置ヲ施  
シタルヤ (四)是時英國ニ於テ何事ヲ生シタルヤ千六百八十八年ノ革  
命アリテ其報ノ此國ニ達シタルルル人民ハ如何ナル感覺ヲ生シタルヤ

疆民ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (五) マツサキセツツ灣頭及ヒプラ  
 イモリスノ新疆ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (六) 舊允可証ニヨリテ官吏ヲ  
 撰任スルノ方法ハ如何新允可証ニテハ如何ナル變更アリタルヤ其初  
 ノテ就任シタル知疆ハ何人ナルヤ (七) 英國ノ革命アリテヨリ疆民ハ  
 如何ナル災害ニ遭ヒタルヤウイリアム位ニ在ルノ日其戦乱ハ幾年ノ  
 久シキニ涉リタルヤアンノ治世ニ及テハ如何 (八) コートレットチノ和  
 約前二十五年ノ間其國事ナキモノ幾年ナリシヤ其兵役ニ從事シタル  
 國人ハ幾多ナリシヤ其從軍セサル者ノ情况ハ如何其國ノ形勢ハ如何  
 ナリシヤ (九) ニウエングランド及ビニウヨークノ丁壯ニシテ從軍シ  
 テ命ヲ隕シタル者ハ幾人ノ多キニ至リタルヤ (十) 再ヒ英佛兩國ノ兵  
 ヲ交ヘタルハ何レノ時ナルヤ此役ノ米國ニ於テ特ニ重大ナルハ何故  
 ソロイイボルグニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一) 將軍パツパレルハ幾多ノ  
 兵ヲ率ヒタルヤ之ニ合シタルハ何人ナルヤ其結局ハ如何 (十二) 新疆ニ  
 於テ此戦勝アリテ其報ノ佛國政府ニ達シタルハ如何ナル影響ヲ生シ  
 タルヤ佛國ヨリ如何ナル艦隊ヲ米國ニ發遣シタルヤ其目的ハ如何

(十三) 此艦隊ハ如何ナル災害ニ遭ヒタルヤ (十四) 其難ヲ免レタル兵艦ハ如  
 何ナリシヤアキスラチャーメルノ和約ヲ以テロイスボルグヲ如何ニ  
 シタルヤ (十五) ミスシッピ―河及ヒ其支流ノ沿岸ニ在ル所ノ土地ヲ以  
 テ其所有ト為サント欲レタル者ハ誰ソ和約後佛人ハ之ニ就テ如何ナ  
 ル處置ヲ施レタルヤ (十六) オハイオ會社ハ如何ナル允可證ヲ得タルヤ  
 佛人ハ其商賈ニ對シテ如何ナル處置ヲ施シタルヤ (十七) オハイオ會社  
 及ヒビルヂニアノ新疆ニ於テ如何ナル處置ヲ施シタルヤ使命ヲ奉シ  
 テ佛營ニ至リタルモノハ何人ツ (十八) 英國政府ハ如何ナル舉動ニ出テ  
 タルヤ如何ナル軍備ヲ為シタルヤ (十九) 將軍フラドックハ如何ナル征  
 軍ヲ帥テ發遣セラレタルヤ其軍ハ幾多ナリシヤブラドック及ヒ其運  
 命ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ナル死傷アリタルヤワシントンニ就テ  
 何ヲ述ヘタルヤ (二十) 將軍ジョソン兵ヲ將テクロウポイントニ至ル  
 片何レノ處ニ於テ何人ト會戦シタルヤ其結局ハ如何ナイアガラ及ヒ  
 フロントナツク城ニ進向シタル征軍ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (廿一) 未タ  
 開戦ヲ公告セサルノ前ソノ兵ヲ交ユル幾年間ナリシヤデスコウニ繼

キタル者ハ何人ナルヤ 英兵ヲ督シタル者ハ何人ナルヤ 其將帥及ヒ交  
戦ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ 何人ノカニヨリ百事一新シタルヤ (世) ビツ  
トハ如何ナル政略ヲ取リタルヤ 其兵役ニ從ハシメタル人員ハ如何三  
師ヲ出シテ遠征ヲ行フニ決ス何々ナルヤ (世) ロイスボルグニ進向シ  
タル兵士及ヒ將帥ハ誰ソ其結局ハ如何 (世) マベルクロンビーノチユ  
ンテロガヲ襲撃シタル結局ハ如何 參軍ブラッドストリート及ヒ將軍  
ヲオルヒースハ何事ヲ為シタルヤ (世) チコンデロガノ敗戦後其元帥  
ニ任シタル者ハ何人ナルヤ 千七百五十九年ノ役ハ其目的那邊ニ在リ  
タルヤ 當時英軍ハ如何ナル三分隊ヲ以テ成リタルヤ (世) チコンデロ  
ガクロウンボイント及ヒカイアガラニ進向シタル征軍ノ勝敗ハ如何  
(世) クイゼツクノ遠征ハ之ヲ何人ニ任シタルヤ 其地ニ就テ何ヲ述ヘ  
タルヤ 其天險アリタルカ為ニ英將ハ却テ其勇氣ヲ加ヘタルヤ 否其城  
下ニ迫リタルヤ 如何ナル兵ヲ帥ヒタルヤ (世) 英將ハ夜中ニ何事ヲ成  
就シタルヤ 尋テ起リタル交戦ノ結局ハ如何 (世) ウォルフ重傷ヲ受ク  
ルノ後チ戦状ヲ目撃シテ如何ナル言ヲ發シタルヤ モントカルムニ就

テ何ヲ述ヘタルヤ (三) 此戰ノ後チ尋テ何事ヲ生シタルヤ 千七百六十  
三年巴里ノ和約ヲ以テ何ヲ為シタルヤ 此勝戦アリテヨリ疆民ハ如何  
ナル感覺ヲ生シタルヤ

第三章

(一) 疆民ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ 移民ノ英國ヲ去リタルハ何故ナルヤ 其  
本國ヲ親ル如何 (一) 千七百六十三年ノ和約以來其情況ハ如何 (三) カ  
ナダヲ征略シテ佛人及ヒ土蕃ノ害ヲ免ル、ニ至ルノ後チ疆民マタ如  
何ナル艱苦ニ遭ヒタルヤ (四) 大英ノ米國屬地ヲ守ル為メ戦ヲ開キタ  
ル影響ハ如何 疆民ニ課税スルニ如何ナル口實ヲ以テシタルヤ (五) 疆  
民是ヲ以テ如何ナル説ヲ唱ヘタルヤ 其唱フル所ハ果シテ英國臣民ノ  
權利ナリシヤ (六) 千七百六十四年國會ニ於テ如何ナル處置ヲ施シタ  
ルヤ 疆民之ヲ以テ如何ナル感情ヲ生シタルヤ (七) 明年如何ナル法令  
ヲ議定シタルヤ 證印税法ハ何ニ課税シタルヤ ビルヂニアノ公會ニ於  
テ何事ヲ爲シタルヤ マツサキセツツニ於テハ如何 (八) 證印税法ヲ行  
フノ報此地ニ達シタルルホストンニ於テ何事ヲ生シタルヤ ニウヨ

クニ於テハ如何其商賈ハ何事ヲ為シタルヤ (九) 聯疆公會ハ何レノ時  
ヲ以テ何レノ地ニ會シ且ツ如何ナル處置ヲ施シタルヤ其商賈ハ何事  
ヲ爲シタルヤ證印稅法ヲ行ヒタル結果ハ如何英國ノ内閣ニ於テ更迭  
アリタル後チ英國議院ニ於テ何事ヲ為シタルヤ (十) 千七百六十七年  
英國議院ニ於テ如何ナル法令ヲ議定シタルヤ之ヲ實行セシムル爲メ  
如何ナル處置ヲ施シタルヤ其他英國議院ニ於テ如何ナル抑壓ノ處置  
ヲ行ヒタルヤ (十一) 是時ニ當テ米國ノ人心ハ如何ナリシヤ三月五日ヲ  
以テ如何ナル争鬪ヲ生シタルヤ如何ニシテ死者ノ葬儀ヲ行ヒタルヤ  
兵總ブレ斯顿及ヒ其兵卒ノ糾彈ハ如何ナル結局ニ至リタルヤ (十二)  
千七百七十一年ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十三) 千七百七十二年マツサキ  
セツツノ代議士ハ何ヲ為シタルヤボストン及ヒ其他各都ハ居民ハ何  
事ヲ為シタルヤ (十四) ニウヨーク及ヒヒラデルヒアニ於テハ茶ニ就テ  
何事ヲ爲シタルヤボストンニ於テハ如何 (十五) 何レノ地ヲ以テ叛乱ノ  
首地ト爲シタルヤボストン港令ト名クル法令ハ如何ナルモノナルヤ  
其影響ハ如何 (十六) 將軍ゲイヂハ如何ナル職權ヲ以テボストンニ至リ

タルヤ幾モナク尋テ何事ヲ生シタルヤ (十七) マツサキセツツニ於テハ  
戰備ヲ爲スニ如何ナル處置ヲ施シタルヤ (十八) マツサキセツツノ公聽  
ニ於テ如何ナル事ヲ做シタルヤ (十九) 大洲公會ハ何レノ時ヲ以テ其議  
ヲ何レノ處ニ開キタルヤ此公會ハ何ヲ以テ組織シタルヤ其會ニ於テ  
如何ナル處置ヲ施シタルヤ (二十) 大英ノ勢威ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ疆  
民ノ情況ハ如何特ニ其所作ヲ妨害シタルモノハ何ソ疆民決然トシテ  
敢テ戰ハントス英國ノ之ヲ視ル如何 (廿一) 米國公會ノ舉動ヲ英國議院  
ニ報告シタルヤ何事ヲ爲シタルヤ英軍漸ク加ハリテ其數幾許ナルニ  
至リシヤ (廿二) 爵紳ノルスノ提出シタル調和勳議ノ旨意ハ如何其目的  
トスル所ハ何ソ米國之ヲ以テ如何ト爲シタルヤ (廿三) 將軍ゲイヂノ一分  
隊ヲサレムニ派遣シタルハ何ノ爲メナルヤコントルドノ軍需ヲ奪フ  
爲ニ發遣セラレタル者ハ何人ナルヤレキシントンノ事ニ就テ何ヲ述  
ハタルヤ (廿四) 苗レキシントンニ於テ鄉勇ヲ攘フノ後チ英軍ノ舉動如何  
其歸途何事ヲ生シタルヤ (廿五) 是時米人ハ何事ヲ爲シタルヤ如何ナレ  
兵ヲ券リタルヤ (廿六) 何人ノ力ニヨリテ如何ナル城堡ヲ安固ナラシメ

タルヤ (七) マツサキセツツノ州會ニ於テ何事ヲ做シタルヤ (八) 第二  
田ノ大洲公會ハ何レノ時ヲ以テ其議ヲ何レノ處ニ開キタルヤ且ツ何  
ヲ勸告シタルヤ (九) 英兵ヲ帥テ來リタル將帥ハ如何ナル人ナルヤ是  
時如何ナル處置ヲ施シタルヤ赦免ヲ得サル者ハ何人ナリシヤ (十) 參  
軍アレコツトハ何等ノ目的ヲ以テケンケル丘上ニ胸壁ヲ築クノ命ヲ  
受ケタルヤ未タ之ヲ覺知セサルノ前其工事ハ已ニ成ラントシタルヤ  
否 (世) 將軍ホーハ如何ナル兵ヲ以テ之ヲ襲撃シタルヤ衆人ノ守防ニ  
就テ何ヲ迷ヘタルヤ兩軍ノ死傷ハ如何英兵進軍スル所何事ヲ為シタ  
ルヤ (世) 是時ニ當テ米國公會ハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ其大元帥  
ノ撰ニ當リタル者ハ誰ソワシントンニ就テ何ヲ迷ヘタルヤワシントン  
シハ其本營ヲ何レノ處ニ布キタルヤ (世) 其他首要ノ武官ハ何人ナル  
ヤ (世) カナダヲ征スル為メ發遣セラレタル者ハ誰ソ何人ヲ以テ其主  
將ト為シタルヤ (世) アルノルドハ何事ヲ成就シタルヤクイビイツク  
襲撃ノ結果ハ如何 (世) 北方ニ於テ是等ノ戰アルニ方テビルヂニアニ  
於テハ何事ヲ生シタルヤ爵紳ドンモールハ何事ヲ做シタルヤ (世) 其

他何レノ州ヨリ忠勤ナル沼疆ヲ逐ヒタルヤ大英ニ黨シタル者ヲ何ト  
名ケタルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ迷ヘタルヤ將軍ゲーヂノ任ヲ嗣キタル  
者ハ誰ソ (世) ホストン屯在ノ米軍ニ就テ何ヲ迷ヘタルヤワシントンハ  
冬末ニ至リ何ヲ為サント決意シタルヤ如何ナル處置アリシヤ (世) ホ  
ーヲシテ其壘ヲ襲撃スル能ハサラシメタルモノハ何ソ且ツ如何ナル  
事ヲ生シタルヤ (世) 平バートルハ如何ナル襲撃ヲ行フタルヤ  
其結局ハ如何 (世) ケンケル丘ノ戰報英國ニ達シタルヤ如何ナル影  
ヲ生シタルヤ英國内閣ニ於テハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ遣米ノ總  
軍其數幾許ナリシヤ (世) 是ヨリ先キ争フ所ノ目的ハ那邊ニ在リシヤ  
是ニ於テ疆民ハ何ヲ為サント欲シタルヤ米國公會ニ於テ疆民ノ不羈  
獨立タルヲ公告セント欲スルノ動議ヲ提出シタル者ハ誰ソ其檄文ヲ  
起草スルノ委員ハ何人ヨリ成リタルヤ其投票ハ如何ニシテ何レノヤ  
之ヲ行ヒタルヤ (世) 其檄文ノ結末ハ如何

第四章

(一) ワシントンハ何ヲ以テ將軍ホーノ目的ナリト為シ如何ナル處置ヲ



尋テ何事ヲ生シタルヤ (子)伯爵エスタイン督スル所ノ佛國艦隊ハ幾隻ヲ以テ成リタルヤ是時相謀テ如何ナル策ヲ立テタルヤロードイスラントノ戰狀ハ如何佛國艦隊ハ何ヲ為シタルヤ十二月ニ至リ英軍ハ何府ヲ抜キタルヤ (世)千七百七十六年交戦ノ局面ニ如何ナル變更アリタルヤ其戰狀ハ如何米軍ノ衰ヘタルハ何ニ源因シタルヤ (世)コーリール及ヒマツトヘウスハ何事ヲ為シタルヤトライオンハ如何 (世)將軍ワインノ戰功ニ就テ何ヲ記述シタルヤ將軍ロビール及ビ將軍ソリバンノ戰功ハ如何 (世)將軍リンコルンハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ其結局ハ如何英兵サバンナヲ襲撃ス其結果ハ如何 (世)千七百八十年交戦ノ地ハ何州ヲ以テ最トシタルヤクリントンチヤイレストウンノ戰狀ヲ述フル如何南方ノ英軍ハ何人ノ督スル所ト爲リタルヤ (世)英兵ハ内地ノ諸州ヲ服セント欲シテ如何ナル處置ヲ施シタルヤ何事アリタルヤ (世)是時將軍リンコルンニ代リ南方屯在ノ米軍ヲ督シタル者ハ何人ソカムテンノ戰狀ハ如何 (世)渡來シタル佛國ノ海陸軍ハ如何ナルモノナリレヤ且ツ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (世)將軍アルノルド

ハ如何ナル背反ニ策ヲ行ハントシタルヤアルノルドニ就テ如何ナル事實ヲ記述シタルヤ其策ハ如何ニシテ敗レタルヤ (世)英將アンドルニ就テ何ヲ述ヘタルヤアルノルドハ如何ナリシヤ (世)千七百八十一年ノ戰狀ハ如何アルノルドハ何ヲ為シタルヤ (世)是時南方屯在ノ提督ニ任シタル者ハ何人ソコウベンスノ戰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (世)グレイルフォールド法衙ノ戰ハ如何カムデンニ於テ何事ヲ生シタルヤエウタウ、スプリングスノ戰狀ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (世)グレイルフォールドノ戰アリテヨリコルンワリスハ如何ナル進路ヲ取リタルヤ且ツ何レノ地ニ據リタルヤ (世)米軍ノ諸將相議シテ如何ナル處置ヲ行ハント欲シタルヤ終ニ何人ノ營ヲ襲撃スルニ決シタルヤヘンリー、クリントン援軍ヲコルンワリスニ遣ラント欲シテ遂ニ果サ、リシハ何ニ因テ然ルヤ (世)是時ワレントンハ如何ナル舉動ヲ爲シタルヤ (世)クリントンハ如何ナル處置ヲ施シタルヤコン子クチクットニ於テ何事アリタルヤ (世)ワレントンチエストルニ在テ如何ナル好報ヲ得タルヤ英佛兩艦隊ノ戰ハ其結果如何ナリシヤ當時ワレントンノ軍ハ其數

三三

幾許ナリシヤ (楚)米軍英兵ヲ襲フ其結果ハ如何コルンワリスノ休戦ヲ發言シタルハ何レノ時ソ其降俘ノ負數ハ幾許ナリシヤ (甲)國人此報ヲ聞キタル其狀如何兵士公會共ニ如何ナル言ヲ發シテ其恩ヲ謝シタルヤ (里)爾後如何ナル交戦アリタルヤ英國ノ内閣及ヒ英軍ノ將師ニ如何ナル更迭アリタルヤ假締和約ニ鈐印シタルハ何レノ時ナルヤ確定和約ヲ決締シタルハ何レノ時何レノ處ニ於テ何人ノ做シタル所ナリヤ (里)此役ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ之カ為メ大英ノ費シタル所ハ如何

第五章

(一)米軍ヲ解隊セントスルニ當テ如何ナル困難ヲ生シタルヤ米國公會ハ如何ナル方策ヲ用ヒタルヤ如何ニシテ兵士ニ報給ヲ與ヘタルヤ且ツ其狀況ハ如何 (二)武官ノ動搖セサリシハ何故ナリシヤ且ツ何ヲ以テ驚動シタルヤニウボルクノ營所ニ於テハ何事ヲ生シタルヤ (三)ワシントンハ此危急ニ方テ何ヲ為シタルヤ (四)其武官ニ向テ演述シタル所ハ如何ナル效驗アリシヤ米國公會ハ如何ナル處置ヲ行ヒタルヤ

(五)ワシントンハ如何ニルテ元帥ノ任ヲ辞シタルヤ (六)平和ヲ復スルノ後チ聯盟條規ニ遵ヒ如何ニシテ政体ヲ創立シタルヤ紙幣流通ノ狀況ハ如何 (七)兵士ノ俸券ハ其價幾許ヲ以テ賣買スルヲ得タルヤ其下落ニ因テ困難ヲ受ケタル者ハ何人ナルヤ (八)委員會同シテ通商條規ヲ制定シタルハ何レノ時ニシテ何レノ處ナルヤ且ツ如何ナル事ヲ為シタルヤ (九)代議士ノヒラデルヒアニ會シタルハ何レノ時ナルヤ衆議一決シテ國憲ヲ制定シタルハ何レノ時ナルヤ後チ之ニ就テ如何ナル處置ヲ施シタルヤ七州ノ批准ヲ經タルハ何レノ時ナルヤ當初之ニ同意セサリシハ何州ナリシヤ (十)衆望ノ歸スル所初任大統領ノ撰ニ當リタル者ハ何人ソ其ニウヨークニ赴キタル事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十一)其就位ノ大禮ヲ行ヒタルハ何レノ時ナルヤ其儀式ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十二)國人此舉ヲ以テ如何ナル感動ヲ生シタルヤ其資格ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ副統領ノ撰ニ當リタル者ハ何人ソ其他顯要ニ立チタル者ハ誰ナルヤ (十三)幾モナク國人如何ナル裨益ヲ覺知シタルヤ (十四)千七百九十年及ヒ千七百九十一年ニ於テオハイオ河以北ノ土蕃

ハ何人ト戦テ勝テヤルヤ遂ニ其土蕃ヲ破リテグリニビルニ盟ヒタル者ハ何人ソ (五)當時北亞聯邦更ニ又タ如何ナル難事ヲ生シタルヤ社會大半ノ民情ハ如何ナリシヤ (六)ワシントンノ政略ハ如何ナリシヤ (七)ワシントンノ政略ハ如何ナリシヤ (八)ワシントン將ニ其第二ノ任期ヲ畢ヘントスルニ臨テ何事ヲ做シタルヤ之ヲ嗣キタル者ハ何人ナルヤ (九)佛國ノ革命政府ニ於テハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ米國政府ハ如何ニシテ其事ヲ處シタルヤ後チ幾モナク何事ヲ生シタルヤ (十)ワシントンノ卒去ニ就テ何ヲ記述シタルヤ國人ノ之ヲ聞テ如何ナル感動ヲ生シタルヤ (十一)其死ヲ悼ムノ状ハ如何ナリシヤ (十二)聯盟政体ヲ立ツルノ日如何ナル政黨ヲ生シタルヤ後チ世間之ヲ名ケテ何ト曰ヒタルヤ其政黨ノ相異ナル所ハ如何ゼーノ議定シタル條約ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十三)アダムス職ニ在ルノ日如何ナル處置ヲ施シテ人心ヲ激昂セシメタルヤ千八百一年如何ナル變更ヲ生シタルヤ

第六章

(一)ゼツフェルソンノ第一任期ニ於テ施シタル處置ノ著大ナルモノハ

何ソロイニアナヲ得テ幾許ノ金額ヲ支出シタルヤロイニアナノ史記ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)ゼツフェルソンノ大統領ニ任シタル片是國ノ形勢ハ如何ナリシヤ政黨并ニ其再撰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三)英佛ノ戰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ是國ハ如何ナル影響ヲ蒙リタルヤ (四)千八百六年英國政府ハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ佛國ニ於テ發布シタル伯林令ハ如何ヲ公告シタルヤ英國ノ議決令ハ如何ナル影響ヲ生シタルヤボナバルテ發スル所ノ美蘭令ハ如何ナル旨意ナリシヤ (五)ゼツフェルソンハ如何ナル處置ヲ勸告シテ國會ノ採用スル所ト為リシヤ其方策ハ如何其影響ハ如何ナリシヤ何ヲ以テ之ニ代ヘタルヤ (六)北亞聯邦ノ商況ハ如何 (七)是國特ニ英國ヨリ如何ナル種類ノ損害ヲ受ケタルヤ且ツ此事ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (八)英國ニ於テハ如何ナル難問ヲ發シタルヤ其事ニ就テ何ヲ説話シタルヤ (九)英國ノ水手ヲ搜查スルノ習例ハ如何船ニ限リタルヤ米艦チエサビーキ號ノ襲撃ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (十)其暴行ヲ認メテ何ト為シタルヤ如何ナル處置アリシヤ (十一)ゼツフェルソンヲ嗣キタル者ハ誰ソマデソン就任ノ

初ノニ當リ何事ヲ生シタルヤジヤクソンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ナル軍艦ノ間ニ交戦アリシヤ (三) 千八百十二年五月ヲ以テ開議シタル國會ノ状態ハ如何マデソンハ何ヲ以テ開戦ノ要因ト為シタルヤ (三) 其議案ノ決議ハ如何其公告ノ後チ五日ヲ經テ何事ヲ生シタルヤ (五) 國人小數ノ此戰ヲ非トシタルハ何等ノ理由ヲ以テ然ルヤ國人概チ之ヲ以テ如何ト為シタルヤ (五) 如何ナル情况ヲ以テ開戦シタルヤ (六) 將軍ホールノカナダヲ伐チタル事ニ就キ何ヲ記述シタルヤ將軍バシ、レンセルレルハ何事ヲ為シタルヤ (七) 米軍ノ海戦ニ勝チタル事ニ就キ何ヲ述ヘタルヤ其勝戦ハ幾多ナリシヤ (六) 將軍ウインチエストルヲ破リタル者ハ何人ソ五百余人ノ俘囚ハ之ヲ如何ニシタルヤ (七) 將軍ピーキニ就キ何ヲ述ヘタルヤ參軍ドッドレーハ如何 (三) サツケツツ、ハーポールニ於テ英軍ヲ逐ヒタル者ハ誰ナルヤカナダノジョーヂ城ヲ抜キタル者ハ何人ソ尋テ何事ヲ生シタルヤ (七) ペルリノエリ湖ニ於テ戦功アリタル事ニ就テ何ヲ記述シタルヤ (三) 將軍ハルリソンハ何事ヲ為シタルヤ其戰ニ就テ何ヲ記述シタルヤ (三) ウルキン

ソン及ヒハンブトンハ如何ニシテカナダヲ伐ツノ軍備ヲ為シタルヤ如何ナル村落ヲ燬キタルヤ水師提督コックボルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五) 此年如何ナル海戦アリタルヤ (七) 千八百十四年ノ役ニ就テ何ヲ述ヘタルヤチツパワノ戰狀ハ如何ナリシヤテリツヂウオーターノ戰ハ如何 (三) ジョーヂプレボストハ如何ナル大軍ヲ將テプラッツボルクニ進向シタルヤチャンフライン湖上ノ英國水師ヲ督シタル者ハ何人ナルヤジョーヂプレボストヲ拒逐シタル者ハ何人ナルヤ其死傷ハ如何 (七) 將軍ロツス兵ヲ帥テパトキセント河畔ニ上陸ス其數幾許ナリシヤ其軍ハ何事ヲ成就シタルヤバルチモールヲ襲撃シタル者ハ誰ソ其結果ハ如何 (七) 如何ナル海戦アリタルヤ (七) 此戰ト歐洲ノ乱ト如何ナル關係アリシヤ和約ニ銓印シタルハ何レノ時ニシテ且ツ何レノ地ナルヤ (三) 正ニ此議ヲ開クニ方リ英軍ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ英軍ヲ拒却シタルハ何人ノカナナルヤ其死傷ハ如何 (七) 千八百十四年東北諸州ノ情况ハ如何マツサキセツツノ洲會ニ於テ何案ヲ提出シタルヤ如何ナル公會ヲ開キタルヤ其結局ハ如何 (七) ゲントノ盟

約ニ就テ何ヲ記述シタルヤ大英モシ再ヒ歐洲ノ乱ニ于與セハ何事ヲ  
 生スヘキヤ (三)交戦ヲ以テ國際上ノ争ヲ調定スルノ一法ト為シ以テ  
 何ヲ記述シタルヤ (四)マダソシテ繼キタル者ハ何人ナルヤ其再撰ニ  
 就テ何ヲ述ヘタルヤ (五)モンロー職ニ在ルノ日其國ノ形勢ハ如何  
 (六)フロリダノ版圖ニ入りタルハ何レノ時ニシテ且ツ幾許ノ金額ヲ出  
 シタルヤ (七)ミツソリ洲ノ版圖ニ入りタル事ニ就テ何ヲ述ヘタル  
 如何ニシテ其議案ヲ議決シタルヤ尋テ如何ナル公告ヲ發シタルヤ  
 (八)將軍ヲフエットノ來遊ニ就テ何ヲ記シタルヤ國會ノ之ヲ待ツ如何  
 ナリシヤ (九)モンローヲ繼キタル者ハ何人ナルヤ其大統領タラント  
 スル候補ハ何人ナリシヤ各幾多ノ投票ヲ得タルヤ (一〇)アダムスノ治  
 フ主ルニ當テ是國ノ情况ハ如何ナリシヤ其政略ニ就テ何ヲ述ヘタル  
 ヤ (一一)土蕃チエロキ族及ヒクリキ族ニ就テ何ヲ記述シタルヤ  
 (一二)土蕃ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ後マク何事ヲ為シタルヤ (一三)新  
 定海關稅則及ヒ保護稅法ノ旨意ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (一四)ジョニア  
 ダムス及ヒトーマスセツフェルソンニ就テ何ヲ説話シタルヤ

(一)アダムスヲ繼キタル者ハ何人ノ將軍ジャクソンハ何ヲ以テ特ニ著  
 ハレタルヤ (二)ジャクソンノ主治ハ何ヲ以テ著名ナルヤ如何ナル議  
 案ヲ排斥シタルヤ (三)ソウスカロリナニ於テ如何ナル舉動アリシヤ  
 (四)後チ大統領ジャクソンハ何事ヲ為シタルヤソウスカロリナノ知  
 州ハ如何ナル事ヲ行ヒタルヤ尋テ大統領ハ何等ノ處置ヲ施シタルヤ  
 (五)後チ何事ヲ生シタルヤ其結果ハ如何 (六)大統領ジャクソン再任  
 ノ後チ幾モナク何事ヲ為シタルヤドウン及ヒタン子一ハ如何ナル進  
 路ヲ取リタルヤ元老院ノ舉動ハ如何 (七)佛國ト如何ナル葛藤ヲ生シ  
 タルヤ佛國ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (八)ニウヨークノ火災ニ就  
 テ何ヲ記述シタルヤ (九)千八百十六年ニ至ルマテ北亞聯邦國債ノ額  
 ハ幾許ニ及ヒタルヤ盡ク之ヲ償却シタルハ何レノ時ナルヤ千八百三  
 十三年國庫中ニ幾許ノ剩餘ヲ生スルニ至リタルヤ (十)土蕃セミノ  
 ル族ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ此戰ニ就テ費シタル所ハ幾許ナリシヤ  
 (十一)ジャクソンヲ繼キタル者ハ何人ナルヤバンブレンニ就テ何ヲ述  
 ヘタルヤ (十二)商變ノ原因及ヒ其結果ハ如何 (十三)銀行ハ如何ナル舉動

ヲ為シタルヤ商業社會ノ情况ハ如何 (五) 政府ハ如何ニシテ共ニ其困難ニ陥リタルヤ大統領及ヒ國會ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ銀行ニ於テ再ヒ正金ノ支出ヲ爲スニ至リタルハ何レノ時ナレヤ (五) カナダノ叛乱ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ米人ニシテ之ニ與リタル者ハ如何ナルヤ將軍ハルリソンニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (七) ハーリソンノ撰擧ニ就テ何ヲ述ヘタルヤハーリソン卒スルニ及テ其任ヲ繼キタル者ハ何人ナルヤ大統領タイレルニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (六) 次田ノ開議ニ於テ國會ハ如何ナル法令ヲ議定シタルヤ大統領ハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ其結果ハ如何 (九) 千八百四十二年如何ナル法律ヲ議定シタルヤ且ツ之ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三) 北亞聯邦ノ東北境界ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ニシテ何レノ時之ヲ調理シタルヤ (四) タイレル職ニ在ルノ日其末後ノ處置ニ就テ其一ヲ擧ケヨテキサスヲ版圖ニ加ヘタルハ如何ナル方法ト投票トニ由リタルヤ (三) タイレルヲ繼キタル者ハ何人ソ其撰擧ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (三) ポークヲ扶掖シタル政黨ハ銳意以テ如何ナル處置ニ左祖シタルヤ大統領ハ如何ナル進路ヲ取り

タルヤ (五) 西北ノ國境ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ如何ニシテ其事ヲ定メタルヤ (五) 大統領ノ勸諭ニ從ヒ如何ナル稅則ヲ議決シタルヤ (其) 墨西哥ト兵ヲ構ヘタルハ何ニ起因セルヤテキサスニ就テ何ヲ記述シタルヤ墨西哥ノ公使ハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤ (七) テキサスノ境界ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ各黨ノ相争ヒタル境界ハ何レナルヤ其地ニ於テ何事ヲ為シタルヤ後チ又タ何事ヲ做シタルヤ (九) 千八百四十六年三月將軍タイロルハ兵ヲ帥テ何レノ地ニ在リタルヤ何レニ向テ進軍スヘキ訓令ヲ受ケタルヤ尋テ如何ナル進向ヲ爲シタルヤ (三) 聚團シタル墨兵ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ四月廿四日將軍アリスタハ何事ヲ為シタル其日マタ何事ヲ生シタルヤ (七) 後チ數日ヲ出テスレテ墨兵ハ將軍タイレルト何事ヲ爲シタルヤ其結局ハ如何 (七) パロウアルトノ戰ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其死傷ハ如何 (三) 明日何事ヲ生シタルヤ尋テ又タ何事アリシヤ (五) 兵總ソレントンニ在テ敗ル國人之ヲ聞テ如何ナル感覺ヲ生シタルヤ大統領ハ如何ナル處置ヲ施シタルヤ國會ハ如何ナル投票ヲ以テ其議案ヲ議決シタルヤ (五) 國人此戰

ヲ以テ非トシタル事ニ就キ何ヲ述ヘタルヤ代議院ニ於テ如何ナル決  
議ヲ行ヒタルヤ (癸) 將軍タイロルノ軍ハ如何ニシテ其數ヲ加ヘタル  
ヤ如何ナル處置アリタルヤ (丑) モンローノ攻撃ニ就テ何ヲ述ヘタ  
ルヤ (卯) 之ヲ襲撃シタルハ何レノ時ナルヤ其結局ハ如何尋テ何事ヲ  
生シタルヤ (辰) 將軍サンタアンナニ就テ何ヲ述ヘタルヤ其果シテ如  
何ナル進路ヲ取ランノ期望シタルヤ何事ヲ爲シテ如何ナル結果ヲ  
生シタルヤ (巳) 當時米國政府ハ決然如何ナル進路ヲ取リタルヤ元帥  
ニ任シタル者ハ何人ナルヤ (庚) 將軍タイロルノ決定シタル休戦ノ事  
ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ將軍スコットノ舉動ハ  
如何 (辛) 是時將軍タイロルハ何事ヲ做シタルヤ幾モナクタイロルハ  
何ヲ覺知シタルヤ是ニ於テタイロルハ如何ナル舉動ヲ爲シタルヤ  
(壬) バウナピスタノ戦ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ兩軍ノ死傷ハ幾許ナリシ  
(癸) 將軍スコットベラクリウズヲ攻撃ス其情況并ニ結局ニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ (丑) 後チ米軍如何ナル進路ヲ取リタルヤセルロゴルドニ於  
テ何事ヲ生シタルヤ (卯) 其進撃ノ結果ハ如何墨米兩軍ノ死傷ハ如何

(辰) セルロゴルドノ勝戦ニ尋テ何事アリタルヤ其軍狀ニ就テ何ヲ述  
ヘタルヤ (巳) 將軍スコットハ何レノ時如何ナル兵ヲ帥テホーヲ發  
シタルヤ如何ナル二戦アリタルヤコントレラスノ戦ニ就テ何ヲ述ヘ  
タルヤチユルブスコノ戦ハ如何將軍スコットハ米軍ノ戦功ニ就テ何  
ヲ陳ヘシタルヤ (辛) 其戦勝ノ影響ハ如何是ニ於テ如何ナル進路ヲ取  
リタルヤ (壬) トリストニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツトリストハ何事ヲ  
爲シタルヤ其結局ハ如何尋テ何事ヲ生シタルヤ (癸) 次日如何ナル交  
戦アリタルヤ兩軍ノ死傷ハ如何 (丑) チヤナルテピツク城ノ攻撃ニ就  
テ何ヲ述ヘタルヤ後チ米軍ハ何事ヲ爲シタルヤ (卯) 是ニ於テ墨米兩  
軍ハ何事ヲ爲シタルヤ (辰) 以上ノ諸戦ニ於テ將軍スコットノ兵ハ其  
死傷總計幾クナルヤ墨西哥ノ國都ヲ拔キタル米軍ノ數ハ幾許ナリシ  
ヤ (巳) 將軍ケル子ハ如何ナル征軍ヲ督シタルヤ (庚) 其進軍并ニ侵  
略ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ是ニ於テケル子ハ如何ナル舉動ヲ爲シタ  
ルヤ (辛) 參軍ドニハンニ就テ何ヲ記述シタルヤプラントノ戦ハ如何  
(壬) サクラメントノ猛路ニ於テ何事ヲ生シタルヤ尋テ何事アリタル

ヤ (堯) 參軍フレモントニ就テ何ヲ説話シタルヤ墨西哥ト猶ホ兵ヲ交  
 エルヲ聞キタル片何事ヲ為シタルヤ (卒) 將軍スコット墨都ヲ略スル  
 ノ後チ幾クモナク何事ヲ做シタルヤ其結局ハ如何 (空) 墨西哥ヨリ何  
 州ヲ北亞聯邦ニ割與シタルヤ其ノ地ノ幅員ハ如何 (空) 北亞聯邦ヨリ  
 幾許ノ金額ヲ墨西哥ニ交付スルノ約ヲ締ヒタルヤ (空) 金坑ノ發見ニ  
 就テ何ヲ述ヘタルヤ尋テ何事ヲ生シタルヤ (空) 其戰ノ次第及ヒ結果  
 ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ國人如何ナル好結果ヲ期望シタルヤ (空) ポー  
 クヲ繼キタル者ハ何人ナルヤ將軍タイロル及ヒ其撰擧ニ就テ何ヲ述  
 ヘタルヤ (空) 大統領タイロルノ卒去ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ且ツ其任  
 ヲ繼キタル者ハ何人ナルヤ (空) フォーモリア就任ノ後チ幾モナク  
 如何ナル重大ノ法令ヲ議定シタルヤ (空) 脱奴ノ交付ニ關シ如何ナル  
 法令ヲ發シタルヤ (空) 將軍ロベツニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (空) 大統領  
 フォーモリアハ何事ヲ為シタルヤ (空) 其外征ニ就テ何ヲ記述シタ  
 ルヤロベツ及ヒ其徒ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (空) フォーモリアノ主  
 治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

第八章

(一) フォーモリアヲ繼キタル者ハ何人ノ其撰擧ニ就テ何ヲ述ヘタル  
 ヤ大統領ピールス就任ノ演説ハ如何 (二) 墨西哥ノ役畢ルノ後チ如何  
 ナル出征アリタルヤ (三) 其出征及ヒ其目的ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ  
 (四) 其首唱者ノ特ニ名アル者ハ何人ナルヤ以上諸出征中ソノ最モ大ナ  
 ルモノハ何ソ (五) ウォーケルノ末後ノ出征ハ如何 (六) 第三十四回ノ  
 國會ニ於テ議長ノ撰定ニ就キ何ヲ説話シタルヤ (七) オステンドニ於  
 テ如何ナル公會ヲ開キタルヤ如何ナル動議ノ提出アリタルヤ之ヲ以  
 テ如何ナシタルヤ (八) 大統領ピールス在職ノ日如何ナル二大處置ア  
 リシヤ (九) カンサス及ヒ子ブラスカノ二域ヲ編成スルノ議案ニ就テ  
 何ヲ記述シタルヤミツソリー議和令ニ關シテ其議案ノ影響ハ如何  
 (十) 此議案ノ問題ト為リタルヲニ就テ何ヲ述ヘタルヤニウエングラン  
 ドノ僧侶ハ何事ヲ為シタルヤ如何ナル決議ヲ以テ此議案ヲ定メタル  
 ヤ (十一) 自由諸州ニ於テハ此舉ヲ以テ如何トシタルヤ是ヨリ終ニ何事  
 ヲ生シタルヤ (十二) 此法令ヲ議定スルノ後チ幾モナク何事アリタルヤ



其他南部諸州ニ就テ何ヲ記述シタルヤソウス、カロリナハ如何ナル進路ヲ取リタルヤ (甲)其他ソウス、カロリナノ舉動ハ如何 (乙)分離諸州ノ代議士ハ何レノ時ヲ以テ何レノ處ニ會シタルヤ且ツ如何ナル處置ヲ施シタルヤ如何ナル州ヲ名ケテ盟邦ト曰ヒタルヤ (丙)千八百六十年三月四日何事アリタルヤ (丁)叛乱ハ何レノ時ヲ以テ其端ヲ發キタルヤ其情況ハ如何 (戊)大統領リンコルンハ何事ヲ為シタルヤ

第九章

(一)分離ノ事ニ就テ何ヲ述ハタルヤ其分離シタルハ何州ナルヤ (二)分離諸州ニ於テハ政府ヲ設クルニ如何ナル準備ヲ為シタルヤ其首要ノ官吏ハ何人ナルヤ (三)媾和公會ニ於テ何事ヲ為シタルヤ盟邦委員トハ何ソ (四)リンコルンノ就任及ヒ其演說ニ就テ何ヲ述ハタルヤ (五)北部政府ノ困難ヲ來シタルハ如何ナル事情ナリシヤ (六)ソンドル城攻撃ノ形況ヲ示セ (七)其報ノ北部諸州ニ達シタルヤ如何ナル影響ヲ生シタルヤ初戦ハ如何 (八)四月賊兵ノ舉動ハ如何官兵ハ如何 (九)六月ヨリ七月ニ至リ如何ナル交戦アリタルヤ如何ニシテ西部ヨリ

ニアラ安固ナラシメタルヤ (十)マナツサス即チビウレランノ戦狀ヲ述ヘヨ (十一)其戦ノ影響ハ如何其他ボトマツク河畔ニ於テ如何ナル戦アリシヤ (十二)ソソリノ分離ニ就テ何ヲ述ハタルヤ其地ニ於テ如何ナル戦アリシヤウイルソンズ、クリキーノ戦及ヨ其終局ハ如何 (十三)千八百六十一年ノ海戦ハ如何且ツ如何ナル外征アリシヤ (十四)如何ナル戦備ヲ為シタルヤ (十五)千八百六十二年ノ早春賊兵ノ員數及ヒ其狀態ハ如何 (十六)官兵ノ員數及ヒ其狀態ハ如何且ツ如何ナル海戦ノ備アリタルヤ (十七)アルンサイドノ出征ハ如何且ツ何城ヲ拔キタルヤ (十八)メルマツク號及ヒモントル號ノ情況ヲ述ヘヨ (十九)千八百六十二年ノ春マツクレランノ進軍ハ如何ノルヲオルクヲ拔キタルハ何レノ時ナルヤ (二十)ハイアオークノ戦ハ如何マツクレランハ何故ニ其本營ヲ變更シタルヤ (二十一)七日ノ戦ハ如何且ツ何レノ時何レノ處ニ於テシタルヤ (二十二)尋テ何事ヲ生シタルヤ (二十三)ポーノ退軍セルヤ如何ナル戦アリタルヤ其結局ハ如何 (二十四)リノ侵入ニ就テ何ヲ述ハタルヤアインチエナムノ戦ハ如何 (二十五)ヌチユアルトノ攻城ハ如何ナリシヤ且ツ

其年月ヲ問フフレデリックスボルグニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (其) 西方諸州ニ於テハ如何ナル勝戦アリシヤ其結局ハ如何 (其) シローノ戦状ハ如何コリンズノ環攻ハ如何 (其) 賊兵セントキーヲ復セント欲シテ如何ナル事ヲ為シタルヤイウカノ戦ハ如何グラント及ヒセルマンハ何事ヲ為シタルヤモールフリースホロウノ戦状ヲ述ヘヨ (其) ビスリツヂノ戦并ニ第十号島ノ圍ハ如何尋テ何事ヲ生シタルヤ (其) ニウオルレーンズヲ略取シタル情况ハ如何 (其) 政府ハ何ニ依リテ戦備ヲ張りタルヤ其年末ノ形況ハ如何版圖ニ入りタルモノハ何州ナルヤ (其) 放釋令ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ役奴ノ事ニ就テ其他如何ナル發令アリシヤニウヨークノ暴動并ニ抽籤ノ實行ハ如何 (其) カンセルロルスビー  
ルノ戦ニ就テ何ヲ述ヘタルヤストウンマンノ侵略ハ如何 (其) リーノ第二回侵入ハ如何ゲソツボルグノ戦并ニモルダンノ侵略ハ如何 (其) 賊兵ノルスカロリナヲ復セントス其影響ハ如何チヤーレストウンノ攻撃ハ如何 (其) アルカンサスノ營所ニ就テ何ヲ述ヘタルビソグスホルグヲ抜カント欲シテ遂ニ果サズ其状如何グラント終ニ其後部ノ地

位ヲ保安スルヲ得タリ其状如何ナリシヤグリーンソンの侵略ハ如何 (其) ビツグスボルグノ攻城及ヒ其投降ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (其) セクランズノ進軍ハ如何チカモীগノ戦ハ如何 (其) グラントハ何事ヲ為シタルヤカッタノーガノ周圍ニ如何ナル戰アリタルヤクノツキスピールニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (其) 官兵ハ如何ニシテアルカンサスヲ復シタルヤ將軍バンクハ何事ヲ為シタルヤホドソン港ノ圍ハ如何 (其) 千八百六十三年海軍ノ状態ハ如何 (其) 第三十七回ノ國會ニ於テ何事ヲ為シタルヤ戦状ハ如何ナリシヤ (其) セルマンメリチアンヲ征ス其状如何フロリダノ征伐ハ如何 (其) 紅河遠征ノ記事ヲ問フ (其) 將軍スチールノ舉動ハ如何フォルレストノ侵略ハ如何ノルスカロリナノプライモースハ如何 (其) 千八百六十四年ノ二大軍トハ何ソ其分隊及ヒ將校ヲ問フ (其) 如何ナル進撃ノ計畫アリタルヤグラントノ進撃ハ如何及ヒ其結果ヲ問フ (其) 將軍ホットルニ就テ何ヲ述ヘタルヤバートルスボルグノ圍ハ如何其間如何ナル交戦アリタルヤ (其) ラインヂボルクノ攻撃ハ如何賊兵第三ノ侵入ハ如何 (其) 將軍セルマンアト

ラシタニ進軍ス其状如何アトランタノ圍ハ如何フード及ヒセルマンノ進軍ハ如何 (至)セルマンノ向海進軍トハ何ソ (至)フランクリンノ戰ハ如何ナスビルノ攻撃其他各地ノ侵略ハ如何 (至)海戦ハ如何アハルラガツトモビルルバーニ戰テ功アリ其記事如何フルラガツトハ如何ナル新官ニ任シタルヤ (至)賊艦ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (至)リンコルンノ復讐ハ如何千八百六十四年ノ末ニ至リ國勢如何 (至)千八百六十五年ノ戦備ハ如何將校ノ更迭ハ如何 (至)ウイルミントンヲ略取シタル情况ヲ述ヘヨ (至)將軍セルマンサバンナヲ發シテゴルツホロウニ進軍ス其状如何 (至)セリダンハ如何ナル舉動ヲ為シタルヤグラランドノ兵ハ何レニ在リタルヤリチモンドノ攻撃ハ如何末後ノ交戦ハ如何リーノ投降ハ如何 (至)セルマン及ヒジョンストンノ舉動ハ如何ジョンストンノ投降ハ如何 (至)ウイルソンアラバーニ在テ何事ヲ為シタルヤモビルルヲ略シタル情况ヲ述ヘヨ南西地方ニ於テ降リタル者ハ何人ナルヤ終局ノ戰ハ何レニ於テアリタルヤ (至)リンコルノ卒去ハ如何其人ト為リ及ヒ國人ノ之ヲ歎惜シタル情况ハ如何 (至)リンコル

ンヲ繼キタル者ハ何人ナルヤ大統領ハ先ツ何事ヲ為シタルヤゼツフエルソンダビスノ就縛ハ如何國憲ノ追捕ハ如何平和ヲ公告シタルハ何レノ時ナルヤ (至)英佛二國ノ我ニ對スル交誼ハ如何英國ト隙ヲ生シタルハ何ニ起因スルヤ (至)賊地ノ境ニ接シタル戰狀ハ如何俘囚及ヒ救恤義會ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (至)軍費ノ幾許ナリシヤ如何ニシテ其金ヲ募リタルヤ郵券通貨綠背及ヒ國立銀行トハ何ソ金貨ノ利子ハ幾許ニ達シタルヤ (至)海陸軍ノ兵員ハ如何其死傷ハ幾許ナリシヤ戰技ノ改良ハ如何 (至)叛乱ノ結果ヲ問フ

諸表

北亞聯邦史

初開ノ新疆ニ就テ其二三ヲ示セ ビルヂニアヲ開キタルハ何人ニシテ何レノ時ナルヤニウヨク等ハ如何巴里ノ和約及ヒ佛乱ノ終局ハ何レノ時ナルヤ 革命ノ乱ハ何レノ時ヲ以テ其端ヲ發キタルヤ平和ヲ復シタルハ何レノ時ソ國憲ヲ制定シタルハ何レノ時ソ 北亞聯邦初任ノ大統領ハ何人ナルヤ之ヲ繼キタル者ハ何人ソワシントンノ大

統領ニ任シタルハ何レノ時ソ アダムス等ハ如何

革命紀事

證印。稅法ヲ議決シタルハ何レノ時ナルヤ初メテ大洲公會ヲ開クノ前  
其他何事アリタルヤ 革命ノ亂ハ何レノ時ヲ以テ起リタルヤ 其年  
マタ何事アリシヤ獨立ノ公告ハ何レノ時ヲ以テ之ヲ發布シタルヤ  
千七百七十六年千七百七十七年千八百七十八年千八百七十九年千七  
百八十年及ヒ千七百八十一年ニ於テ如何ナル戰アリシヤ サラドガ  
ノ投降ハ何レノ時ソヨークトウンニ於テハ如何英國ト和親シテ獨立  
ノ公認ヲ得タルハ何レノ時ナルヤ

改進年表

新疆中初メテ大學校ヲ設立シタルハ何レノ時ニシテ何レノ地ナリシ  
ヤ其他第十七世紀ニ至リ如何ナル大學校ノ設立アリシヤ 活版印行  
ノ術新疆ニ傳ハタルハ何レノ時ニシテ何レノ地ナリシヤ 初メテ新  
聞紙ヲ發行シタルハ何レノ時ニシテ何レノ地ナルヤ 初メテ醫學校  
ヲ設ケルハ何レノ時ニシテ何レノ地ナルヤ 初メテ四頁製本ノ聖書

ヲ印行シタルハ何レノ時ニシテ何レノ處ナルヤ北亞聯邦ノ第一民籍  
表ハ何レノ時之ヲ製シタルヤ 初メテ汽船ヲホドソン河流ニ泛ヘタ  
ルハ何レノ時ソエリ及ヒオハイオノ運河ハ何レノ時ヲ以テ竣工シ  
タルヤ 數條ノ鐵道ヲ開業シタルハ何レノ時アルヤ 電信機ヲ用フ  
ルニ至リタルハ何レノ時ソ

米國名士表

第十七世紀及ヒ第十八世紀ニ於テ表中載ル所ノ人名中英國ニ生レタ  
タル者多シ何人ナルヤ 或ハ武人ニシテ政事家ヲ兼ヌル者アリ或ハ  
政事家ニシテ又タ雄將ノ名アル者アリ何人ナルヤ 第四欄内ニ載録  
スル者ハ理學士文學士醫學士史家詩人及ヒ技手等ナリ誰ナルヤ

北亞聯邦民籍表解説

元始ノ十三州トハ何ソ之ニ加ハリタル洲ハ何ナルヤ 千七百九十年  
ヨリ千八百六十年ニ至ルマテ是國ノ人口ハ増加シテ幾許ヨリ幾許ニ  
至リタルヤ 其同年間ニ於テ奴隸ノ増加シタル數ハ如何 其人口ノ  
二倍ニ達シタルハ幾年ノ間ナリシヤ 千七百九十年及ヒ千八百六十

年國中郵信局ノ數ハ幾許ナリシヤ 北亞聯邦ニ於テ始メテ旅客ヲ搭  
載シタル大鐵道ハ何レノ時ヲ以テ之ヲ開キタルヤ 千八百五十九年  
開業鐵道ノ哩數ハ幾許ナルヤ

### 年代學

年代學トハ何ソ紀元ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (一)希臘人ハ年代ヲ計算  
スルニ何ヲ以テシタルヤ四年期ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (二)羅馬人ハ  
如何ニシテ年代ヲ計算シタルヤ其紀年ハ何ヲ以テ命名シタルヤ (三)  
耶穌紀元ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ各種ノ計算法ニ從ヘハ耶穌ノ降世ハ  
輿地年數ノ第幾年ナルヤ英國ノ文學社會社ニ於テ通常何年ヲ以テ紀  
元ト為スヤ年ヲ計フルニ耶穌紀元ヨリ起算スルハ何レノ時ニ起リタ  
ルヤ羅馬年度即チゼリウスセーサル定ムル所ノ年數ニ就テ何ヲ述ヘ  
タルヤ千五百八十二年ニ至リ年月ニ幾多ノ差異ヲ生スルニ至リタル  
ヤ羅馬教王グレゴリー第十三世ハ如何ナル事ヲ為シタルヤ英國ニ於  
テ始メテ新曆ヲ用ヒタルハ何レノ時ナルヤ是ニ於テ如何ナル變化ヲ

生シタルヤ (四)回教紀元ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ (五)是國ニ於テ耶穌  
紀元ニ亞テ廣ク用フル所ノ紀元ハ如何ナルモノソ

### 聖史

聖書中史記ニ屬スル部分ハ首トシテ何ヲ論述セルヤ其他イスレール  
ス族ノ古史ニ就テ首要ノ材料ト為ル可キモノハ何ソ舊約全書ノ史編  
ハ何レノ時代ヲ以テ其局ヲ結フヤ イスレールス族ノ系統ニ就テ何  
ヲ述ヘタルヤ何故ニ之ヲ名ケテヘブリウス族イスレールス族及ヒ  
ジウス族ト曰フヤ 其埃及ニ在リタルヲニ就キ何ヲ記述シタルヤ  
其曠野ニ彷徨シタルハ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ 倡領ノ之ヲ治メ  
タルハ幾年間ナリシヤ 王政ノ隆盛ヲ極メタルハ何レノ時ナルヤ  
猶太ノ王位ハ幾年ノ間ダビッドノ族統ニテ繼承シタルヤ イスレ  
ルス族ノ拜像ノ教ニ歸依シタル事ニ就キ何ヲ述ヘタルヤ 十族ノ史  
記及ヒサルメンセルノ之ヲ俾ト為スノ事跡ニ就キ何ヲ述ヘタルヤジウ  
ス族ノ巴比倫ヨリ歸リタルハ何レノ時ナルヤ 後チ之ヲ治メタル者  
ハ何人ナルヤ其羅馬人ノ治下ニ屬シタルハ何レノ時ゾゼルセルムヲ

破毀シタルハ何レノ時代ナルヤ

以色列及猶太王國年表

以色列王國ノ分裂セサルモノ幾年ノ久シキニ及ヒタルヤ猶太王國ノ  
存立ハ幾年ナルヤ ソウル及ヒ其施治ニ就テ何ヲ述ヘタルヤダビツ  
ト并ニソロモンハ如何 ソウル及ヒダビツト等ノ治世ハ幾年間ナリ  
シヤ猶太ノ初王ハ何人ナルヤ其末王ハ誰ナルヤ レホボーム及ヒ其  
治世ニ就テ何ヲ述ヘタルヤアバシヤ等ハ如何 紀元前千百年ヨリ千  
年ニ至ルノ間ニ於テ預言者ノ著名ナルモノハ何人ソ 其千年ヨリ九  
百年ニ至リ九百年ヨリ八百年ニ至ル等ノ年代ニ於テハ如何

以色列即チ十族王國年表

以色列王國ノ存立ハ幾年ナリシヤ 其初王并ニ末王ハ如何 セロボ  
ーム第一世ノ施治ハ幾年間ナリシヤゼロボーム及ヒ其治世ニ就テ何  
ヲ述ヘタルヤナダブ等ハ如何 十族ノ俘ト為リテヨリ以後ノ事跡  
ニ就テ何ヲ述ヘタルヤ

近世史記年表

此表ハ近世史中最モ重大ナル紀年ノ二三ヲ示スニ過キス其各國興亡  
ノ年月ニ至テハ宜シク沿革表ニ就テ之ヲ考明スベシ  
歐亞新帝國ノ開創等ノ如キ其年月ハ如何 第九世紀及ヒ第十世紀以  
下ニ於テ如何ナル事跡ヲ記述シタルヤ

事物創始年表

火藥ノ創製ハ何レノ時ナルヤ活版印行ノ術ハ如何太陽系望遠鏡對數  
表蒸氣機鐵道電信機ノ發明ハ何レノ時ソ  
第十世紀及ヒ第十一世紀以下ニ至リ如何ナル發明若クハ改良アリタ  
ルヤ

明治十五年八月廿八日版權免許  
同十九年一月廿一日製本改御届  
同 年二月二十日出版

愛媛縣士族

和久正辰

東京橋區銀坐四丁目三番地

東京府平民

松井忠兵衛

全芝區紫井町十六番地

全 島屋 鹽島一介

全日本橋區西國町三丁目

全 瑞穂屋 清水卯三郎

全全本町三丁目廿番地

賣捌書肆

九家善七

伊東德太郎

和泉屋市兵衛

須原屋茂兵衛

山城屋佐兵衛

金港堂

柳川梅治郎

博聞本社

東生龜次郎

栗田信太郎

枕屋喜兵衛

大倉孫兵衛

東

京

東

京

小林新兵衛

内田彌兵衛

文學社

吉川半七

和泉屋吉兵衛

和泉屋善兵衛

和泉屋孝之助

西宮松之助

有隣堂

須原鐵二

東

中近堂

免屋誠

巖々堂

開新社

秩山堂

法木德兵衛

梅原龜七

川勝德治郎

田中治兵衛

常野嘉兵衛

京

大阪

今

西京

函館